

国際理解 第 6 号

1 9 8 9



Around the World Program

AMERICAN GEOGRAPHICAL SOCIETY

The Village in the Twentieth Century Japan

米国の日本イメージ

岡山県国際理解教育研究会

目次

ごあいさつ	村瀬俊一	1
ごあいさつ	佃幸男	3
ごあいさつ	植木利男	5
世界の日本人学校から		
1. 私達のモスクワ生活	土屋丹	10
2. 中米のスイス「コスタリカ」	山田羊平	13
3. 在外教育施設としての日本人学校	有吉捷郎	17
4. 建国二百年を祝うオーストラリア	赤木寛	20
5. 台湾からこんにちは	片山主計	22
6. ソウルでの生活	三宅義廣	26
7. 海外短信		29
世界の国々に学ぶ		
1. ゆっくりと、マイペースで——アルゼンチンの人々	佐川慶三	36
2. 台湾の生活を振り返って	西岡忠	41
3. 考え続けたこと	岡本善弘	46
4. ロンドン日本人学校の修学旅行	難波朱美	50
5. 先生の西洋見聞録	三宅詠子	55
6. 台湾の高雄 お国がら	浅尾豊	62
7. タイ人から見た日本人		69

子供のための世界の国ぐに

1. 「北京」ってどんな街	渡辺 光	78
2. 子供のためのヴェネズエラの歴史	難波 勢津子	89
3. サウジ・アラビア	神田 進	98
4. 子供のためのメソポタミアの旅	市原 誠二	108
5. ブラジル	守屋 俊憲	121
6. 韓国との交流	鈴木 秀樹	129
7. みどりのベナン島	安部 町江	136
8. ポーランド点描	村瀬 憲正	144
9. パキスタンという国について	藤木 靖史	151
10. ギリシャの子どもへ質問します	徳田 真人	156
11. 「寶石の島」	沼本 泰知	164
12. Favourite Stories From Asia	井関 繁孝	174
座談会「国際理解における帰国教師の役割」	乗峯 憲悟	175
第四回国際フィルム映像鑑賞会を終わって	渡辺 光	182
全国国際理解教育研究大会（第十五回）報告		185
事務局だより		187
海外派遣者名簿（帰国者）		189
現派遣者名簿		191
役員名簿		192
本会会則		193

ご挨拶



会 長 村 瀬 俊 一

私たちの「国際理解」も第六号にまで成長しました。人間の年令にたとえれば小学校へ入学する年で、大変嬉しい気がします。

海外子女教育のために派遣された海外での教育や生活のようすや、海外から見た日本の姿について、会員の方々の貴重な体験を、順次掲載してきましたが、第五号からは小中学生のための国際理解教育に役立つ資料としてのページも設け、内容に幅ができてきたと思っています。子どものための資料ですが、三年間じっくり腰をすえて見てきただけあって一般の方にとっても、充分満足いただける内容だと自負しております。

岡山県から海外へ派遣された私たちの仲間、年々ふえて、現在（一九八八年十一月）派遣中の者二七名（内一名は再派遣）合計八二名となりました。次々と新しい教育体験とともに、世界各国のなまの様子が、私たちの「岡山県国際理解教育研究会」に届けられ、「国際理解」もますます充実してくるものと思います。

本書は私たちと共通の目的をもつ関係機関や学校にお送りしておりますが、まだまだ知名度も低

く宣伝も充分とは申せません。そこでお読みいただけた方をお願いしたいのですが、お知り合いの方へ本書をお奨めいただきたいことと、お読みになってのご質問やご感想を、是非とも私たちの会へご連絡いただきたいと思います。それによって、本書の内容を更に向上させるよう努力したいと考えております。

最後になりましたが、本書の刊行をご援助くださいました、財団法人・福武教育振興財団を始め、広告を頂いた各社にお礼を申しあげますとともに、多忙な教職の時間をお割きくださって本書に寄稿くださいました会員各位に感謝申しあげます。

国際化の視点について

—御挨拶にかえて—



岡山県教育センター所長

佃

幸男

日本は国際化時代を迎えたといわれている。国際化という言葉が日常目に触れない、そして耳にしない日はないと思われる。しかし、国際化の意味についてはっきりした定義がなされていないのが現状である。臨教審の第三次答申でも「国際化は元来一つの完結された状態と観念すべきではあるまい。事実、国際化の具体的内容は時とともに変化するものであり、今日の与件の中での対策は、明日にはすでに時代遅れとなっていくよう。国際化とは、その本質について絶えず反すうしつつ、それに到達すべく日常的な実践を積み重ねる過程としてとらえられなければならない。」と述べている。完結した状況があるのではなく、禅の公案のように、次々に追求し積み上げて内容を深めていくものではないだろうか。あまりいい意味で使われていないようであるが、経済大国といわれる今日の日本の現状からすれば、日本の国際化とは、経済的な分野に限らずさまざまな分野において国際的な貢献をすることであると考えられる。そうした意味での国際化時代には、どのような人間が期待されるのか。高橋展子・元デンマーク大使は、国際公務員を例にとりながら国際社会に通用する日本人の育成という点について、「国際公務員というのは、根なし草的なコスモポリタンであっ

てはならない。反対に、自国の文化や歴史、考え方について十分な理解をもち、かつそれを人類全体の利益の中に統合していく能力をもつ人々こそ国際機関は求めるのです。……ところで、日本をよく知り、日本人としての視点をしっかりとつということは、何も国際機関に勤務する場合に限らないことです。すべて国際社会に参加する——有意義に参加する——というときに大切なことです。日本人という立場をしっかりとふまえて外国の人と協調してゆくこと、これが本当の国際人ということだと思います。」と述べておられる。明治維新の時、そして太平洋戦争敗北直後の時も、ある意味での国際化はあったが、それは欧米中心のしかも受信するのみであった。しかし、これからの国際化は、受信のみならず発信もできなければならないのである。この点がどちらかといえば外来文化の摂取に終始した従来の日本にない一つの視点である。したがって、国際社会を生きる日本人とは、文化相対主義の立場をふまえつつ、日本の文化・伝統を深く理解し、それを尊重する人間でなくてはならない。これがこれからの国際化の時代を生きるために、まず必要とされる資質ではないだろうか。国際化ということが、皮相的な理解に終わらないよう望みたいものである。

ごあいさつ



岡山県立総社南高校長 植 木 利 男

本校は昭和六十一年四月に開校した、いわゆるニュータイプの、全県を学区とする普通科高校です。人文、理数、国際、情報、美術工芸という五つのコースを持ち、その上大幅な選択制を採用入れて、生徒各自の個性の伸長を図り、併せて多様化する社会にも対応できるような配慮と工夫がなされている高校です。このような性格を持つ本校の新設は、単に生徒急増対策という量的な解消にとどまらず、質的にも新しい教育の理念を目指すものとして厳正に受けとめています。現在、一四五〇名の生徒と九四名の教職員が一体となって、新しい校風と伝統の創造に日夜邁進しているところです。

ところで、教育における国際化という課題は、今回の教育改革の一つの眼目でありました。今後私たちは、日本文化のよき伝統を確実に身につけて主体性を確立するとともに、多様な異国の文化をも受容して、外国の人たちとの交流を深めなくてはならない状況に置かれています。これは国際コースを設置する本校はもちろんのこと、すべての教育の場の責務であると私は考えています。こうした観点から、本校では毎年一か月の業者主催によるホームステイに参加しています。語学力等

の点では多少不安のある一年生対象ですが、特別な指導をして送り出しており、参加した生徒たちはそれぞれ貴重な体験を得ています。そしてまた、彼等が帰った体験は、そのまま家庭や教室、ひいては学校全体の国際理解や国際交流に直結してきます。加えて、国や県教委の配慮により、開校当初より英語指導助手が配置されていて語学教育の一翼を担っており、さらにはアメリカ、オーストラリアからの留学生、海外帰国生徒も受け入れていて、学校に外国の人がいるという違和感は全くありません。生徒や先生は、ごく普通にAETや留学生と話し、中には家族ぐるみの交流もあります。一昔前の高校では考えられなかった変容ですが、しかし、教育の本道である個性の伸長ということは豪もゆるぎはいたしません。県下各地から陸続として集って学ぶ若者たちの、やがて活躍する時代がしきりに
 楽しいな昨今です。



(夏に行う英語合宿ゼミの一風景)

世界の日本人学校から

現派遣者のレポート

1. 私達のモスクワ生活-----土屋 丹
(ソビエト連邦・モスクワ日本人学校)
2. 中米のスイス「コスタリカ」-----山田 羊平
(コスタリカ・サンホセ日本人学校)
3. 在外教育施設としての日本人学校-----有吉 捷郎
(タイ・バンコク日本人学校)
4. 建国200年を祝うオーストラリア-----赤木 寛
(オーストラリア・シドニー日本人学校)
5. 台湾からこんにちは-----片山 主計
(台湾・台中日本人学校)
6. ソウルでの生活-----三宅 義廣
(大韓民国・ソウル日本人学校)
7. 海外短信

私達のモスクワ生活

ソビエト・モスクワ日本人学校

岡山市立中山中学校 土屋 丹

モスクワ日本人学校

私達のモスクワ日本人学校は、市の中心（クレムリン）から放射状に延びている大きな道路の一つ、レーニン大通り七十八にある。閑静な住宅と白樺林に囲まれた白い校舎は、アングロアメリカン、スウェーデン、日本の三校が同居し、体育館や運動場も共同使用である。不便さのある半面、良さもある。国際交流で三校のお国行事が毎年披露される。日本人学校は節分の「豆まき」（二月）、スウェーデンスクールは、太陽の光を待ち望む「ルーシア祭」（十二月）、アメリカンスクールは「ハロウィーン」（十月）と、それぞれのお国柄を表した楽しい内容のものです。

モスクワ駐在の日本企業は五十余社、子ども達の居住地は広範囲にあり、百十数名の児童生徒が六台のスクールバスで通学している。

十月になると初雪がある。半年間にわたる冬の到来であ

る。十一月中旬を過ぎると気温は零下五〜十度の日が続くようになる。雪はさらさらとして固まらず、「雪だるま」は作れない。十二月になると、吐く息も凍ると思われるほどの厳寒（マローズ）の到来を気にするようになる。一昨年の一月は、零下四十度近くまで下がった。スクールバスが動かず四日間休業した。モスクワ川も公園の池もすべて凍る。それでも子ども達は、林を縫って「歩くスキー」や、



スケートフェスティバル、本校の運動場（63.3.7）
これからリレーが始まるんだよ！

国際交流試合
に向けてのア
イスホッケー
の練習に余念
がない。

「ワタシ、
ゴルバチョフ
ノユメ、ミマ
シタ」と現地
職員が口にし
るほど、今、
モスクワは「第
二の雪解け」
といわれてい
るように激し

く揺れ動いている。

国際交流スポーツ

モスクワ市内にある外国人学校（日本、アメリカン、フランス、ドイツ、スウェーデン、フィンランド）の間でスポーツ交流（バレーボール、陸上競技、サッカー、バスケットボール、アイスホッケー）の定期戦を行っている。小四から中三までほとんど全員が参加する。週二回のクラブ・同好会では、これらの試合に向けて練習に励む。同好会は



国際交流サッカーの試合（63.10.3）
対アングロアメリカンスクール

自主下校となる。

各自がメトロ（地下鉄）やバスを利用して帰宅する。

このとき、週二時間のロシア語会話の授業が役立つ。また、現地の人達との交流の場でもある。

現在まで、バレーボールで小学部と中学部の女子、バ

スケットボールで小学部男子と中学部女子が優勝した。これらの試合は、外国の子ども達との心の交流・相互理解の場になっている。

姉妹校二十番学校

本校と現地校の二十番学校とは姉妹校の関係にある。五月には、小学部一・二年生が訪問し、体育や折り紙を現地の子ども達と一緒にした。



作った折り紙を見せ合う小1・2年生
（63.5.16）

十月十六日に本校の学習発表会を、例年のように二十番学校のホールを借りて行った。二十番学校の「日本語クラブ」の児童生徒と本校の全員で、日本民謡「紅葉」、ロシア民謡「太陽がいつまでもあるように」を合唱した。十二月には、二十番学校の児童生徒達を本校に迎えるよう準備して

いる。

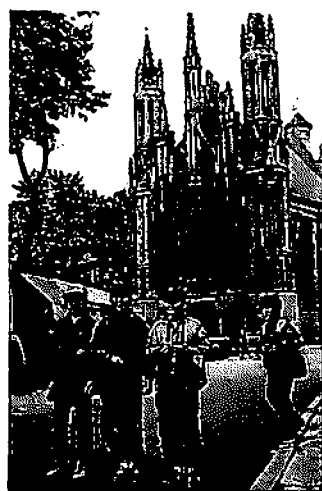
次の文は、昨年二十番学校を訪問した小六女子の作文です。

九月二十七日、モスクワ二十番学校を訪校した。私は今度の交流で、少しは「ロシア人の子」がわかったような気がした。「ロシア人の子」は、今まで私にとっていいイメージではなかったのだ。とっつきにくい感じがしていたのだ。今回、二十番校へ行ってみて、ありのままのロシア人を見たような気がした。

まず私達は折り紙を教えた。ぶきっちょながらも一生けん命「つる」を作っているロシア人になんとなく親近感を覚えた。そして、「この次はどうするの?」とか私達に聞いて、一生けん命覚えようとしている姿に、笑いがこみあげてきた。友達という感じがえしてきて。今回の訪校を終えて、ロシア人は友達という感じがえもてた。そして、ロシア人の事も少し理解できた。私はこれだけで今回の訪校は満足できた。(原文のまま)

修学旅行

修学旅行は、現地理解の有効な教育活動である。「見学地の歴史、文化、芸術、風土に触れることによって見聞を広



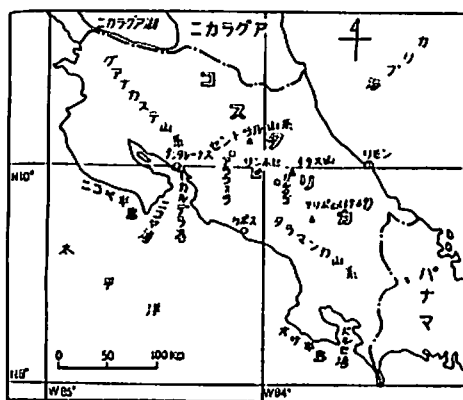
小5・6年修学旅行
(ビリュニス市) 62.9.9～12

めよう」と小五・六年生と中学生に分かれてソ連邦のレニングラード、リガ、タリン等を訪ねている。子ども達には、学習者として広く見て欲しいと願って、二週間の事前学習を経て実施する。おいしいものが食べられなくても、心が肥ってくれることがうれしい。

中米のスイス「コスタリカ」

コスタリカ・サン・ホセ日本人学校
岡山市立興除小学校 山田 羊平

1. コスタリカの位置と自然



地が海に接し高温多湿のため樹木が密生し北部は人口も少なく未開の地となっている。中央部は標高一〇〇〇メートル

コスタリカは南北アメリカ大陸をつなぐ地峡の中央アメリカにある国で北緯一〇度西経八四度にある。北はニカラガア、南は運河で有名なパナマに接している。西は太平洋に臨み、山地が海辺に迫って変化に富む。東のカリブ海側は平

ルの高原台地となり三〇〇〇メートル級の火山が連なっている。



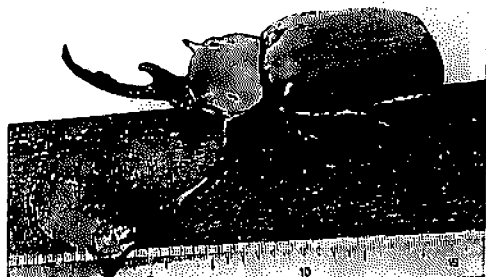
家から1,200 mイラス火山 3,432 mを見る



カリブ海側の平野

首都サン・ホセ市は一二〇〇メートルの高原のため年間を通して摂氏二三度位で暮らしやすい。季節の変化はなく雨期（五月～一〇月）と乾期（十一月～四月）がある。

市内のいたるところに観葉植物が育ち生垣にも利用されている。アナナス類は大きな樹木の肌に着生している。かつて「幸福の木」として緑日で売られたドラセナの木は、この国から多く送り出された。自然保護のため、国内に二二の国立公園をもうけて動植物の保護をしている。



カリブ海側の密森に生息する体長13cmのカブト虫

2. コスタリカの歴史と人口

コスタ・リカはアメリカを発見したコロンブスが最後の航海（一五〇二年）の時、発見され一五二四年には太平洋岸にスペイン人が入植を始めた。

人口二四〇万

人で岡山県の総人口と岡山市の人口を合せた位の人数で、白人が九五％と圧倒的に多く、三％の黒人はカリブ海側に多い。約二％のインディオ系の人種構成になっている。

3. コスタリカの社会と文化

国民の大部分が白人系であり早くから自作農で中産階級が多く、安定した社会体制ができ教育も普及している。

そのため、立憲民主主義の理念が相当根深く国民にゆきわたっている。一九八七年にはアリアス大統領が世界の平

和に尽くしたことによりノーベル平和賞を受賞された。

教育の歴史は古く約百年前から六年制の義務教育が実施され、一九四九年の憲法改正で軍隊を廃止し教育費に国家予算の三分の一が当てられている。今では九年間の義務教育を無償で実施している。教育に熱心な国であり平和主義と民主主義が国民に浸透している。

文化青年スポーツ省が教育省より分離独立し、国民の文化的資質の向上に力を入れている。

首都サン・ホセ市にパリのオペラ座に似せ一八九七年に



パリのオペラ座をまねた国立劇場

建てられた国立劇場がある。そこでは、毎月二回音楽の定期演奏会が六日間国立交響楽団によって開かれている。

教会の近くにある広場ではサッカーを大人や子ども

が楽しんでいる。プロのチームもある。サン・ホセ市と岡山市は昭和四十四年に姉妹都市縁組を結び、昭和六十二年には松本市長を団長とした訪問団がサン・ホセ市を訪れている。今後、両市の交流が活発になるようお手伝いをしたいと思っている。

4. 独立記念パレード

四月、赴任して間もなく遠くからタカタカタンタンと軽いドラムの音が聞こえてきた。これは九月十五日の独立記念パレード



姉妹校のサン・アンソニー校のパレード
(モラビア市)

の練習をしているとのことだった。日が立つにつれ、あちこちの学校からドラムマーチの音が聞こえ、九月初めには路上練習が始まった。



コスタリカ市民より拍手を受けた日本人学校のパレード

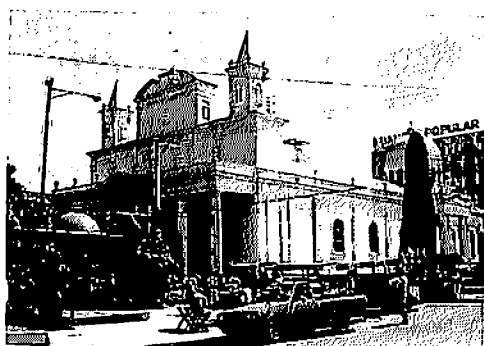
独立記念日の前日は、聖火が次々にリレーでガテマラからニカラグアを通してコスタリカに入り、サン・ホセの大聖堂の燭台に点火された。午後

六時、各市町村へ分火するため児童生徒によって聖火がリレーされた。

各市町村では中心の広場で前夜祭が開かれた。私が住んでいるグワダルーペ市の会場へ子供達が、工夫してつくったちょうちんを持って家族の人と一緒に集まって、コスタリカ独特のリズム、サルサ音楽を楽しんでいた。

当日は、大統領が出席する中央会場の式だけでなく、各市町村単位で式典が開かれた。

日本人学校のあるモラビヤ那では幼稚園児から高校生ま



聖火が運ばれた大聖堂

でが着飾り楽器を持って、サッカー球技場に集合し式典の後、国旗を先頭に華やかな行進が二キロメートルの間を二時間かけて行なわれた。沿道にはぎっしり集まった市民が、暖かい拍手で迎えていた。

日本人学校も四〇人の小人数だが整然とドリル演奏等を披露して、コスタリカの人々の賞賛をあびた。

モラビヤ郡では、独立記念日の七日前から毎夜郡の中心の広場で開かれる市民行事や当日の式典の運営は、市や教育委員会の役員が中心になって行なうのでなく、郡内の学

校長や市民の代表が相談し、当番校が運営に当たっているということだ。

また、聖火リレーやパレードの時の交通整理をボーイスカウトや青年たちがしているのを見ると、自分たちのことは自分たちで責任をもつという、民主主義が身

についているようだ。日本ではどうだろうか？。

5. おわりに

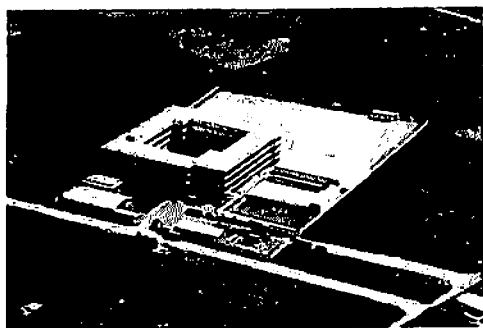
この国はバナナ、コーヒー、砂糖等を生産する農業国のため国民所得は低いが、生活必需品は安いので生活しやすい。また、家族の繁りを大切にしている。例えば日曜日の国立交響楽団の定期演奏会に家族づれが多く来ていることや、学校の送り迎えに親が付いているのをよくみかける。生活が苦しくてもこちらのほうが人間的ではないだろうか。

在外教育施設としての

日本人学校

タイ・バンコク日本人学校

和気町立藤野小学校 有吉捷郎



校舎を西北上空より望む

最近の日本企業の海外進出は目ざましいものがある。それに伴い義務教育学齡期の就学児童、生徒数の増加対策に

各日本人学校とも頭を痛めている現状である。文部省においても本格的な海外子女・帰国子女教育に取り組み、国際化時代へ向けての基本施策の取り組みがなされてきている。世界各地の日本人学校等においても、それぞれの国の実情に従って多くの課題に取り

組み、けん命に努力しているところである。

ここで本校にかかわる歴史やそのステータス等の実情をレポートする。このことは、在外教育施設が単なる日本人学校という存在だけでなく、それぞれの属する国の主権や施策に係って維持されているということの理解の一助としていただきたいからである。

本校は昭和三十一年戦後、日本人学校の第一号として設立されている。当時は大使館附属日本語講習会と称し、日本大使館領事が校長を兼務していた。昭和三十七年に生徒数も百名を越す状態で日本人学校と校名変更をしている。その後も急激な生徒増傾向を続け、当時の関係者の間から、独立した学校をとという要望が高まったようであるが、タイ政府からの許可が得られない状況が続くのである。このことは、この国の華僑対策とも深く関連していると思われる。昭和四十年代になり当時の田中総理の泰国訪問を期に両国総理大臣の直接交渉の中で取り上げられ設置の合意を得たという経緯を持つ。これにより昭和四十九年正式にタイ国私立学校法第二〇条第一項の適用により公認されている。学校設立の母体として泰日協会が結成され、会長にはソンマイ前大蔵大臣が就任し、その規約には規定理事者の半数以上がタイ国人であることとされている。外国で日本人学校が設置されるための条件の厳しさが伺えると思う。実際



交流風景（チュラロンコン大付小）

の学校運営は泰日協会内の学校理事会で行われており、学校理事会のメンバーは理事長以下当地日本企業の代表・機関代表等の日本人によつて構成されている。ちなみに世界中の日本人学校八十三校中、その国のステータスで私立学校として認可されているのはバンコク校のみである。外国の地で日本語により日本人の教育が日本の教育基本法に準拠して行うことができるというのは、大変有難いことであるが、反面そのための条件や制約もあり国それぞれによって実情が異なっている。

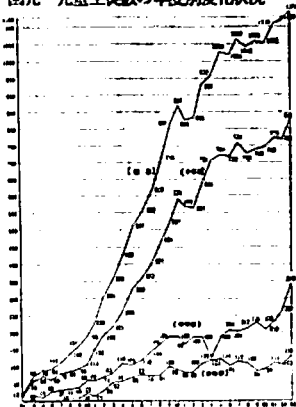
本校の場合を考
えて見ると第一に
は学校の休日はず
べてタイの法律に
基づく祝祭日とな
っており、ただ二
回、ナショナルデー
と開校記念日が加
えられるだけであ
る。第二は本校校
門の掲揚塔には常
事タイ国旗が揚げ
られているが、日

本国旗は掲揚することが出来ないということである。これも年四回ナショナルデー、開校記念日、入学式、卒業式のみ許可されているだけである。第三は学校長の他にマネージャー校長が執務しているということである。これは主としてタイ文部省との窓口で通達、通知を処理しているもので、教員のワークパーミット（労働ビザ）関係、出入国関係又は現地との細かいトラブル等にもお世話いただいている。第四は小・中学校とも週二時間のタイ語の授業が必須となり義務づけられている。第五は本校教員はタイ国教員免許状取得が条件とされており、派遣教員はその一年次にタイ文部省主催の講習を百二十六時間受講し認定試験にパスしなくてはならないことになっている。

ステータスに係わる実情を説明したが、国際化の声が高い今日、在外教育施設としての日本人学校の存り方が議論されてはいるものの、設立の経緯や基盤に含まれている基本的問題が忘れられがちなのは心配である。シドニー方式等も話題になるが、現実には厳しいものである。他国の地において日本人が日本語により日本の教育を進めていること自体が問題なのかもしれない。在外教育施設に勤務する教員が、その体験をどれだけ生かす事ができるのか、日本人学校からの帰国子女が海外体験をどれだけ生かすことができるのか、疑問に思える現実があまりにも多い。最近「外国はが

生かして行きたいと考えている。

図児・児童生徒数の年度別変化状況



し」の言葉を聞く、それらの日本人が帰国後二・三年するとまったく平均的日本人になってしまふ、日本の国の社会そのものがこれらの人の早い同化を求めている。本人自身も無意識のうちに日本人になり切ってしまう外国生活ですばらしい箔が一枚一枚古びて落ちていく。決してだんだんと輝いていくことがないという。私たちが結局は日本人でありすぎることが問題なのかもしれない。

いずれにしても私は今、まがいなく国際社会の中で生きている。ぜひこの体験をすばらしいものに仕上げ、帰国後の自分自身の人生の中に



建国二百年を祝う

オーストラリア

オーストラリア・シドニー日本人学校

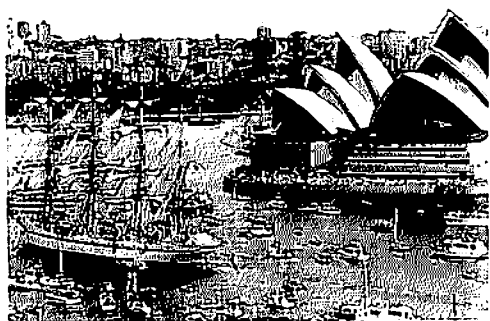
岡山市立福浜中学校 赤木 寛

イギリスは植民地であったアメリカが独立したため、それに代わる土地としてオーストラリアを考えました。初代総督アーサー・フィリップは部下三百名、囚人七百余名を十一隻の帆船に乗せてイギリスのポートジャクソン港を出帆、大西洋を南下し喜望峯を経て三十六週間の航海の後、一七八八年一月二十六日にシドニーに上陸しました。この日から現在のオーストラリアの歴史が始まり、今年で丁度二百年を迎えたのです。新生植民地経営は当初、土地や気候の相違から困難を極め、開拓者達は大変な苦勞をしたようです。拡大する植民地には流刑囚ばかりではなく、自由移民や、イギリス以外の国からも多くの人々が移り住むようになり、羊を中心とする農牧業は今日までオーストラリアを特徴づけるものになりました。一八五一年以後のゴールドラッシュは経済力の充実と都市の発展、人口の増加を招き、国力を増大してきました。そして一九〇一年にオーストラリア

連邦が成立しました。

一月二十六日はオーストラリアデーと呼ばれるこの国の祝日になっていますが今年は今までにない盛大な祝賀行事がいろいろと行なわれました。最大のイベントは、二百年前の第一船団の再現で、イギリスから出帆して同じ航路を経て同じ日にシドニー湾に入港して来たのです。その光景を見ようと集まって来た人は四百万人とも五百万人とも言われ、広いシドニー湾の周辺は人で埋め尽くされました。

お祝いに数日前から入港して来た各国の帆船に混じって、ひと



シドニー、オペラハウスの前に行く「日本丸」

さわ美しい大きな船体を浮かべてパレードに参加した「日本丸」の堂々とした姿は印象的でした。十月一日には国際艦観式が行なわれ、十五か国から三十四隻の軍艦がお祝いにシドニー湾に入港しました。日本からも「かとり」「せとゆき」「しまゆき」の三隻の自

衛艦が参加しました。七月初旬には日本から竹下総理大臣が来豪され、ブリスベンで開催中の万国博覧会を見学、シドニーにも二泊され、首都キャンベラに行かれ、オーブンしたばかりの新国会議事堂でお祝いの言葉を述べられると共に、今後の日豪の協力関係についても友好的な話し合いがなされたようです。その外オーストラリア各地で年間を通して様々な記念行事が行なわれていますが日本人学校では一月二十五日に児童会・生徒会が主催して祝賀行事を行いました。それは二百年間の主な出来ごとを絵に描き、その時代の衣装を身につけて、その出来ごとについて、日本語と英語で説明するもので、子供達はオーストラリア歴史について勉強したとても良い機会であったと思います。

オーストラリアは現人口が千六百四十万人で日本の八分の一、国土の面積は日本の二十倍、人口密度を計算すると、日本が三百二十二人であるのに対し、オーストラリアは僅か二人です。緯度は北緯と南緯の違いはありますが、岡山県とシドニーはほぼ同緯度にあります。シドニーは日本とは季節が六か月ずれています。夏と冬の気温差が少なく、空気が乾燥しているので夏でも蒸し暑さがなく、冬は雪が降ることはありません。このような気候、風土、人口密度の小さい広大な大陸は人々の気質に大きな影響をもたらしているようです。おおらかで親切、人と余り争うこともな

いので治安もよい国です。健全な中産階級の国と言われるように、一般に生活水準は高く、一家に大人の数だけの自動車があるのは普通のことです。日本と比べると給与水準は低いのに、皆かなり立派な家に住み文化的生活をしているのは、生活必需品が安く、高度の社会福祉政策によるところが大きいと思います。また底の見えない豊富な地下資源は建国以来この国の経済を支えており、持てる国として日本と対称的な状態にあると思います。近年飛躍的な成長をしている鉱業の中では石炭、鉄鉱石の伸びが著しく、いずれもその全輸出量の八十パーセント以上が日本向けとなっています。その外、羊毛、牛肉、羊肉、などが日本に輸出され、逆に日本からは自動車、電気製品、カメラ等の精密機械が輸入され、メイドインジャパンは圧倒的人気を得ています。これらの貿易に従事する商社を含め二百六十の日本企業がシドニー地区に進出しており在留邦人は四千四百人と言われています。日本人学校は国際学級の七十六名を除いて、日本人の子供は四百五十名いますが、日本とオーストラリアの貿易と人の交流を反映して毎年増加しています。ハワイを抜いてトップになった新婚旅行のカップルも含め、観光客の急増と日本語熱の上昇が最近の話題です。

台湾からこんにちは

台湾・台中日本人学校

岡山市立盲学校 片山主計

世界に誇るバナナ園……ここ台中日本人学校にはバナナ園がある。山腹を利用して自分達で植えたバナナの木が七・八十本はあるであろうか。一年中食卓に出るバナナは全部自家製である。



バナナの木

その他、学校の庭にはグアバ・スターフ・ルーツ・パイナップルなども実をつけている。次は今年の四月、バナナ園の手入れをした時の生徒作文である。

バナナの

植えかえ

四月三十日、私たち五年生以上は学校



作業する中学生

ズボンをはき、軍手をして帽子をかぶって、すっごく暑かったです。その上、太陽はギンギラギンギラしていたので、あせがダラダラ、ポッターン。そこには蛇や蚊のほかに、アフリカマイマイ・ミミズ・トカゲ・サソリモドキもいました。

そのとき、可愛い一年生のお友だちがちゃんと並んで、「おにいさん、おねえさん、ありがとうございます。」

と、元気のいい声でいってくれました。そのときは暑さもふっとびました。はじめはいやだったけど、いつもおおいし

のバナナ園の手入れをしました。私たちの仕事は、くさったバナナの木を小さく切り、新しいバナナの木を根もとにもり上げて土をかけることで、中学生のお兄さんお姉さんは新しい芽を植えかえる穴をほりました。長そでを着て長



バナナと生徒

いバナナをたべさせてくれるバナナの木に栄養をあげるのだとがんばりました。先生がいました。

「バナナは一度実をつけたらその木は終わりなんだよ。」私はびっくりしました。

私たちがこうして手入れをしたバナナはまたおいしい実をつけて昼食の食卓に並ぶのです。今まで何の気なしに食べていたバナナがこんなに大変な作業でできるのかと思うと、一本一本そまつにできない気持ちになりました。バナナさん、しっかり栄養をすって、私たちにおいしい実をたくさん食べさせてください。

台中日本人学

校……台中市を一眺めのもとに見おろす山の中腹にある敷地面積九千三百平方メートル、生徒数百四十名、教職員十八名からなる学校。広い運動場と二十五メートルのプールを持つ、

明るい太陽と緑、おいしい空気に恵まれたところ。ただ、住みごちがいいので、長いやら短いやら、いろいろな動物が出没するのが難。



学校

生徒をとりま

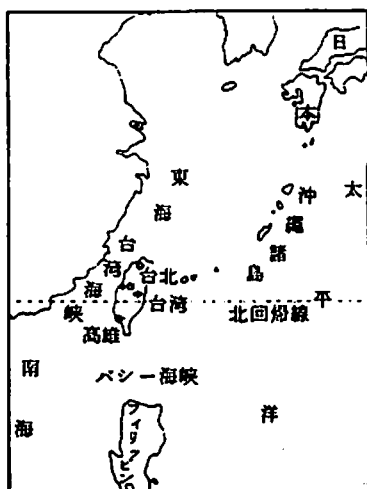
く環境……学校

が市街から離れているため、全員スクールバスで通学。父兄は一般に加工区と呼ばれる工業区に勤める管理職が多く、ほとんど技術系の人達である。住居は市内に散らばっているが、昔、大和村と呼ば

れていた日本人街に住む人が主流を占めており、必竟そのあたりには日本料理店・スーパーマーケット・輸入食料品店などがひしめいている。

台中市……字のごとく台湾の真中、台湾海峡寄りにある人口七十万の町。台湾としては暑からず寒からず、風水害も少なく最も恵まれている。四十キロメートル南を北回

帰線が通っていて、亜熱帯最南端の町。



台湾の地図



北回归線

台湾の現状……昨年の経済成長率十二％。日本に次ぐ外貨保有量を誇る。日本が四十年かけてやったことを十年でやろうとしている。人口の都市集中・建築ラッシュ・地価の高騰・受験戦争。昨年の厳戒令解除に伴う急速な自由化・物資の氾濫・アメリカの介入による台幣高と、日本と全く同じ状態であっている。五十才以上の人は日本語が話せ、若い人達も日本語ブーム。対日感情は非常によく、官公庁をはじめ各商店にいたるまで、ほとんど日本語で不自由しないここ台湾である。

児童・生徒の活動……児童会・生徒会を中心として、日本の年中行事・学芸会・運動会・交歓会などを行っている。日本の年中行事としては、このほり・七夕・クリスマス・もちつき・書きぞめ・豆まき・ひな祭り等がある。

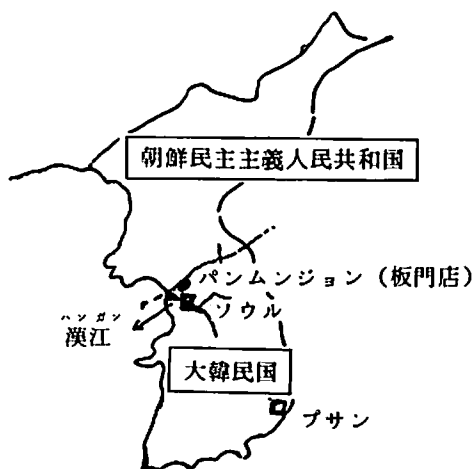
教職員の活動……職員研修を活発にし、現地理解教育に力を入れる。というのが私の赴任時の目標であった。研修部に働きかけ、研修活動を行いながら昨年から今年にかけて二冊の本の著作を手がけた。一つは今年三月発行の「台湾を知ろう」。これは台湾の全体像を知るため、各分野から調査したもので、中学・一般向け。二つめは現在執筆中の「台中篇」で小学生向け。特に「台湾を知ろう」は好評で、日本の各企業からつぎつぎと注文をいただいている。

終わりに……この地に赴任してちょうど一年半になる。

実はこの私、赴任先が決定するまで、台湾に台中という町があることさえ知らなかった。それが現在「台中大好き」「台中日本人学校はいい学校」と胸を張って言えるようになった。枚数の関係で総花的なことしか書けなかったが、もし機会があれば次は児童・生徒の活動と職員研修について詳しくとり上げたい。

ソウルでの生活

大韓民国・ソウル日本人学校
岡山市立高島中学校 三宅 義廣



このように中心的都市になったのは、今から約六百年前で、日本の室町時代のことです。周囲が高い山に囲まれ、その

運よく、ソウルオリ
ンピックの
年に、当地
の日本人学
校に赴任さ
せていただ
きました。
ソウルは、
いろいろな
面で、韓国
の中心にな
っています。



9月中旬—旧盆（秋夕）の日、
民族衣装の父と娘

一方に漢江という大きな川が流れ、防備に好都合であったばかりか、物資の運搬も容易であったからです。当時は周囲に高い石の城壁をめぐらし、東西南北に、四つの大きな門がおかれていました。写真の南大門はその一つで、国宝に指定されています。現在のソウル市は韓国の四分の一である一千万人の人口をもつ大都市で、市の範囲も漢江の南に広がり、オリンピックメインスタジアムやオリンピック公園などの運動施設をはじめ、漢江の中洲である汝矣島には、国会議事堂、六十三階建ての大韓生命ビル、新聞社、テレビ局などのビルが建ち並んでいます。私の勤務するソウル日本人学校も、漢江の南の開浦洞という自然環境に恵まれた場所にあり、幼・小学部は五階、中学部は三階の校

舎で、体育館、プールをもつ立派な施設です。学校の敷地は、今から十年ほど前に日本人会（ソウルに住む日本人でつくっている会）で購入したそうですが、現在ではその価格が三百五十倍とも四百倍とも言われるように値上がりしているそうです。

へ漢江の南の土地が値上がりした理由

皆さんは、もともと一つの国であった北朝鮮（朝鮮民主主義人民共和国）と大韓民国が政治の考え方の違いから分裂し、対立していることを知っていると思います。このきびしい南北の対立と漢江の南の繁栄、土地の値上がりは無関係ではありません。韓国では毎月十五日には民防訓練があります。これはサイレンと共に始まり、その音と共に、戸外の人々はすべて地下道などに避難させられ、地上は無人の町と化してしまいます。北朝鮮の空襲に備えた訓練です。また男子は十九才になると全員身体検査があり、健康な者は二年半の兵役の義務があります。平和に慣れた私たちには想像さえつかなかったきびしい現実があります。漢江の北部は、それだけ南北の境界である北緯三十八度線に近く危険が大きいわけです。

私の住む南山外人アパートは漢江の北にあり、境界線にある板門店から、わずか車で一時間半の距離で戦争が始まれば、命はありません。だから人々は、マイホームの土地

は漢江の南を希望し、土地が値上がりするわけです。

へソウルの学校

日本と同じ、六三三四制ですが、義務教育は七才からはじまる日本の小学校にあたる国民学校の六年間だけです。中学校の学級定員は六十名で、かなりのすし詰め教室になっています。完全な学歴社会で高学歴ほど高給になりますから、当然、進学競争は激しくなります。政府は塾は通えない者も出て不公平を生むからと禁止していますから、ソウルには塾はありません。

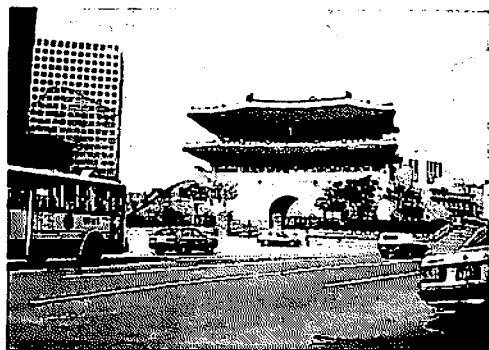
へハンゲル

ソウル市内の看板は、ほとんどハンゲルと呼ばれる韓国独自の文字で書かれています。

この文字は、今から五百五十年前、季朝第四代の世宗王が考案したもので、母音十一字、子音十四字からなりこの組合せで八千から一万の音節を表記でき、現在の韓国の国語になっています。文法的には、日本語とは同じで、日本人には一番覚えやすい外国語と言われています。さあ、あなたも一つ覚えてください。안녕 하십니까（今日は）감사합니다（ありがとう）

へ貨幣

韓国の貨幣はWと呼ばれ、貨幣の計算法は十進法で、紙幣には一万W、五千W、千Wの三種、硬貨は五百W、百W、



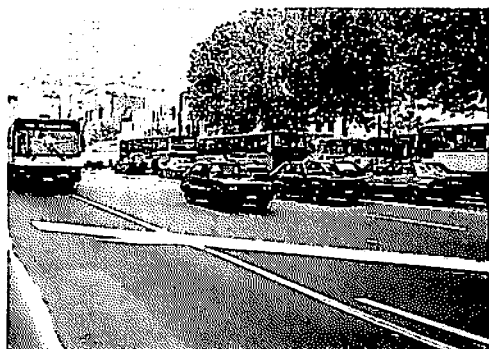
近代的建築とよくマッチした国宝南大門

ソウル市内を走るバスに乗った日本人は必ず驚きます。日本の危険運転の標語は、「一姫二トラ、三ダンブ」ですが、ソウルでは「一バス、二トラ、三タクシー」と言った人もあります。とにかくバスの運転はものすごい一言です。運転手によるとサンダル履きで、鼻歌を歌い、時にはガムを

五十W、十W、五W、一Wと日本と同じです。お金の価値は、円を五倍したものがWと同等と考えればよいでしょう。日本の一万円が韓国の五万Wにあたります。韓国のサラリーマンの平均月収は五十万Wと言われていますから、日本円にしますと十万円といったところです。市内電話料は二十W、市内バスは百五十Wですから、日本円に直すと電話代四円、バス代は三十円で済むことになります。

〈市内バス〉

けにはいきません。



ソウル名物の市内バスとタクシー

かみ、片手に煙草をもつて百キロメートル以上のスピードで、タクシーなど追い越すのは平気です。私はこのバスに乗ると、いつもヒヤヒヤして退屈したことなどありません。同時に三年間無事で帰国できるかどうか不安を感じないわ

海外短信

◆カイロ日本人学校

安藤 一雄

日本ではすがすがしい秋日和でございましょう。当地でも峠を越して少し秋らしくなつてまいり、しのぎよくなりました。先日は「国際理解」五号をお送りくださいましてありがとうございます。なつかしく拝読させていただきました。

小生もカイロにまいりまして一年六カ月が過ぎました。今年は四月にカイロ日本人学校が新築され移転やら、運動会も学校主催になり、一月七日～一〇日の四日間、中近東・アフリカ校長会の当番校になるなど多忙な毎日を通しております。

皆様方におかれましても健康に留意なさいましてご活躍くださいませ。先ずは御礼まで。さようなら。

◆香港日本人学校

阿比留 博

香港日本人学校では八月二十五日から二学期がスタートし、八十五名の転入生を迎えました。香港の現地校は九月が新学期です。近くの本屋に行きますと教科書の購入と、今まで使用した旧年度の教科書の下取りで賑わっています。

「国際理解」五号ありがとうございました。残る任期があと半年となりましたが、思い残すことのないようにやろうと思っています。

◆モスクワ日本人学校

土屋 丹

残暑も去り日本の今は一番いい季節のころかと思えます。モスクワは九月に入り日一日と寒さが加わり、今朝などは五度です。雪を見るのも間近かと思えます。今年の夏は例年になく長く、晴天が続きました。それだけに冬が厳しいのではなからうかと先生方と話合っています。

「国際理解」五号のご送付ありがとうございました。海外派遣の先輩の先生方のご努力ご活躍に接することができ大きな励みになりました。残された半年間の任事を頑張らねばという思いを強くしました。

当地の郵便事情でしょうか、郵送に一カ月半かかっていました。めずらしいことでもありませんが。お礼を申し上げます。るのが遅くなり申し訳ありません。

八月十五日に二学期がスタート。今は十月十六日に現地校二十番学校のホールを借りて聞く学習発表会にひけて児童生徒、教員共々大いに燃えています。二十番学校の生徒にも賛助出演してもらいます。今年は両校の児童生徒合同で、日本の民謡やロシアの民謡も合唱する予定です。

学習発表会が終われば、来年度の教育課程の検討に入ります。一月末までにそれを終え一二月三日の両親参観日にそれを発表して保護者の理解を得るというスケジュールになっています。

日本の学校もお忙しい毎日だと思います。会員の先生方よろしくお伝えください。

◆ブカレスト日本人学校

橋 本 拓 治

「国際理解」第五号を送っていただきありがとうございます。八月二十九日に手元に届きました。

さて、早いもので、ブカレストに到着して四カ月が過ぎようとしています。日本で聞かされていたほどではありませんが、他の共產圏の国と比べても、かなり厳しい状況のようです。日常の生活物資がやはり不足しており、国民、特に都市に住む人達はいいのを手に入れるためには、よく行列をしています。われわれ外国人にはある程度の優遇措置がとられています。当然のことながら何事も日本でのようにはいきません。

商店においてあるものも、どこに行っても同じようなもので、種類が実に少なく、日本製の物と比べると品質は比べものになりません。農作物の品種改良もできてなくて、その季節の物しかありません。質のよい物はすべて輸出に

回されるため、日本ではとても売れないような小さなりんじんやりんごが売られています。しかしそれでも翌日行くとも、もう無いということもあり、首都のブカレストよりも地方の方がよいものがあるようです。まあ何から何まで大変な所で、日本がいかに便利で恵まれて豊かな国か、たった一カ月で思い知らされました。愚痴を書けばききがありませんが、比較的治安がよく、日本人は尊敬されています。また一般的にルーマニア人は親切で、あまり細かいことにはこだわらず、のんびりしています。ただし公的機関は非常にいいかげんで、賄賂が公然と横行していることには呆れます。郊外に向かって一時間も車を走らせると、素晴らしい景色が広がっており、生まれて初めて地平線を見ることができました。郊外の自然の素晴らしさには目をみはるものがあります。

仕事の方は三年生がいいため今のところ週二十二時間ですが、何しろ理科・数学・技術などの二十二時間ですから目が回りそうですし、来年以降三年生がいるようになれば、週三十二時間の授業になりますので本当にいい経験になりそうです。期末テストでは九種類の問題を作ることになります。しかし子供達は物足りないくらいおとなしく、非行の非の字もありません。現地校との交流も様々な行事を通じて行われていますが、やはり制約されることが多い

ようです。

当地の教育事情などについてはいずれも報告しなければ
と思っていますが、ルーマニアの状況はポーランド、ユー
ゴスラビアなどよりも数段厳しく、日本の新聞からルー
マニアのことを知ることもしばしばで、何事についてもは
っきりしたことが分かりません。

では今日はこれまでにします。お元気で、さようなら。

◆フランクフルト日本人学校

西崎 正明

「国際理解」五号を九月六日に受領しました。皆様のご
苦勞に感謝いたします。立派なできばえで嬉しく思ってい
ます。早速職員に見せています。

いわく「いろいろな国があり、それぞれ事情が違うので
すね。」西ドイツはあまりにも条件が良すぎます。比較には
なりませんが、小生の前任地（インド）とは天国と地獄く
らいの差があり、生活については何も心配はいりません。
ただ言葉は全然だめ。勉強はしていますが今のところ右
から左へと頭には残りません。

三宅先生が書いているアウトバーンを毎日走っています。
フランクフルトは金融や見本市の都市であると同時にフラ
ンクフルト空港がヨーロッパの中心に位置し、成田／フラ
ンクフルトの直行便が一日に一便飛ぶようになったためか

児童生徒の数が増え続けています。二学期になって約五十
名の転入生があり、一九八九年度は三〇〇名を越す小中学
生になるのではないかと考えています。また自前の校舎も
本年度建設中なので八十九年度は快適な学校環境で仕事が
できると楽しみにしています。

皆様によりしくお伝えください。

◆バンコク日本人学校

有吉 捷郎

返信が大変遅れて申し訳ありません。

在外教育施設の勤務、特に管理職としてこれほどの仕事
が待ち構えているとは想像もできませんでした。

本校は現在、生徒急増対策に追われています。現地タイ
への企業進出が目覚ましく、九月一日には転出二十五名に
対して転入六十八名という状況でした。学校理事会、大使
館、日本人会さらにはタイ文部省、日本文部省を駆けまわ
っている昨今です。

とりあえず御礼まで。諸兄のご健闘を祈っています。

◆マニラ日本人学校

森 英志

明けましておめでとうございます。

フィリピンのマニラに来て約九か月。わたしたち家族は全
員元気で、海外での初めてのお正月を迎えました。といっ

ても今日一月一日も、気温は三十二度を越え、薄曇りながら蒸し暑く、やはり真夏です。これから一日一日と暑くなっていくのです。扇風機エアコンが離せません。昨夜のしみそかはフィリピン流のニューイヤーズを過ごし、日本とのずいぶんの違いに驚かされました。

午後になるとそれまで単発的だった爆竹や花火の音の数が増し、夕闇と共にマニラ中で遠く近く聞こえました。まるで暴動か戦争という感じです。知り合いのフィリピン人のクローマ先生について夜一時ごろ車で見物に出かけていきました。中にはピストルをぶっぱなす人もいるそうです。フィリピンの爆竹や花火は大きくて強力で、それを所かまわず投げつけ打ち上げるから手の指をとばすこともしょっちゅうだそうで、これをしないと男ではないということだそうです。午前〇時、鐘を打ち鳴らしラッパを吹き、連続して花火と爆竹。「このファイアワーク (firework) のためにフィリピン全土で数百万ドルが一夜で煙と化す」そうです。今年はマニラだけで十五人の死者と一〇〇〇人の怪我人が出たそうです。貧しい国といわれているフィリピンでこんな無駄づかいをしなくても、ちょっと首をかしげました。

◆ソウル日本人学校

三宅 義廣

各位には益々ご清栄のことと存じます。

私もソウルの地で無事に越年しました。当地ではどちらかというと旧正月を盛大に祝うようです。それでも年末は主婦達の買い出しで南大門市場、東大門市場は大変な賑わいを見せていました。我が家では夫婦二人だけです。日本式料理店におせち料理を注文しました。室内は暖か過ぎてすぐに驚る恐れがあり、と言って冷蔵庫は窮屈なので食べるとき以外はベランダに出しておきました。戸外はいつでも氷点下で天然の冷蔵庫です。しかし来年からは、その都度食べたいものを暖かいうちに食べるほうがいいので買わないことにしようと妻と話し合いました。

赴任してから一〇カ月しないと別の国へ出られないし、日本へは余程のことがないと帰らないよう指示されているので、衛星放送で紅白歌合戦を見て電送の除夜の鐘を聞きながら年越しをしました。ソウルの正月は人も車も少なくて精神的にゆったりした正月が過ごせました。本年もよろしく願っています。

世界の国々に学ぶ

帰国教師のレポート

1. ゆっくりと、マイペースで-----佐川 慶三
-----アルゼンチンの人々
2. 台湾の生活を振り返って-----西岡 忠
3. 考え続けたこと -----岡本 善弘
4. ロンドン日本人学校の修学旅行 -----難波 朱美
5. 先生の西洋見聞録 -----三宅 詠子
6. 台湾の高雄 お国から -----浅尾 豊
7. タイ人から見た日本人
(バンコク日本人学校 有吉捷郎)

ゆっくりと、マイペースで

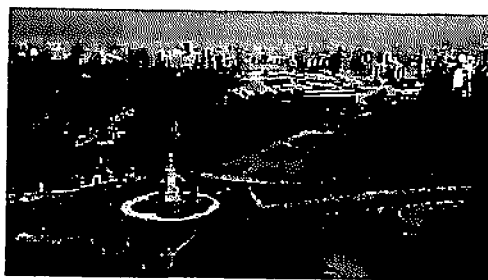
—— アルゼンチンの人々

アルゼンチン・ブエノス・アイレス日本人学校
倉敷市立琴浦中学校 佐川 慶三

南米アルゼンチンへの赴任が決まり、さて、何をどう準備すればいいのやら分からず、気持ちばかりあせっているうちに出発の日を迎えてしまいました。「これは要る。あれは要らない。」と夫婦ゲンカをしながら、出発の前夜まで何度も旅行カバンに荷物を詰め換えました。南米は、荷物の盗難がよくあると聞き、結局、手荷物十個だけを持参することになりました。日本食や衣類などの半分近くは家に置いていくことになりました。

夕やみ迫る成田を発ち、やみの中をバリグ機は突き進み、太平洋を越え、ロス・アンゼルスで給油、リオデジャネイロで乗り換えをし、昭和六十年四月十日正午前、アルゼンチン・エセイサ空港に家族五人到着できました。

日本の反対側まで二十四時間も飛行機に乗って来たことになります。機内では、未知の土地での生活に対する不安ばかりが頭をよぎっていました。いざ、空港へ降り立って



ブエノスアイレス市内

みて、アルゼンチンの絵の具を流したようなまっ青な空、出迎えてくださった日本人学校の先生方に感激しました。そして、早速翌日は職員会議、その次の日は、一学期始業式と続き、十二時間の時差ボケの中での激しい勤務が始まりました。われながらよくがんばったものだといふまではなつかしく思ひ出されます。

ゆっくりと、マイペースで——これがブエノスアイレス市民の生活ぶりです。レストランは夜の八時に開店し、十一〜十二時頃になると、ワイン片手ににぎやかに談笑しながら分厚いステーキを食べる人々で満員になります。ラプラタ河沿いに三十ものレストランがズラッと立ち並んでいる様子は、壮観です。時には、わが家族も食事に出かけましたが、夜十時を過ぎると子供たちは、食い気より眠気でコックリ、コックリとしたす始末でした。

週末には、若者たちは、中心街へどっと繰り出すため、



夕方、公園でチェスに熱中する老人たち
(市内バルカス公園で)

都心へ向かうバスは夜中まで積み残し客が出るほどです。

深夜二時に開くディスコもあり、店の外まで若者があふれ、驚くやらあされるやらでした。日本からの旅行者が朝早く街を歩いている連中を見て「アルゼンチ

ンでも、早朝から出勤する人がいるのですね。」と感心したという話があります。でも実は、彼らは、朝までディスコで踊り明かし、満足して家路につく若者たちだったのです。夜を徹して遊ぶエネルギーには、ただ感心するのみです。アルゼンチンでは、金持ちはもちろん庶民も、自分たちの生活を楽しむことを何よりも優先するようです。

夕食に招かれた場合、夜十二時より早く帰ると、料理や接待が気に入らなかったことになるのです。週末の夜は、いくらガンガン音楽を鳴らして騒いでも決して隣近



戸外で焼き肉

所からの文句は出ないのですが、その代わり、日曜の午前中だけは、洗濯機や掃除機の使用は遠慮しなければなりません。

自動車は、現在は、輸入禁止となっています。日本車は一部ぐらい走っていました。汽車やバスの運賃は安く抑えています。ガソリン代は割高であり、

中古車は相当に高価でした。車検制度はなく、日本ではとくにスクラップとなっているような車が堂々と市街を走っています。車の売り買いは、持ち主が新聞広告を出すか、路上に駐車して屋根にコーラの容器などを置いておきます。中古車販売店は、数が少なく商売として成り立ちにくいようです。

運転免許証は、十年間有効です。日本に比べると車の所有者数も、免許保持者数もまだこれからです。

ガソリンスタンドは、休日も夜中も営業しており便利で



国会議事堂

す。そこでは、運転手が自分で車のガソリン吸入口のフタを開け閉めしなければならず、日本のようなサービス精神はみられません。

普段は、ゆっくりのんびり過しているのに、車を運転する時はまるで別人のようになってしまうのです。大変荒っぽい

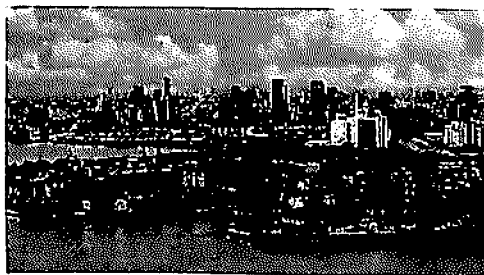
運転で猛スピードでぶっ飛ばします。車同士の少々の接触事故は問題にはならず、車から降りて破損箇所を確かめようとしません。路上駐車をする時、すでに止めてある車のバンパーを押して駐車できるスペースをつくり出します。バッテリーがあがった時、後方から直接に車で押してもらってエンジンをかけている場面にはしばしば出会い、私も何十回もやってあげました。

市内バスのドアは開けたまま走るし、バス同士で競争もします。バス運転手から有名なカーレーサーがこれまで生

まれているというのもうなずけます。

家族でイグアスの滝まで出かけた際、途中でエンコしてしまいました。車が一時間に数台しか通らないような大草原の真中で、の立ち往生の心細さは、他にたとえようがありません。何人もの人にお世話になり、それが縁で家族ぐるみの付き合いもできました。

アルゼンチンはサッカー王国です。広場さえあればどこでもサッカー場に早変わりします。街の中では、道路横の



ブエノスアイレス港

わずかな空き地で夜十二時を過ぎても若者がボールをけり合い、スポーツクラブの何と二十面もあるサッカーコートがズラッと並んでいる様は、「すごい。」の一言に尽きます。一昨年、メキシコでのワールドカップ大会では、アルゼンチンチームはあまり期待できないというのが国内の大方の予想でした。ところがいざフタ



タンゴ発祥の地 ポカ

を開けてみると、マラドーナの活躍もあり、チームは一試合ごとに調子づき、それにつれて市民はもう仕事どころではなくなりました。もちろん、学校も臨時休校です。普段は、交通渋滞さえ引き起こしている七月九日通りも、決勝戦の時には、車の通行はなくなり人々はテレビに釘付けとなりました。そして、優勝決定の瞬間は、アパート全体を揺すぶる大歓声となり、窓という窓からは国旗を振る人、紙吹雪をまく人、ナベをたたく人など。その後、人々は続々と独立記念塔前広場に集合し、何万人という人々が夜を徹して歌いまくり踊りまくりました。テレビに写し出されたその光景は、まるで暴動でも起きたのかと勘違いするほどのさまじいものでした。アルゼンチンは移民の国です。スペインとイタリアからの出身者がその大半を占めています。わが家が知り合ったほと



恐竜の骨がある博物館

ること、さらに日本の進んだ工業化に対する敬意の念によるものと思われます。

日本からの移住者は、市街地ではクリーニング業、地方では花の栽培園を経営している人が大半です。これらの人達は、移住当時の苦しい時代を乗り越え、現在は安定した生活を送られています。岡山県人会も組織されており、三十家族ぐらいが、親ばくをはかっています。わが家族も会合に参加させていただき、岡山の様子、瀬戸大橋の工事など語り合いました。

んどのアルゼンチン人は、陽気でとても親切でした。

東洋人の中でも、とりわけ日本人は彼らに好感を持たれています。その理由として、日本から移住した人とその二世三世を加えた三万五千人ほどの人々が、勤勉で正直な生活ぶりで高い信頼を得ていること、



休日のパレルモ公園で、マテ茶を飲みながらくつろぐ夫婦

今は、ちょっとした日本ブームであり、市内には日本語塾がいくつも誕生しています。また、日本紹介のテレビ番組や新聞特集が見受けられます。ブエノスaires市内にある日本庭園は休日には大にぎわいを見せています。

初めのうちは、アルゼンチン人の無責任さばかりが目につきましたが、しだいに、「彼らには彼らなりの生き方があるのだ。日本流の価値基準で判断すべきではない。」と思うようになりました。物価は、年に三倍近くも高騰します。

そのため人々は、給料をもらうとすぐ品物を買ひ込みます。サラリーマンが経営者や牧場主になれることなどまずありません。家族で生活をエンジョイすることを第一に考えます。今が幸せならそれでよいではないかとでもいいかげで

す。

休日の公園では、のんびりとお茶を飲み、おしゃべりを楽しむ市民であふれていました。

台湾の生活を振り返って

台湾・高雄日本人学校

玉野市立玉中学校 西岡 忠

海外派遣を希望し、一月に校長から『台湾の高雄』という地名を聞いても、「まさか」という気があった。しかし、荷物を準備する頃になり不安になった記憶がある。荷作りをしながらかれを持って行こう、これも送ろうと家中ダンボールになったのが昨日のようである。当初、衣類はまでも、鍋や箸までは必要ないと思っていたのだが回りの人達の、『台湾には何もないから』というアドバイスのお陰で、かなりの量になった。(しかし、高雄に派遣された四人の中では一番少なく、半分ぐらいであった。)持って行った荷物の中で一番役に立ったのはなんとと言ってもビデオカメラであった。もちろん税関でかなりの課税は覚悟していたのだが、そこは何といっても台湾、裏工作の国であるから難なくパスしたそうである。今から思えば、荷物もあの半分ぐらいですんだのでは、と思っている。

高雄空港に着いて、歓迎のセレモニーの間とにかく暑く、独特の臭いで息苦しかった。一週間ぐらいこの臭いに苦し

められた。この臭いの素は『檳榔』(台湾でのチューインガムのようなもの)とニンニク。

台湾に着いた翌日から学校へ。一週間ぐらいはタクシードホテル(大飯店)からの通勤だったのだが、どこにいても色彩と漢字に圧倒された毎日だった。幸か不幸か初めての半年は単身だったため(長男出産のため)、ホテル住まいの頃から街をブラブラしたので比較的早く高雄に慣れた。

近年でこそタクシードも街もきれいになったのだが、一年目の頃はひどいものだった。タクシードの中には、地面が見えている車、ドアをしっかり持っていないとドアがあく車がざらであった。今でこそ日産のサニー、台湾日産オリジナルのフィーリング、シビック、フォードのレーザーがざらで、自分の希望車種を選べるぐらいである。

高雄日本人学校は、小一から中三までの全校二百五十名ぐらい。学校としてはいけばよい人数でした。この学校で感心したことは、小六や中学生が小一や小二の面倒をよくみることであった。(学校の本当の姿はこうかもしれないが。)また、教員はもちろん、児童生徒も日本各地から来ているので、いろいろな方言、習慣がありとても楽し(?)かった。しかし、自分自身小学生、それも低学年を教えるのは初めてで、かなり苦労した。今までの中学校のようにするものなら、一時間に二・三人の児童を泣かせてしまうこと



左が中学部、右が小学部
(付近は高層マンションが立ち並ぶ)



全校朝礼

が常であった。自分としてはそんなにきつい口調ではなかったのだが、子どもにとってははかなり怖かったらしい。それからというものは、昼休みなどに積極的に子ども達と遊んだものだ。ここの生徒達は日本の生徒に比べてとてもかわいそうである。というのは、遊ぶ場所が学校しかないからである。場所といっても広場や公園などは日本よりかなりある。しかし、日本人だということではじめられるケースがあるため、うしても狭い校庭、



校内中国語スピーチコンテスト

自分の家しかないのである。今でも台湾の子ども達の心には戦争の傷が引き継がれているのかもしれない。遊びの主流は何といってもファミコン。日本のソフトのコピーがかなり出回っている。ファミコンに限らず、とにかくあらゆる物コピーの豊富な国である。確かに子どもにとってファミコンはコミュニケーションの手段であろう。中学生ともなると小学生と同じように遊んではかりはいられない。家庭教師・塾など毎日忙しいようである。しかし台湾の塾(補習班)の数はかなりの量である。日本人向けもあるのだからすごいとしか言えない。中学生のほとんどは塾に通っている。と言うより我々から見ると通わされている。中学生の子を持つ親の教育熱はどこにいても変わらないようである。(むしろ海外の方が高いかも) 海外で勤務された先生方のはとんどがそうであったように、私も一年目は気候や生活習慣に慣れるのに精一杯でした。い

しいもので、自慢ではないが私はまったく言葉は習わなかったのに、そこそこの会話ができるようになりました。（もちろん台湾語ですが）言葉のことで一番おもしろいエピソードは、同僚の先生家族と二家族で台中に行った時のことです。日月潭という所へタクシーをチャーターしようと思い、タクシー会社のおかみさんに頼んだのです。少しばかりの台湾語と日本語で言ったためか、そのおかみさんは上手な日本語で「お前は高砂族か」。私は「不是、我是日本人。」このやりとりがしばらく続きました。なぜ私が高

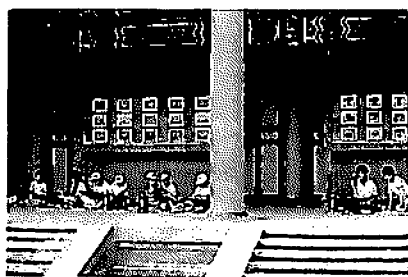


小学部卒業式

くら漢字の国とは、言葉も今まで見たことのない字。言葉も英語ならまだしも、北京語・台湾語などいろいろ。市場に買い物に行ったら数は完全に台湾語。今でこそ理解できるので、当時はまったくチンプンカンプンでした。しかし、慣れということは本当にすばらしいこと



ロータリークラブ式典出演の器楽部



中学部孔子廟にて写生大会

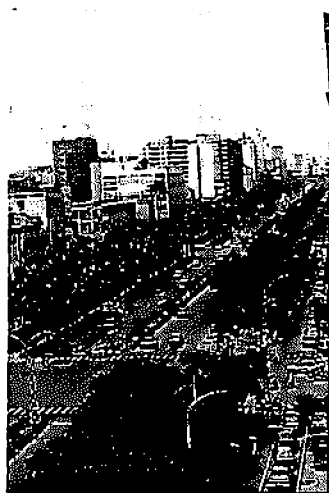
砂族と間違われたか。①色が黒く顔が日本人らしくない。（色が黒いのは体育の授業のため）②日本語が上手。（日本人なので日本語が話せるのはあたりまえ）③台湾語を話す。（普通の中国語が話せないから）とにかくおもしろいおぼさんでした。我々日本人の余暇は、夜にビデオを見ること。こういう経路で入手するのかわかりませんが、日本で放送されてから二日もすれば市内のレンタルビデオ店に巡回していることです。日本人はさることながら、台湾の人にも日本のビデオをよく見えています。特にプロレスなどは予約しないと見るこ

とが出来ないほです。もちろん、ドラマなどは画面の下にテロップが出ます。台湾の人達も日本人がそうであるように時代劇的なものが好きで、功夫映画や時代劇のビデオも人気が高いようです。

日本人が台湾を見る時、なぜか低く見ますが、近年の台湾は日本とそれほど変わりません。電気製品など確かに日本製などの輸入した物は高価ですが、日本のメーカーで台湾の工場で作られた物はそれほどではありません。ですから日本と同じように生活できる訳です。又、肉類などは日本の市場より格安です。私の住んでいた高雄市の近くに屏東という所があります。そこではエビやウナギの養殖が盛んで、日本へたくさん輸出されています。たぶん皆さんの口に入るウナギのほとんどは台湾育ちではないでしょうか。私から見た台湾の人の印象について触れてみます。まず年配の方は日本人に対してとても好意的です。自分達が日本の教育を受けたことをとても誇りに思っておられる人が多いということには驚きました。また、とても親切です。私がバイクで接触事故を起こした時、相手のおじさんの家へお詫びに行った時でも片言の日本語で「日本を離れての生活は大へんだらう。体に気をつけて頑張らなさい。」とこちらが励ましていただくほどでした。また、中学部が交流を深めている市内の塩埕國中の老師たちには、日本人学校が台

湾で現地校と変わらない活動ができるようにと、いろいろお世話をしていただきました。私の知る限りでは、アパートの人達、よく買い物をする店の人などの人も良い方ばかりで、生活には困りませんでした。しかしほとんどの台湾の人は、男女を問わず気が強く、すぐにケンカになるようです。バイクや車が我れ先にと割り込むのもその現れかもしれません。

また、初めに「裏工作の国」と書きましたが、いろいろな物のイミテーションには本当に驚かされます。時計、宝石などたくさんあります。イミテーションとわかって買うとジョークですみますが、知らずに買うと本当に頭に来ます。その他、盗みの多い国でも知られています。盗難にあった車がプレートや色がぬり変えられて売られているケー



椰子の木が多い民生路



太極拳の練習風景



高雄の孔子廟

スも多いです。長く高雄に住んでおられる方は「絶対に台湾人は信用するな。」と言われます。(企業間の取引き、雇用の面など)もう一つ私が感じる印象は、日本人以上にギャンブル好きなことです。台湾では賭事は禁止されているのですが、あらゆる賭事が横行しています。麻雀は無論、宝くじから日本のパチンコ・スロットマシーン・フルーツ・麻雀ゲーム・ポーカー。これらをどう入手するか知りませんが、高雄市にはかなりあります。(台北・台中にはないようです。)もちろん、入口のドアは隠し扉で簡単に入ることにはできません。市内の派

出所には押収したゲーム機が山積みされているのをよく見かけます。でも店主は何回押収されてもまた開業しています。まったくあきれるぐらいです。いろいろな書かせてもらいましたが、この三年間の体験は私だけでなく、家族の宝となったでしょう。最近もよく、中国語で歌う娘の声が聞けるこの頃です。

考え続けたこと

マレーシア・クアラルンプール日本人学校
倉敷市立中庄小学校 岡 本 善 弘

「日本人だけが忘れている」と非難される太平洋戦争に
こだわり続けたのは、それが私の父母の生きた時代であり、
自分は戦後の第一世代にすぎないという思いがあったから
でしょう。まだ忘れ去ってはならぬと……。

1. 戦争体験

今年は第二次大戦が終結して四十年。戦争の体験は日に
日に遠いものになりつつあるような感がありますが、四月
からここマレーシアで生活するようになってから、過去の
戦争が様々な形で目の前に現われることがあります。

五月にマラッカへ行った帰り道、道路わきの露店に車を
止めて、饅頭製品を見ていました。すると店の主人が、ここ
の国の人間かと聞きます。「ジャバニーズ。」と答えると、
堰を切ったように彼の口から日本語が飛び出してきたので
す。

「アイウエオ、アカサタナハマヤラワ。」

マレー語の中に断片的な日本語が混じります。

「ワタシ……シヨウナントウ……ニホンゲン……セントウ
一九四二年……グンジキョウレン……」

銃をかまえるかっこうをしました。軍隊に押さえつけられ
たという仕草をしました。必死になって四十年前を思い出
そうとしていました。

昭南島、それは占領直後の日本軍がシンガポールに与え
た新しい名前。彼は日本軍と戦ったか、戦闘そのものを目
撃したのでしょう。（日本軍と戦ったのは、英軍のインド兵、
オーストラリア兵、イギリス兵、中国人の義勇兵がほとん
どであった）そしてその後、日本軍のもとで様々な教育を
受けたらしいのです。後になって知ったのですが、そのこ
ろマレー人の青年を集めた「興亜訓練所」という施設があ
ったそうです。マレー人を再教育し、日本の占領を徹底さ
せるために。

目をうるませて懸命に話す彼の前に立った数分間に、私
の心は鉛のように重くなりました。胸がつまり、何も言え
ず、そそくさと店を立ち去るしかなかったのです。

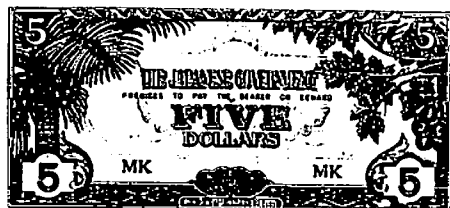
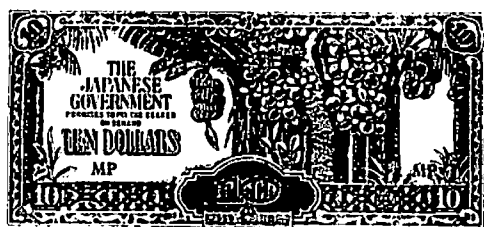
日本人学校に勤めている中国人のダニー先生に聞いた話
ですが、彼の知りあいの中国人が日本人と友達になったの
で家に招待しようとしたら、両親が猛反対したとか。相手
が日本人であったことがその理由です。人間は、自分が被
害者になった時のことはなかなか忘れられない。いまだに

日本人に反感を抱いている人が確かにいるのです。

(マレーシア日より 八十五年八月四日)

2. 軍票

第二次大戦中、日本軍によって発行された「軍票」が手に入りました。マラッカの街の骨董品屋で見つけたものです。古い中国やマレーのお金に混じって、ガラスケースの中に並べられていました。一ドル、五ドル、十ドルの三種類があり、それぞれ二枚ずつ買って約六百円でした。買った軍票には番号が印刷されていません。番号つきのものも



ありましたが、それはもっと高い値段で売られていました。戦争中、この軍票をため込んだ人が大勢いましたが、

日本の敗戦と同時に無一文にもどってしまったそうです。そして、いまだにそれを捨てきれない人もいますとか。

色あせたこれらの軍票も、今では貴重な資料となりました。無言のうちに、戦争のむなしさを語りかけてくるような気がします。

(マレーシア日より 八十七年四月十六日)

3. 被爆者 ラザク先生

「おおぜいの日本人がしにしました。たくさんの朝鮮のひともしました。ひろしまでも長崎でも、原子爆弾をおとした国のアメリカ人もなんにんかしんでいるのです。中国人もロシア人もインドネシア人もしんでいるということです。」

以上は、絵本「ヒロシマのピカ」からの引用ですが、昭和二十年八月六日広島で被爆した外国人の中に、マレーシア人もいたのです。九月五日、日本人学校職員の校内研修会が開かれ、マラ工科大学語学センター講師アブドール・ラザク・ビン・アブドール・ハミド先生に「マレーシアの教育」と題してお話をうかがいました。その途中、原爆のことが出てきたのです。以下、講演のテープから。

「昭和十八年、東京目黒の国際学友会に籍を置いていました。マレーの指導者を養成することを目的とした南方特別留学生の一人として来日していたのです。一年間、日本語

を学び、卒業して広島文理大学に移りました。

八月六日、木造校舎の二階で授業を受けていた時、ピカッと窓の外が光ったのです。轟音が聞こえ、意識はなくなりました。気がつくとも外が明るい。頭のきずから大量に出血して服は真赤でした。友達のユソフ君をうながしてもう一人の友達と三人、外へ出ました。広島町の町が消えています。建物がつぶれ、道もどこにあるかわからないのです。そのうち、つぶれた建物から火の手が上がり、対岸が火の海になりました。自分のいた側からは、その火を避けて一段低い川岸におりた人々が一人また一人水の中にたおれて死んでゆくのが見えたのです。でも、どうすることもできませんでした。我々は、川に浮かぶいかだにしがみつきの火のおさまるのを待ちました。

夜、その日勤労働員で出ていた女学生をさがしにきた親が、子どもの名を呼び続けていました。

水を求める人達に水を飲ませるとすぐに死んでしまします。これはいけないと思い、飲めば死ぬよと言ったが、それでも水がほしいと求められる。川の水だから、せめて湯にして飲ませたが、結果は同じでした。一週間、他の生存者達と共に大学構内で野宿し、生涯忘れられぬ体験をしたのです。」

ラザク先生は、日本へ留学する前、マラッカの興亜訓練

所に入っていました。そこは将来のマレーを指導する人間を育てるための施設でした。が、教育は日本の軍人により、軍隊式に行なわれていたのです。その訓練所時代のこと、ラザク先生は語ってくれました。「日本軍の占領後、マレー学校で三か月間、軍人による日本語の授業がありました。だめだったらならぬから、皆、懸命に勉強しました。そこから、成績のよい者が、マラッカの訓練所に進んだのです。そこでは、日本語、柔道、剣道、すもう、その他農業なども教えられました。軍事教練もありました。

毎朝六時、君が代と共に日の丸を掲揚するのが当番の役目でした。国を愛する心を育てるために、国旗に向かっていつも敬礼することを義務づけられ、おこたるとなぐられました。私がここで学んだのは、日本の精神であったと思っています。天照大神を敬い、国のため、天皇のために、しっかり、最後まで、死ぬまでがんばるという気持ちです。四十年前に教えられたそのことを、今でも覚えています。」軍政に対して否定的な声ばかり聞いていた私には、少々意外なラザク先生の言葉でした。被占領者でありながら、エリートとして育てられようとした体験から出てくる結論なのでしょうか。

(マレーシア日より 八十七年九月二十二日)

4. 手紙

戦争のことをあれこれ調べていくうちに、新しい視点が養われてきたように思えます。

かつて英国は工業原料を本国へ持ち帰るかわりに、大量の工業製品をマレーシアに売っていたのです。ところが日本の占領後は、工業製品は送られてはきませんでした。それだけの生産力を日本は持っていなかったのです。経済は大混乱を起こしました。

しかし現在、クアラルンプールの街には日本製品があふれています。

かつて日本軍がやろうとしたことは、今日、現実の構造となつて目の前にあるのです。

東南アジアに対する我々の姿勢には、戦前と戦後にどれほどの違いがあるのかなあと思っています。戦後の四十年とは、こうした構造を作り上げるために費された日々だったのでしょうか。

日本を離れて長くこちらで生活していると、国家の見方が柔軟になったような気がします。日本のように、経済面が特に進んでいる国もあれば、文化や宗教、芸術に秀でた国もあり、それぞれの国に、多くの人間が生きているだけなのです。そもそも優劣などつけられるはずもないのに、国家のみならず民族まで序列づけて考える傾向が日本人にあると言ったら言いすぎでしょうか。でも残念なことに、



かりと自立した個人であると信じているのです。

(両親への手紙 八十六年五月十五日)

東南アジアを見下したような態度をとる日本人がまだまだいます。国際性とは言葉を身につけることも大切ですが、それ以前に人間に対する思いやりがなければ何の意味もなさないし、同時に、自身に対する誇りもいるのだと考えるようになります。

すべての根底はしっ

ロンドン日本人学校の修学旅行

英国・ロンドン日本人学校

和気町立佐伯小学校 難波 朱美

ロンドン生活二年目の一九八六年四月、私は六年B組四十名を担任しました。六年生にとって最大の関心事は、何と言っても六月末の修学旅行です。三泊四日のスコットランドへの旅に、子供達以上に私が興奮していたと言えますよう。

一日目。キングス・クロス駅に集合。母親に送られて来る子、友達同士で誘い合って来る子など様々です。点呼が終ると九時発と十時発の二列車に分乗します。総勢百三十人の団体の指定席はととてもとることは出来ません。

子供十人に対して一名の引率者を義務づけているイギリス社会から見ると、百三十名の団体は、まず考えられないことです。

さて、インターシティーに乗り込み、約五時間で北の都エジンバラに到着します。途中には、ヨークやニューカールなどの古い町が車窓を通り過ぎていきます。このヨー



クの町では、その昔、城と教会のどちらを高くするかで大論争になったそうです。さて、どちらを高くしたでしょうか。

エジンバラでは、カールトンヒルのふもとのホテルに入ります。ここでも二つのホテルに分宿です。各自の部屋に荷物を置くところ余っているエネルギーを発散させるべく、アーサーズシートに登ります。八時になっても九時になっても沈まぬ太陽を背に受けながら見おろすエジンバラの町は、美しいの一語につきます。

ホテルに入ってから夕食は、近海でとれた魚のフライとポテトとニンジンです。デザートと紅茶で夕食が終わると、翌日の朝食について希望が聞かれます。イングリッシュファーストと言えば、フライドエッグ・ベーコン・ソーセージ・焼きトマト・トースト・紅茶ですが、ポイルドエッグ・スク

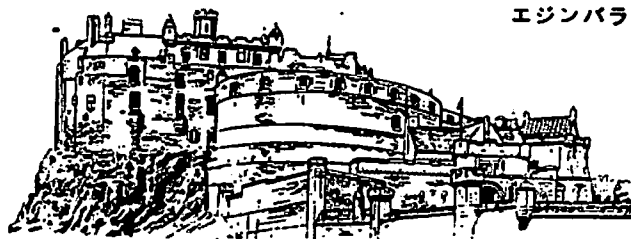
ランブルエッグでもいいし、ソーセージだけでもよいのです。また、ポリジと呼ばれるイギリス式おかゆでもよく、一人一人の希望が聞かれるのです。百三十人という団体に對しても個を尊重する精神をゆるがせにしない英国氣質をかいま見る思いです。

二日目。朝食をすませると歩いてホーリルード宮殿に向かいます。この宮殿は十二世紀初頭に寺院の迎賓館として建てられ、後十六世紀から宮殿として用いられるようになります。現在は、英国王室の北の宿となっています。だから王室または女王の代理が使用していない時のみ公開されるのです。この日はちょうどエリザベス女王のご滞在中で、見学することはできませんでした。この宮殿内のメアリ女王



の目の前で
恋人のリップ
ツイオが殺
されたとい
う、いわく
つきの館で
す。
次に、ホー
リルード宮
殿の前から

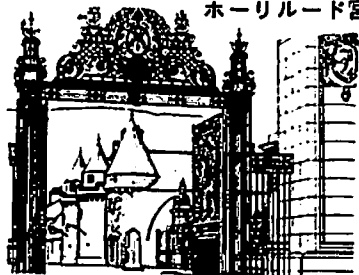
エジンバラ城



エジンバラ城に続くロイヤルマイルの途中のろう人形館に入ります。ここには歴史上の人物やおとぎ話の主人公達がろうで作られ、展示されています。中でもメアリ女王の断頭シーンは、ろう人形とはいえ、不気味です。

そこを出て坂道を少し、登ると、地表に大きく突き出した岩山に立つエジンバラ城に着きます。城内のテラスから見るエジンバラの街なみは絶景です。城内での見学は自由行動で行います。時間をうま

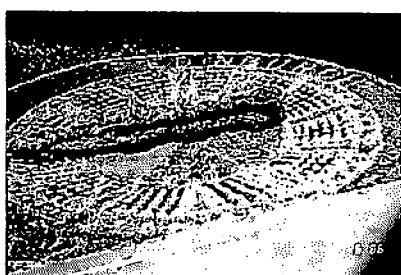
ホーリルード宮殿





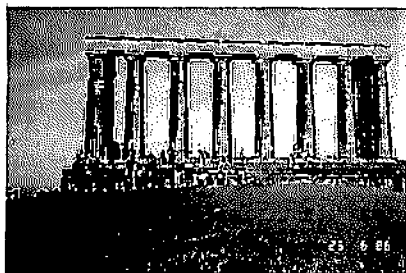
く使って見学したり、記念品を買いたりしていました。昼食をとるために城下の公園におります。そこには、ラベンダーとバラの花が咲き、リスがチヨロチヨロ顔を出します。日本での修学旅行と一味違うなと思うのは、こんな時です。また、この公園の入口では、大きな花時計が時を告げています。針まで花が植えてあるのは、世界中でここだけだと聞きます。

昼食後は、班別に市内見学です。出発前に立てた班ごとのスケジュールや地図を手にして、子供達が散って行きます。カメラ館・子供博物館・国立美術館・王立博物館・スコット記念塔・セントジャイルズ寺院・ジョンノックスの家等々、とても半日では見



切れない内容の濃さです。石畳の坂道を歩いていると、どこからかバグパイプの音色が聞こえてきます。北国の東の間の夏は、この地の最も美しい姿を見せてくれます。

この日は、夕食前の腹ごなしにカールトンヒルに登ります。広い広い草の上には、ローマの遺跡を思わせる柱がそびえています。これは何年か前に軍事博物館を建て始めたのですが、途中で予算がなくなり、それ以後放置されたままになっているのだそうです。ひとしきり遊んだ後に、大の字になって草の上に寝ころぶと、日本の秋を思わせる高い空が広がっています。そのままだ体中の力をぬいて、しばらく、自然との一体感を味わうのです。

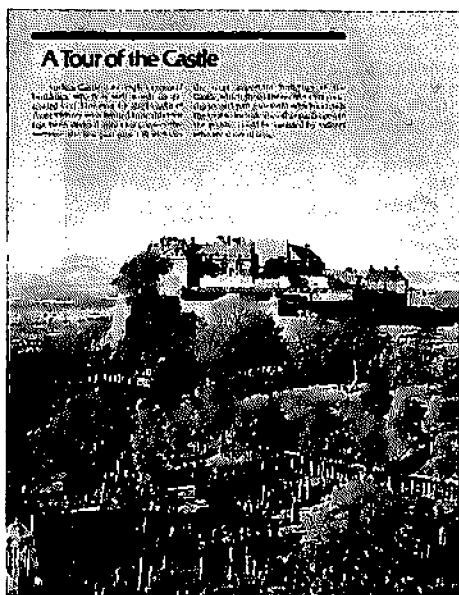


三日目。バスで北へ一時間。

スターリング城を見学します。

この城が語るものは、戦いの歴史です。一七〇七年、スコットランドがイングランド軍に破れるまで、スコットランドは独立した国家だったことを訴えている城です。スコットランドの人々は、自らをスコッティッシュと呼び民族の誇りを持ち、今でも独立を夢見ていると友人から聞いた言葉が生々しく思い出されます。

午後は、エジンバラ市内でショッピングです。ここでもグルーブごとの自由行動です。上着一面にバッジをつけている子、タータンチェックのサーフをお土産に買っている子、など様々です。夕食時にさっそくタータンチェックのネクタイをしてさっそうと食卓に



ついた小紳士達がいいたのには舌を巻きました。そして、エジンバラの最後の夜はディスコでしめくります。現地校育ちの彼らには、慣れているはずのディスコ大会も、日本人ばかりになると妙に照れてしまうというのも不思議な心理です。

四日目。エジンバラ城をじっと見つめる子供達を乗せたインタースティーが、ゆっくりと南下し始めます。四日目と言えどもわがクラスの子供達の元気さはおとろえず、残り少ない時間を惜しむように、おしゃべりやトランプに興

じます。

午後三時。インターシティーが静かにキングスクロス駅に着き、三泊四日の修学旅行が終了します。

イギリスにいと日本よりゆっくりと時間が流れるような気がします。修学旅行についても同じように感じます。百三十人がそろそろ連なって歩く場面を極力避けて、小グループで行動することによって、行動範囲が広がるのみならず、時間のロスが減少し、ゆとりが生まれるのです。また、集団で行動する時よりも各人が緊張し、自分の五感を最大限に働かせようとしています。なぜなら、人任せにしていると目的を達することが出来ないからです。

日本でも、ロンドン日本人学校のような小グループによる見学や自由行動を取り入れた修学旅行や遠足が出来たらいいのにはと思います。

「列を乱さないように。」

という言葉が消えるだけでも、気持ちにゆとりが持てるのではないのでしょうか。

先生の西洋見聞録

ドイツ連邦・デュッセルドルフ日本人学校
岡山市立高島中学校 三宅 詠子

このタイトルは、私が書いた文章に、生徒たちがつけてくれた愛称です。

滞独中に訪ね歩いた大作曲家の家々で、私が味わった深い感動や貴重な体験を、音楽の授業に生かせたら……、これから紹介する拙文は、そんな動機から生まれました。

「ベートーベンはいートホーヘン」が第一作ですが、中学生の必修鑑賞教材「運命」を聴くときに、補助教材として配ったのが始まりです。生徒がかなり興味と関心を示したのに力を得た私は、バッハ、モーツァルト、グリーグ、ドボルザークなどについても書いて、生徒に読んでもらいました。中学生向きに短くしたのが受けて、「次は〇〇について書いてほしい」と注文が出るようになりました。おかげで、十人以上の音楽家に関する中学生向きの読み物が、いつの間にか出来てしまいました。今回その一部をご紹介します。

ベートーベンはいートホーヘン

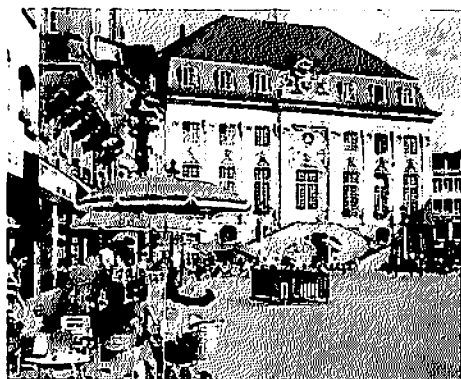


(ベートーベンの生まれた家)
この屋根裏で生まれたと伝えられている。

ベートーベンの生まれた家、ボンにあるこの家は有名なので写真でもおなじみだと思います。彼の作品を聞く前に彼の生家の内部について少し知ってもらいたいと思います。

最近岡山市にも竹久夢二の美術館が出来たり、彼の生家の傍にも記念館が建てられます。その国の文化に貢献した人を賛える気運が高まっています。ですがベートーベンの生家は世界的な音楽家の生家として、それはそれは大切に保存されています。

私は夫の海外勤務のため、三年間ドイツで暮らしたことがあるのですが、ドイツに着いて最初に、そして最も行ってみたいと思ったのがこの家でした。



(ボンの町)

現在のボンの市街。

ンの家はどこですか)
ところがこれがさっぱり通じません。親切そうなおじさん
は、

「はて、ベートーベンで何だろう」

すっかり考えこんでしまいました。私はボンに住んでいる
人が大ベートーベンを知らないはずはないと「ベートーベ
ン・ベートーベン」をひたすらくり返していました。

するとおじさんがボンと手を打って

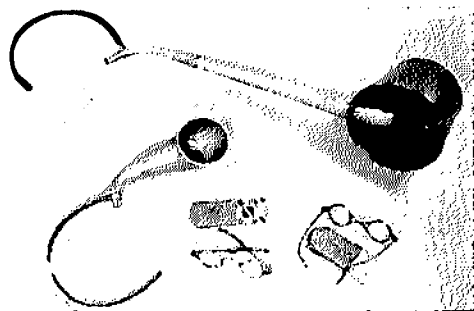
「おっ、ビートルホーヘン?」

西ドイツの
首都ボンは緑
の豊かな静か
な街です。

市内の広場
に車をとめて、
通りがかりの
おじさんにた
ずねました。

「ボーイス
トベートーベ
ンハウス?」
(ベートーベ

なるほどベートーベン Beethoven の綴りをドイツ語で発
音するようになります。というよりこちらの方が正しい発
音ということになります。それならここから近いと、連れ
て行ってくれました。写真で想像していたのと違って商店
の建ち並ぶ街中であつたのは意外でした。大きな濃い緑の
戸を押して中に入ると玄関を通りこした中庭に、写真でお
なじみ三階建の家が……。中に入ると右手に小部屋、目の
前に狭い木の階段があります。手すりも階段も多勢の人が
訪れた事を物語るように、よくすり減っています。愛用の



ベートーベンが使っていた眼鏡 補聴器

机の上には、インクつば
とペン立て、次の部屋に
ピアノの前身であるクラ
ビコードもありました。
特に目をひくのがパイ
プオルガンの鍵盤の部分
です。少年時代の彼がオ
ルガニストをしていた教
会の物だということです
が、とても大きな物が置
いてありました。

このベートーベンの生
家と隣接している家が記

念博物館になっており、愛用の品々や手紙・手書きの楽譜、肖像画、グランドピアノ等が置かれていましたが愛用の品の並べられてあるガラスのケース内には、耳が聞こえなくなった彼の為に考案された補聴器がいくつか並べてあり、それが彼の苦しみを象徴するように痛々しく思えました。

この博物館の一階は小ホールになっていて、日本の天皇、皇后がここを訪れた時には、エッセンバッハ（ドイツのピアニスト）がピアノを弾いてお聞かせしたそうです。

出入口近くには小さな売店があって、絵はがきなどちょっとした品が売られていましたが、そこで物色していると、ドイツ語の他に英語、フランス語そして我々家族の日本語（岡山弁）と、様々なことばが入り乱れて聞こえてくるのでした。それはとりも直さずベートーベンが世界中の人々から愛され、尊敬されていることを物語っているといえるのではないのでしょうか。

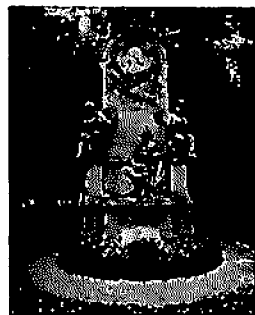
ベートーベンはその後、ウィーンへ出て音楽の勉強をします。そのウィーンにも彼が住んでいた家が何軒も保存されていて、世界中からそこを訪れる人が後を断ちません。

シューマンについて

かつて私が高校生だったころ、映画を見るのは大きな楽しみでした。その頃見た映画には、忘れがたい名画が沢山



今はもうとりこわされたこの橋から投身自殺をはかったといわれています。



ボンにあるシューマンとクララの墓

ありますが、シューマンの半生を描いた「愛の調べ」は特に印象深いものでした。

それは、ロバート・シューマンとクララ・シューマンの愛と苦しみを描いたもので、私は、シューマンの作品を世に紹介する女流ピアニスト、クララに女性の理想像をみていました。

シューマンは恩師、ウィーク教授のまなむすめクララと結婚したのですが、教授はこの結婚に大反対で、シューマンとの間に、裁判ぎたがあった程でした。

あらゆる困難を克服して結ばれた二人は、貧しいけれどこの上なく幸せに暮らします。愛する女性との結婚により、シューマンの創作意欲は燃え上がり、次々と素晴らしい作品を生み出したのでした。

次々と子供が生まれ、にぎやかな生活が展開します。「トロイメライ」や「楽しい農夫」など、愛らしいピアノ曲は、この幼い子供達のために書かれたものにちがひありません。しかしこの幸せな一家にいつの間にか不幸の影がしのびよります。それはシューマンの精神病です。

そこで夫の闘病と子供達の生活を支えるため、クララは再び楽壇に登場します。お乳をほしがってむずかる赤ちゃんを抱いて、楽屋で待っていたお守りのおばさんが、しびれが切れたのか舞台の袖で、クララにジェスチャーでその事を合図すると、クララは猛然と演奏のスピードをアップし、聴衆を驚かせる一幕など、忘れ難い場面として、私の脳裏に焼きついています。

その映画に登場した街、それが西ドイツのデュッセルドルフ市でした。

二〇年後、図らずも、私はその街に住むことになりました。遠い外国の物語、それがにわかに身近かなものとなり、シューマンを記念して建てられた「シューマン・ザール」シューマン音楽堂には度々足を運び音楽を聞きました。シューマンが、かつて指揮をしたデュッセルドルフ市のオーケストラが演奏するオペラハウスもいつの間にかおなじみの場所になり、日本人学校の音楽室にプログラムを貼って、演し物の紹介もしました。

又シューマンシュトラッセ（シューマン通り）のマンションに住む知人を訪問することも多く、作曲家シューマンは、私にとって以前のシューマンとは異なった存在になりました。

ライン河に架かる橋を渡る時にはいつも、私は病いがこうじたシューマンが、この河に身を投げた事件のことが頭に浮かびました。当時の橋は既に、なくなっているのとことでしたが、おそらく彼の住まいからは、あまり遠くない所に架かっており、その橋から飛び降りたに違いありません。

その住居は今もありますが、入り口の壁にシューマンが住んでいたことを示す表示板がはめこまれているだけで、他の人が住んでいますから、内部を見ることはできません。彼が河から救い上げられた後、入院した精神病院が、ボンの郊外エンデニヒにあり、今はシューマン記念館になっています。

今思うと、とても残念なのですが、私はそこへ行く機会をなくしてしまいました。

近くだからいつでも行けると思っていたうちに、帰国準備に忙殺される日が来てしまったのでした。でもボンにあるお墓にはお参りしました。

クララとロバートの像が彫り込まれたシューマン夫妻の

お墓の前で、三年間のデュッセルドルフでの私達の生活を振り返り、名残りを惜しみました。

ヨーロッパの三月は、春まだ遠しという感じで、薄暗い墓地に、冷えびえとした空気が漂って、家族四人もだんだん言葉少なく、沈んだ気分になってしまったのでした。

シヨパンの生家



フランスロマン主義の巨匠ドラクワが描いたシヨパンの肖像(1838年作/ルーブル美術館蔵)



シヨパンの生家

三年間の滞独生活を終え、帰国の途につく時、私達は是非ポーランド経由で帰りたいと思いました。目的は「シヨパンの生家」です。

ところがポーランドは共産国なので、多くの共産国がそうであるように、ポーランドの首都ワルシャワもホテル不足のため、何か月も前から手配をしないと、「とても家族四

人が泊まれる宿などない」とのこと、「残念だが仕方がないコースを変更しよう」という夫に、「空港のロビーで一夜を明かしてもワルシャワを一目見ておきたい。日本へ帰ったらまた出かけて来るのは大変だから、是非この機会に！」と私の思いはつのる一方でした。

その話を耳にした生徒のお父さんが、「何とかしてあげましょう」と色々手を尽くして下さり、出発三日程前にホテルがとれたとの朗報に接したのでした。このご一家も、とても音楽好きでしたから、私達に大変な理解を示して下さいましたのです。今思い出しても、このワルシャワの二泊三日は、ヨーロッパの数多くの思い出の中で、最も貴重なものとして、残っております。

シヨパンの生家はワルシャワから六十キロメートル程はなれた、ゼラソラボラという村にあります。

かつて何度も何度も写真で見たことのあるその家にたどりついた時、私は正面玄関にあの端正なシヨパンの姿を見る思いでした。

庭というよりは林と言った方がふさわしいような広い広い庭の中に、白い建物。

それは田園風景にマッチした平屋建ての家ですが、内部も白で統一され、建物全体は瀟洒な感じですよ。

シヨパンのお父さんはフランス人ですが、ポーランドに

住んで、上流階級の人々にフランス語を教えていました。そしてポーランドの女性と結婚しこの家に住んでいたのです。

広い庭には白いベンチが並べてあり、日曜日には、ピアニストによる演奏会が催されるのだそうですが、私達の行った日は、レコードで、注意すれば聞こえる程度に、かすかにショパンの曲が流れていました。

かなり多くの見学者が庭をそぞろ歩きしていましたが、聞こえてくる言葉がロシア語なのに気づき、ソビエトが近いかを実感したのでした。

ショパンの伝記によると、彼はこの家ではあまり長く住まなかったようで、ワルシャワ市内にあるもうひとつの家の方に住むことの方が多かったとのことでした。



ショパンの生家にて

でも、小さなフレデリック坊やが、お母さんの弾くピアノに耳を傾けながら、グランドピアノの下で

遊んでいた。という話は、いかにもこの家での物語にふさわしく思えます。美しいお姉さんがいて二人で迎撃をした子供時代、親しい友人や恋人、そして家族に見送られて、友人が贈ってくれたポーランドの土を胸に抱きしめ、勉学のためにパリへ馬車で旅立ったのも、この家の門の前から……と、史実に関係なく、私はそう思い込みたくなるのでした。

祖国を後にしたショパンは、リストの深い友情にも支えられ、パリの社交界にデビューし、ピアニストとして、作曲家として話題をさらう存在になります。

女流作家ジョルジュ・サンドとの恋など、華やかなゴシップに包まれた生活を送るのですが、一方彼はまた祖国を愛する情熱家でもありました。

ポーランドが外国の軍隊に侵略され、戦場となった時、彼も故国に帰り兵士になろうとします。しかし友人にひき止められ、その代わりに、祖国援助のための音楽会を催します。

有名な「革命」や「英雄ポロネーズ」には、戦争に対する怒り、祖国への思いがほとばしり出ているようです。

ワルシャワ市内の広い公園に、大きな像が建っています。平和と愛を象徴するような大きな翼の下で、ピアノを演奏している彼の姿は、剣を持たぬ「英雄」として、ポーラン

ド国民の誇りであるショパンが、世界中の人々に、その美
して音楽を奏し続けているようで、私は大空をバックに、
その大きな像を見上げながら耳を澄まして聴き入ったので
した。

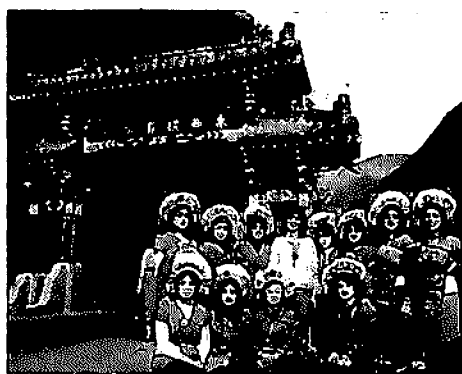
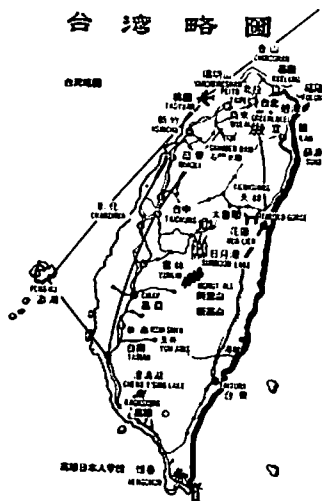
台湾の高雄 お国から

台湾・高雄日本人学校

浅尾 豊

「イラー・フォルモサ」(麗わしの島)。今から四〇〇年前、一五〇〇年の初め、ポルトガルの航海者が初めて台湾海峡を通過した時、萌える緑におおわれた美しい島を見て、そのすばらしさに思わず発した言葉である。

これが台湾をフォルモサ (Formosa) と呼ぶ起源になっている。日本人もかつて「蓬莱の島」、「高砂の島」な



太魯閣阿美族

どと呼んでいた。この呼称は、全島に熱帯、亜熱帯植物が繁茂し、一年中あざやかな色の美しい花々が咲き乱れる平和と、豊かさを十分に表現しているといえよう。

高雄の原住民は、高砂族のシ

ラヤ族で、かれらは、高雄をタカウ (TAKAU 竹林の意味)、と呼んでいた。その後、福建省から来た人は、それと同じ発音で、「打狗」と呼んだ。一九二〇年(大正九年)に、現在の「高雄」とあらためられた。

高雄のできた最初の地は旗津である。約三百年前(一六七三年)六人のりょうしが暴風で旗津にうち上げられて、そこに住みついたのが、高雄発展のはじまりといわれている。

その後、旗津から鼓山地区へ、そして埤埤地区へと発展

し、十八の集落が合併して、打狗街（町に相当する）となった。そして、一九二四年（大正十三年）に高雄市になった。

その後、市の政治をしやすいように一九四〇年（昭和十五年）に左営庄（村にあたる）を合併し（海軍基地がある）、一九四三年（昭和十八年）には、楠梓庄を合併（燃料所があるため）した。そして、現在の十区にわけられた面積百十七平方キロメートル全体を「高雄市」とよんでいる。

島全体は木の葉のような形をし、世界地図の上では豆粒ほどに見える台湾も、実際の面積は三六、〇〇〇平方キロメートルあり、日本の九州本島より少し大きく、オランダとは同じである。

北回帰線が中央の嘉義市付近を横断していて、これより南が亜熱帯となる。そしてその一〇〇キロメートルほど南方に、人口百二十五万人の高雄市がある。

この美しい高雄、港湾都市は、中華民國台湾の西南部にあって、第二次大戦中、高雄市は戦禍をもろに受け、台湾光復の初期は建設も国民生活もすべてゼロからスタートした。当時の人口は、わずかに十三万そこそこ。しかし、一九五三年に中華民國政府が三民主義（民族主義、民権主義、民生主義、の三つからなっている。政府の基本政策はすべてこれにもとづく。）の原理に基づき経済建設計画に乗り

出してから高雄市は、台湾全島の工業、経済、建設の中核へと発展し工業の中心となった。高雄市は世界十大港湾の一つでもあり、商工業発達の蔭で、市民の生活も豊かである。

また、観光都市としての高雄は、全市を見おろす寿山、情緒豊かな愛河、台湾西湖とも呼ばれる澄清湖、それに台湾で最大規模の孔子廟など、いずれも去りがたき風物の数々。

このほか、高雄近郊の仏光山、北港の媽祖廟、嘉義の阿里山、台南の安平古堡、等々名勝古跡で、絶好の観光地になっている。

増大する観光客のため中華航空（CAL）では、東京—台北—ルートを高雄まで延ばしている。

日本アジア航空（JAL）でも、東京—高雄間、大阪—高雄—香港間の定期便もある。便利で速い空の便に加えて、高雄を起点とするハイウェイ、縦貫鉄道、南部横貫国道などが縦横に走る陸上交通は、「南台湾の玄関・高雄」と呼ばれるにふさわしいものである。

国際都市・高雄は人情味と淳朴な息吹に接し中国料理・南国のくだものに舌つつみを打ち、素晴らしい風景をもって

いる。

気候は、北部と南部ではかなり異なり、北部の冬季は一



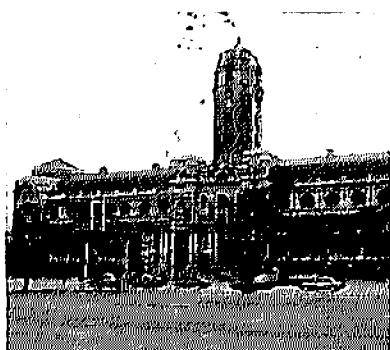
高雄駅

夏冬の著しい気温差はなく冬季より直ちに夏季に入る。こうした自然を背景に、動植物の分布は幅広く、中でも台湾チロウは、その美しさと種類の多さでは世界一といわれている。

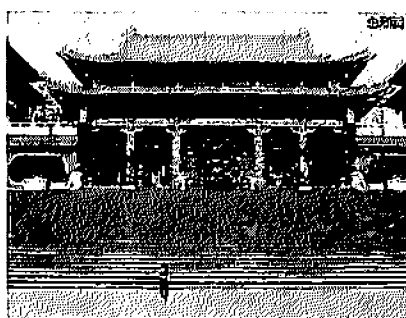
一口に「中国人」といってもその種族は数多い。そして、それぞれが独自の文化と言語を持っている。標準語は北京語（つまり中国語）となっているが、一番多い福建人は福建語（台湾語）を、また広東人は広東語を、その他十九種族もの山地人は独自の言語のはかに、いまだに日本語を共

般に天候は悪く、雨期にあたる。夏季は乾期というまでにはいかない。逆に南部は、冬季一般に天気が良く、晴天が続く乾期となる。また夏季は、雨期となりその雨は日中の暑さを吹き飛ばしてくれる。

各地の年間平均気温は、いずれの地も二十一度以上であり、



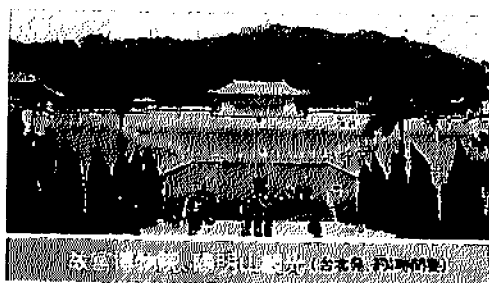
立法院



◎国父纪念馆 建物の父、孫中山(孫文)の偉業を記念する建物。

通語にしている者もいる。

しかし、何といってもこの国では伝統ある中国文化の精華と、中国人独特の生活様式と芸術文化のすばらしさを見逃すわけにはいかない。彼らの宗教生活と最も密接な関係にある仏教、儒教、道教の数多くの寺廟の赤、黄、緑とカラフルな瓦でふかされた屋根、石柱と壁に刻まれたすばらしい中国古風の竜、獅子や鳳凰の彫刻、今でも邪神や鬼を払うことが



USIS' / 実施人員 4 名より

世界四大博物館のひとつに数えられる故宮博物院は、中国文化芸術の最高の精華が集められています。芸術品の鑑賞もできることながら、美しい庭園の散策も楽しみ。台北郊外の陽明山は、中国式樹園の景勝地で、四季折々に花が咲き乱れ、山頂からの眺めも格別です。

できると信じられ、事あるごとにパンパン鳴らされる爆竹、線香の強い香り等、興味深いところがいっぱいである。

反面、着実な経済成長にともなうさまざまな近代化も目を見張らされるものがある。

百二十万強の人

口都市高雄は、工業都市として発展し現在も高雄臨海工業地区を中心として、第二の港や鉄鋼、石油化学、造船所、製鉄所等の操業により、高雄は、限らない大都市へと発展を続けている。

くらしと交通

（陸の交通）

高雄の都市計画は、一九三六年（昭和十一年）におこなわれ、当時、広びろとした田んぼに思いついた計画で道路

などがつくられたのがはじまりで、緑の並木があるきちんとした道路が、ごはんの目のように、はりめぐらされている。

タクシーに乗って行き先をつける場合、建物の名前より、道の名まえをいったほうがよく通じる。

一心路、二聖路、三多路……十全路と、一から十までの道のほかに、中正路、建国路などのように、すべての道に

なまえがつけられている。

この道を毎日たくさん車が走っている。最近車が増えてきたので、道路をつくったり、ひろげたりしている。

高雄駅は、南部の発着地点として、たくさん人の利用客でにぎわっている。鉄道は、すべて国営、バス（公共汽車）は「公路局」、汽車（火車という）は「鉄路局」として、国が経営している。バスは私営もあるが、規模が小さい。

（海の交通）

高雄の港は、貿易商船や漁船、軍艦などがある重要な国際港で、アジア地区におけるコンテナの集散センターとしての役わりもはたしている。一九七七年（昭和五十二年）に第二港口と小港との間の百十ヘクタールに百万トンドックの造船所がつくられている。日本の長崎とともに、世界に二つしかない大きな造船所で、鉄鋼その他の関連工業の発展をもたらし、港は、さらに活気づいて

いる。

客船としては、高雄⇄馬公間の定期便がある。

（空の交通）

高雄の飛行場には、台湾にある二つの航空会社（中華航空と遠東航空）の飛行機が、週に二百三十便以上発着している。また国際空港としての高雄は大きく発展を続けている。

めざす教育立国

「自立自強」という、国家目標のもとに教育理念の実践に努めている台湾。教師も背筋を伸ばし、こどもたちは恵まれた教育環境の中でびのびと学習している。

三民主義の理念にもとづいた健全な国民の養成。国父の孫文が国づくりの基本方針とした三民主義は、教育理念として認識を深めることにある。

国民教育の柱は、一つが五育のバランスある発展、もう一つが儒教の精神を基本とした道徳教育といえる。

五育というのは、徳育、知育、体育、群育（団体活動）美育（情操教育）のことで、どれにも偏重しないよう教育現場では研究されている。

道徳教育は、あらゆる教科を通じ、あらゆる機会をとらえて行われるべきであるとされている。



市立高雄高級中学、全面



高雄日本人学校

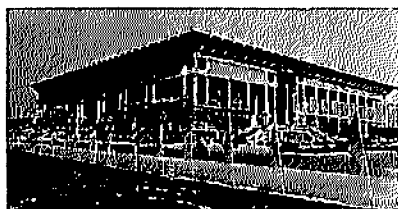
小学校では「生活と倫理」、中学校では「公民と道徳」、高校では、「三民主義」、大学では「国文思想」のカリキュラムが組まれ、毎日二十分、始業前のホームルームの時間、また、道徳時間で教えられている。

台湾における国民的道徳価値は、儒教的

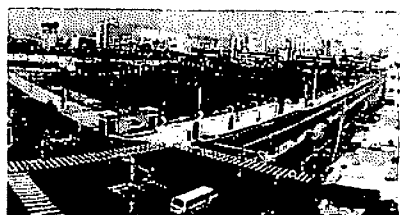
思想の四維（礼義廉恥）八徳（仁義礼智忠信孝悌）にある。また、女子高校といえども、軍事教練が課せられている。孔子誕生日の九月二十八日を「教師節」として教師を尊敬し、小中学校教師の所得税を免除、さらに教師の給料を行政担当の教育公務員より三〇パーセント高くしているのが教師は胸を張って仕事をしているのである。

日本人と台湾との関係

日本人と台湾の間柄は中年以上の人であれば、判っている



外観山觀我壯麗，全面



のではなからうか。それだから年間七十万人以上もの日本人が訪台するのである。

日本人観光客の足跡は決して常識通りとはいえない。これは、台湾のみに限られたことではない。世界各国の観光地でよく聞く日本人への評価である。日本国が現在世界の大国を相手に経済で対処しているのも故蒋介石總統の恩恵の賜ものと思っている人は少ないのではなからうか。第二次世界大戦終結、連合国の日本本土占領となった時、ソ連側の申し出は、本土二分割を要求し、北海道を含めて中部以東の占領を目標としたが、マッカーサ總司令と、蒋介石總統の強い反対意見でソ連の要求は退けられたと終戦誌の一頁にある。

このことは、日本人として日本国が存在する以上決して忘れてはならないことである。

悲しいかな現在では国交は断絶し、民間交流としてすべての面を司どっている。

もう少し台湾の土を踏んだ日本人なら常識的な行動をすべきであろう。日本人の行くところ、物価の値上がりあり

と言わしめるような言動はさけるべきであろう。

この実情は、一九八三年現在のものである。

タイ人から見た日本人

タイ・バンコク日本人学校

有 吉 捷 郎

日本からの援助について

ルアムボン・コーシットチラナン

このあいだ私はたいへんきょうみぶかいざっしのきじをよみました。

それはチュラロンコンだいがくのおこなったけいざいえんじょについてのきじでした。そのちようきによるとタイ人は今いちばんタイをえんじょしているくにはアメリカだとかんがえているそうです。

けれどもじっさいはいちばんえんじょしているくには日本なのです。日本がタイにくらえんじょしてもタイ人はそれをしりません。そしてタイ人は日本のえんじょのしかたがよくないとかんがえているそうです。日本人はタイ人がおんをしらない人たちだとおもうかもしれません。これはどうしてでしょうか。

私はタイと日本でえんじょにたいするかんがえがちがうからだとおもいます。タイ人の考えではえんじょしたら、えんじょした人はみかえりをきぼうしてはいけません。それはタイのぶっきょうではくどくをほどこしたら、みかえりをきぼうしてはいけないとタイ人はかんがえるからです。タイのぶっきょうはタイ人のかんがえがたいへんつよくえいきょうしています。

たとえば、日本はタイにびょういんをたてるえんじょをします。そのとき日本人は日本のかいしゃがびょういんをたてることをきたいするでしょう。これはタイ人にとってはりかいできないことです。びょういんをたてるえんじょはくどくをほどこすことですからしゅうえきをきたいしてはいけないとタイ人はかんがえます。

私もはじめ日本人はこころがきたないとおもいました。けれども日本ごをべんきょうし、日本人のせんせいとはなしたあと日本人のかんがえがすこしわかりました。日本人はタイにえんじょするときそのえんじょがせいこうするかどうかたいへんしんぱいします。またそのえんじょがせいこうしたかどうかとてもしりたいのです。そしてもんだいがあればタイ人といっしょにかいけつしようとしています。

ですからえんじょしてもタイ人にぜんぶまかしてしまわないで、日本人はタイじんといっしょにしたいとかんがえ

ます。

タイごでえんじょは chueiwa です。この chueiwa と えんじょのことばのいみはにています。けれども日本とタイのぶんかはちがいますからことばのいみにはちがいがでてくるのではないでしょうか。

私は日本人とタイ人がおたがいのぶんかやしゃかいをもっとべんきょうし、おたがいのごかいをかいけつすることがいまいちばんひつようだとおもいます。

そのためにタイやご日本ごのべんきょうがりうほうのくにでさかんになってほしいとおもいます。

かっぺちゃん

ブソルアソ・サイロー

日本のマンガに「かっぺちゃん」というのがありました。ストーリーはいなかから都会にでてきた少年が色々な失敗をします。いなか者のことをいなかっぺというそうですが、そのいなかっぺのうしろの方のかっぺだけをとりあげてその少年はみんなに「かっぺちゃん」「かっぺちゃん」とよばれていたのです。

いなか者が都会にでてきて色々な失敗をするのは当たり前だと思うのですが、それを都会の人たちは「かっぺ」「か

っぺ」とか「ダサイ」「ダサイ」といって笑うわけです。

実は私もこのかっぺちゃんと同じいなかの人間でパンコクにいる友だちに「いなか者、いなか者」と笑われているのです。

でも私にはよくわからないのです。同じ年令同じ学校で学んでいながら、ただ私の出身が地方だからという理由で「かっぺちゃん」といわれるわけがわかりません。

たしかに私は友だちの言うとおりにおくられているかもしれませんが。おくられているということが人間のかちをさめるものなのでしょうか。

このような考え方は、たんに個人の間だけではなく、国と国との間にもあります。

たとえば、日本ではタイのことを発展途上国といいます。低開発国とか後進国ということばも使われたことがあるようです。発展途上といえば何かこれからどんどん発展していくという意味でとてもいいじゃないかと言われるかもしれませんが、私は「お前の国はおくられているぞ」というように聞こえます。まるで「かっぺちゃん」のようにかんじるのです。たしかにタイは、遅れている面がたくさんあると思います。発展途上国というさいごの国ということばにていこうをかんじるのです。

あなたの国は、これからもどんだんのびていきますねと

いわれるのはちがうと思います。日本では差別ということについてはとてもびんかな国と聞いていますが、自分の国の中だけ日本人の中だけでびんかんでは困ります。

相手を自分よりおくられているという見方をすることは差別ではないでしょうか。いったい進んでいるとかおくられているということはどんなことなのでしょう。たとえば、これを都会といなかで考えてみたいと思います。

都会での生活は便利　いなかの生活は不便

都会は物がゆたか　いなかは物がない

都会はモダンでスマート　いなかはどろくさい

こんなくらべ方で、いなかはおくれていると考えてはいけないと思います。人間が健康で気持ちのよい生活をするかんきょうが都会にあるでしょうか。私たちが何よりも必要なきれいな空気、しぜんな食べ物はいなかにあります。

都会の人が忘れてしまったあたたかい人情がいなかにあります。国と国で考えてもにたように思えます。

日本の生活は物もゆたかで便利。タイは物も少なく不便、日本は金持ちでタイはびんぼう。だから、タイはおくられているといういい方はどうでしょう。

たしかにタイは、物の面でも金の面でもゆたかではありません。しかし、心のゆたかさややさしさでは負けないと思っています。

タイの国には、たくさんの方の外国人がおとずれますが、中には差別の目で私たちを見ている人もいます。

その外国人には、わからないでしょうが、私たちにはよくわかるのです。また、たくさんの方の外国の企業がタイに進出してきていますが、この中に、もし、タイはおくられている国という考えてきた企業があったら、私はとても心配です。

かっぺちゃんには、いなかっぺのいい所があるのです。同じ人間どうしですからもっともあたたかい目で、いなか者を見てほしいと思うのです。

これが私のような「かっぺちゃん」のねがいです。

どうもありがとうございます。

タイ語も勉強して下さい

ムアンタワン

皆さんは日本人が買物をしたり、タクシーに乗ったりする時どうしてタイ人よりも値段が高くなるかを考えたことがありますか。簡単に言えば、彼らが外国人だからですが、他にもっとふくざつな理由があります。それは彼らが日本人で、タイ人は日本人があまり好きではないからです。タイ人は他の外国人と比べたら、日本人に対してあまりいい

感情をもっていません。それはどうしてでしょうか。

まず第一に、タイ人は日本人が信頼できないと思っています。たとえば、日本で今年の五月にボクシングの試合がありました。タイのナバーさん対日本の井岡さんでした。その試合の最後のラウンドでまだ二分ぐらい時間が残っていたのに、レフリーはベルを鳴らしました。井岡さんをノックアウトさせないためです。タイ人はおこりました。もし他の国で試合をすれば、こういうことは起きないと思います。

次にタイ人は日本人が卒直ではないという印象をもっています。何をするときでも、礼儀作法にしたがい本当の感情をなかなか表しません。たとえば、日本人はプレゼントをするときはいつもつまらない物だ、と言います。タイ人はつまらなければどうして他の人にあげるのかと思います。また私は日本人の友達と一緒に遊びに行ったことがあります。私はその人の分もバス代を払いました。その後会った時にバス代を払ってくださって、どうもありがとうと言いました。私は二バーツだけなのにどうしてありがとうと言うのか不思議でした。たぶん本当のありがとうではないでしょう。

最後に、日本人には利己的な面があるとタイ人は思っています。たとえば、私の友達に日本人の友達にタイ語を教

えてあげましたが、その人はタイ語で話そうとしません。ここはタイなのにいつも日本語で話します。私達は日本へ行くと、日本語で話さなければなりません。タイでも日本人と話す時は日本語か英語です。これは不公平ですね。その他に日本人はタイに住んでいながらタイの習慣をあまり理解しようとしません。逆にタイ人に日本の習慣を教えたがります。たとえば、日本人はそばとかラーメンを食べる時、音を出します。タイ人が音を出さないで食べると、日本人は音を出した方がいいと言います。でもタイ人にとってそれはよいマナーではありません。

こういうふうにタイ人が感じるのはおかしいでしょうか。私はこのことが全部正しいとは思いませんが、あたっている点もたくさんあると思います。日本語を勉強している一人の学生としてこれは本当に残念なことです。タイ人と日本人はおたがいもっと理解し合えるはずですが。そのためにはタイ人の私達はもっと日本語を勉強しましょう。そして日本人にはぜひタイ語を勉強してほしいと思います。たとえば下手でも、一生懸命話せば、タイ人はとても喜びます。そうすればきっと私達はおたがいにより友人になれると信じています。

御せいちょうどうもありがとうございました。

父の遺産

ナムティップ・セーテ

この私のスピーチをこの世で一番聞いてほしい人、それは私の父です。でも父は私が大学三年の時、なくなりました。私はその父のすすめで日本語を習うことになったのです。

父は心の底から日本を愛した人でした。若いころに日本に留学し、その後も日本人とのビジネスを続けたせいでしょう。父の日本びいきは本物で、お父さんっ子の私をつかまえては「日本はとても美しい国なんだよ。人々も時間や規則をしっかり守って他の人に迷惑をかけない。あんなにテクノロジーを発展させながら古い文化もちゃんと守っている。」と、目を細めて私に日本の話をするのでした。

でも、当時、ほとんどのタイ人は日本や日本人を何か気に入くわないと思っていました。「日本がタイとつき合ったり、援助をしたりするのは品物を売るために利用しようとしているんだ。」「日本人は自分達が世界で一番えらいと思って、他の国の人を軽べつする。」などと言っていました。日本びいきの父もいつも批難されていたのです。私はどちらを信じたらいいか分からなくなり、「パパ、本当に日本や日本人

がパパの言う通りだったら、どうして皆があんなことを言うの。」とたずねたことがあります。父はただ「お前も日本語を勉強し、日本人とつき合ってみてから、自分で判断しなさい。」と言っただけでした。こうして、私は日本語を勉強し始めたのです。

その父が体を悪くしたのは私が大学に入ったころでした。しかし、父は私のために病氣と闘いながら働き続けたのです。父の期待に応えようと本気で勉強するようになってからだんだん日本語の面白さが分かってきました。私にとって日本語を勉強するのはまるで一人の友達とつき合うようなものだったのです。

彼の性格、人柄を知り、長所・短所などが分かるようになるれば彼とのつき合いはうまくいくと言うわけです。

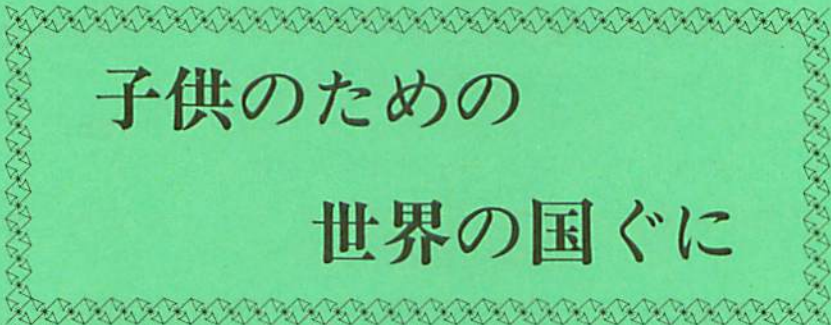
確かに父の言うように、日本人の勤勉さ、規律正しい生活、高度の技術など、タイ人が見習うべきこともたくさんあります。でも経済力やテクノロジーの発達によりかかって、モラルを忘れ、国際性に乏しい言動をとれば日本人は「つめたい。」とますますタイ人の反感を買うことになるのも当然だと思えます。でも、日本人は本当につめたいのでしょうか。

日本人は自分達をえらいと思い、他の国の人を無視したり、軽べつしたりするのではないと思えます。ただ、言葉

や態度で率直に感情を表わすのが苦手、内気さ、弱さをおくそうとするために、タイ人ともあまりつき合おうとしないから、「つめたい」と誤解されるのではないでしようか。もし、タイ人が本気で友達になろうとすれば、きっと友情で応えてくれると、私は信じています。

私はそんなことを病床の父に話しました。父は笑いながら「お前、もうパパより日本のことにくわしいなあ。」と言ってくれました。その満足そうな表情を見た時、父が私に何を望んでいたのか、よく分かったような気がしたのです。

その父は昨年、亡くなりました。しかし、日本語の勉強を続けることで、いつも、私は父とつながっています。私の日本語は父からもらった大切な宝物なのです。私はもっとも日本語を勉強して、父からもらったこの遺産を父の愛した、このタイと日本のために役立てていこうと決心しています。そうなれば、父もきっと、喜んでくれるでしょう。



子供のための 世界の国ぐに

—小学校高学年から中学校3年を対象として—

〈内 容〉

1. 『北京』ってどんな街-----渡辺 光
(中国・北京日本人学校)
2. 子供のためのヴェネズエラの歴史 I-----難波勢津子
(ヴェネズエラ・カラカス日本人学校)
3. サウジ・アラビア-----神田 進
(サウジアラビア・ジッダ日本人学校)
4. 子供のためのメソポタミアの旅-----市原 誠二
(イラク・バグダッド日本人学校)
5. ブラジル-----守屋 俊憲
(ブラジル・リオ・デ・ジャネイロ日本人学校)
6. 韓国との交流-----鈴木 秀樹
(大韓民国・ソウル日本人学校)
7. みどりのペナン島-----安部 町江
(マレーシア・ペナン日本人学校)
8. ポーランド点描-----村瀬 憲正
(ポーランド・ワルシャワ日本人学校)
9. パキスタンという国について-----藤木 靖史
(パキスタン・カラチ日本人学校)
10. ギリシャの子どもへ質問します-----徳田 真人
(ギリシャ・アテネ日本人学校)
11. 宝石の島-----沼本 泰知
(スリランカ・コロンボ日本人学校)
12. Favourite Stories From Asia (Part II) ---井関 繁孝
(インドネシア・ジャカルタ日本人学校)

『北京』って どんな街

中国・北京日本人学校

岡山市立桑田中学校 渡 辺 光

はじめに

皆さんは北京、または中国についてどんな事を知っていますか。

万里の長城、天安門広場、毛沢東、太極拳、一人っ子政策？昔から、日本との関係の深い、四千年の歴史をもつ中国その首都である北京、北京は一体、どんな街なのでしょうか。

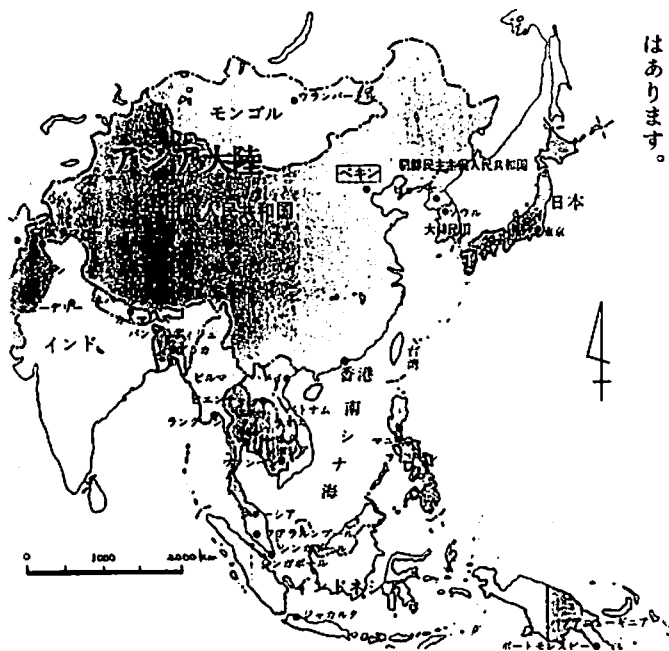
一、自然と位置

北京は華北平原の西北に位置し、一万六千八百八平方キロメートル（岡山県の約一・五倍）、人口は約九五〇万人、緯度は北緯四〇度、日本で言えば秋田市か盛岡市付近にあたります。東京からジェット機で約四時間です。

北京の春は、だいたい四月の初めごろから始まります。気温の上昇が早いので、四月初めに、厚ぼったい綿入れ（大

衣）を脱いだかと思うと、五月初めにはシャツを着ることになります。春の風物詩、柳じょ（綿毛のような柳の種子）が飛ぶのもこのころです。

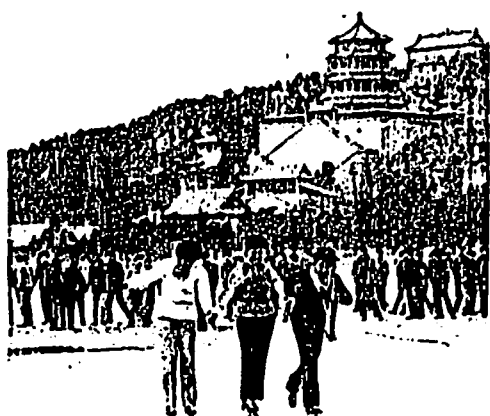
また、風や砂に悩まされる季節でもあり、ときに、大風の前に、空じゅう黄砂で、まっ茶色に染まる日が二、三日はあります。



六、七月は暑く、日中は三〇度を超えるが、木陰は涼しく、日本のような蒸し暑さはありません。

九月の終わりが、秋に入ります。秋は一年の中で最も短い「北京秋天」として、北京っ子に一番愛され、空は澄み、最高の季節です。

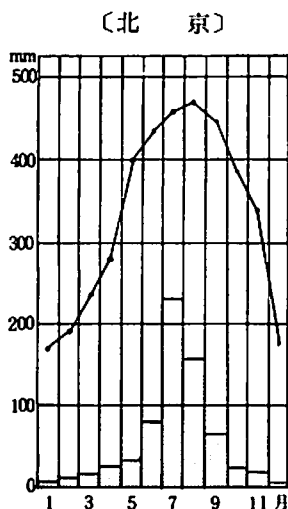
そして、十月の終わりが、もう長い冬に入ります。冬の最低気温は零下二〇度以下で、外の寒さは厳しいものです。ただ部屋の中は暖房設備があり、さほど不自由さは感じません。



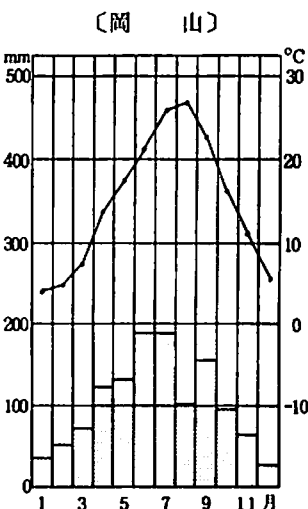
頤和園でのスケート。天然のスケートリンクで北京っ子は冬のスポーツを楽しみます。

二、北京のシンボル——故宮

故宮、それは故の宮城の意味で、紫禁城ともいわれ、北京の街のまん中にあります。故宮は今から約六〇〇年前、明という時代に二〇万人の人々を使い、一四年間かかって

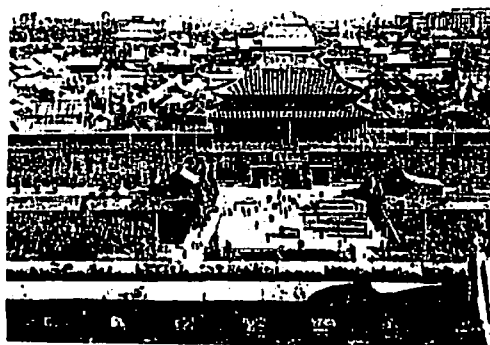


年平均気温 11.6℃
年降水量 644mm



年平均気温 14.6℃
年降水量 1223mm

造られたそうです。今は故宮博物院として、一般の人々に開放されています。



故宮（景山より臨む）

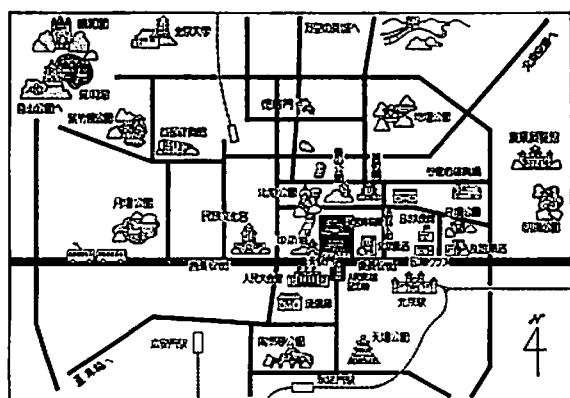
南北九六〇メートル、東西七五〇メートルあり、甲子園球場の約一八倍の広さをもち、高さ一〇メートルの扉でとり囲まれています。ここで明から清という時代、約五〇〇年の間、皇帝を中心とした人々の

生活が繰り広げられたのです。

また故宮の北側には景山があります。高さは約九二メートルしかありませんが、北京の街では一番高い山で、昔、皇帝が人々に命令して造らせた山なのです。景山に登って、まわりのようすをながめると、街のつくりがよくわかります。南側には、広い故宮がゆったりと広がり、その中央を南北に一直線上に、主要な建物が配置されているのがわかり

ます。また、遠くに、天安門広場が望めます。この直線は故宮だけでなく、その線を南に延ばすと、永定門まで、北側に延ばすと、昔、北京の人々に、「時」を知らせた鼓楼まで貫きます。つまりかつての北京城の中心線をなしているわけです。

このように、故宮を中心として北京の街は左右対称に街づくりがなされているのです。

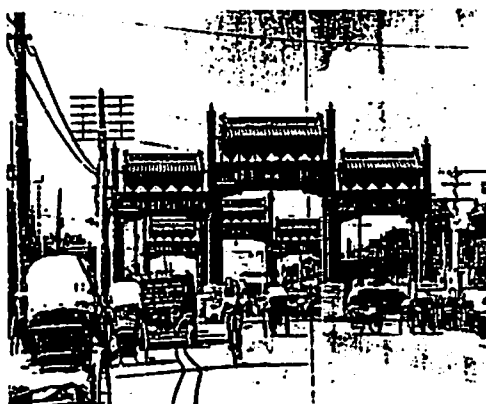


新北京歳時記、中野謙二（東方書店）より

三、昔を伝えるもの

長い歴史をもつ北京には、故宮以外にも、昔の様子を伝える建造物がたくさん残っています。これらは、今でも、大切に扱われています。

(1) 牌楼



むかしの牌楼

牌楼は、昔は北京の街のいたるところにあったわけですが、新しい北京の区画整理によって、とりこわされてしまい、今では数ヶ所しか残っていません。

(2) 徳勝門

徳勝門は北京の西に位置し、明代に造られたもので、北京の街を外敵から守るうえで大切な門で、昔は砲台がおかれていました。



徳勝門

ますが、今のものは明代に完成されたものです。

(3) 万里の長城

万里の長城は、皆さんもご存知の「月から見える」といわれる世界一の建造物です。

東は山海関にはじまり、西は嘉峪関に達する大きな城壁で、その長さは約六〇〇キロメートルにも及びます。長城といえば秦の始皇帝を思いだします。



万里の長城

四、美しい街

北京の街にはごみひとつないと、よくいわれますが、果して、本当でしょうか。

生活が豊かになるほど、ごみの量は増えていくものです。北京もその例外ではありません。

現在、北京のごみの始末は、市の環境衛生部が中心となつて、早く衛生的に集めるように工夫しています。市では、毎日六〇〇台余のごみ収集車を使ってごみを集めています。



街をきれいにする人たち

しかし、日本のように、燃えるゴミ、燃えないゴミといった種類分けはしていません。ただ、集められたごみは、近くのごみ捨て場へ運ばれるのです。また、清掃処理工場のようなのはありません。



清掃車

また、道路や公園は、竹ぼうきで、きれいに掃除されます。そのうえ、夜の間に、清掃車や散水車がブラシをまわしながら、ごみを吸いとり、水をまいたりして、街を美しくしているのです。

国慶節や春節など、大きな行事のある時には、なお一層、きれいに掃除され、道路には鉢植えの花が見事に飾られ、美しさをひきたたせるのです。

五、王府井と自由市場

北京には商店がたくさん集まって、商店街をつくつていくところがあります。そのなかで、北京の銀座と呼ばれるのが王府井大街です。

王府井は北京で一番にぎやかで外国の人達にも知られて



王府井大街

いる有名な商店街です。北京飯店という大ホテルがありますが、そこから北に折れた大通りに、一〇〇以上の店が並んでいます。二つのデパートを初め、食料品、茶、衣料品、本、書画写真、時計、めがね、薬、家具など、ありとあらゆる商品が売られています。北京の人だけではなく、中国のいろいろな地域から来た人や外国人もここに来て、散歩やショッピングを楽しみます。ここを訪れる人は、一日で約四〇万人に達するということです。（その内、半数は北京以外のおのほりさんたちだそうです。）

また、街のあちこちには、たくさんのお自由市場（正しくは農易市場）があります。野菜、果物、肉、魚などの食料品や工芸品、洋服、植え木、ペット類、そして家具にいたるまで、いろいろな品物が売られており、市民生活にうるおいを与えています。外国人の達



はかり売りをしているところ



自由市場

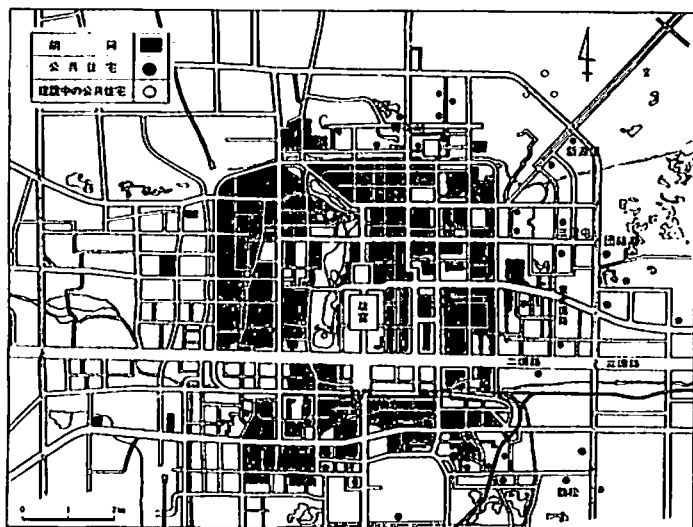
も自由市場へよく訪れますが、中国の人々の生活ぶりが、とてもよくわかり、外国人にとって、興味のある場所です。

六、胡同と高層アパート

北京は古いものと新しいものがうまく調和した街です。広くて、大きな、しかも近代的な建築物が立ち並ぶ長安街を一步、脇に入ると、びっくりするほど景色の違う町並みが続いています。高層ビルの建設ラッシュの北京にあって、そこだけが、まるで別世界のような静かな町並み、それが胡同です。幅の広い所でも、四・五メートル狭い所では一メートル前後、土壁にはさまれた細い道が静まりかえっています。こうした北京の露地（横丁）を胡同といひ、古き街としての良さを漂わせています。



胡同



胡同と公共住宅のあるところ

北京には大小あわせて、約四千五百の胡同がありますが、そこで暮らす人々の多くが住宅の狭さに頭を抱えています。宿題をする子どもと、仕事をする親が一つの机をとりあったり、寝るにも一つのベッドに寝たりということがあっ



新しい公共住宅

て、子どもが大きくなるにつれて、問題も大きくなっていくのです。
夏になると、夜遅くまで、夕涼みをしている人々を多く見かけます。狭い住宅ですから、蒸し風呂のような

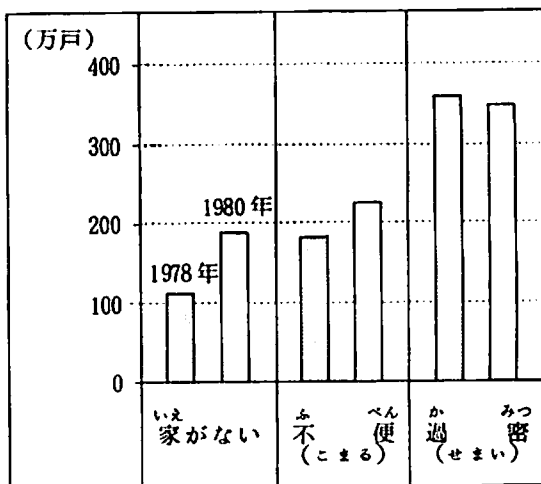


新しい住宅の室内

暑さに、なかなか寝つけないのでしょう。このように、住宅問題は北京にとって、一番大きな問題となっています。
そのため、最近、北京の城外のあちこちにつきつぎ、高層のアパート（公共住宅）が建設されています。

日本と違い、中国では仕事や

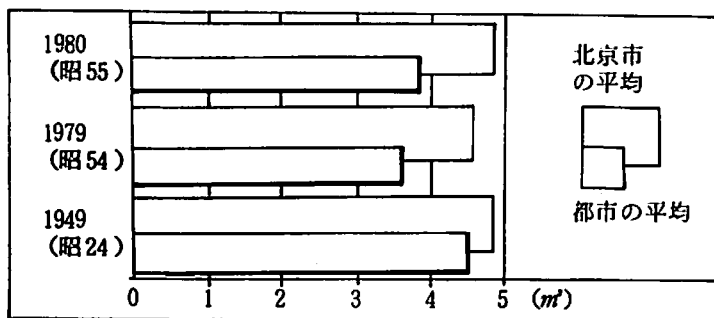
都市の住宅不足のようす



住んでいる所（職場単位・居住単位）で分配されます。普通八人ぐらいで一戸（二DKとトイレ）に暮らしています。トイレが共用のところもあります。家賃は一平方メートルあたり、一・六八元（日本円で約八〇円）という安さです。最近では、個人向けの住宅も売れはじめていますが、まだ数は少なく、多くの人にとって思うような住宅に入居することは大変困難なことなのです。

北京では二〇〇〇年までに一世帯に一住宅、一人当り八

都市の住宅水準
(1人あたりの居住面積)



平方メートルの居住面積を目標にとりこんでいるそうです。

七、交通

事情

朝、夕のラッシュ時には、暑い時も、寒い時も、自転車を黙々と踏んで、自分の目的地へ急ぐ人々を見かけると、中国の人々のたくましさを感じずにはおられません。

さて、北京は中国全土をめぐる交通網の中心です。鉄道は北



古い顔と新しい顔

に入れることは大変困難なことで、長い行列をつくっている光景には驚かされます。

北京市内の交通は、バス(公共汽車という)・トロリーバスが中心です。ある調査によると約一〇〇〇万人に近い人々が住む北京では、毎日八五〇万人がバスを利用しており、これに対して動く車輛は四〇〇〇台だそうです。いかに混雑するか想像がつくでしょう。

また、自転車やバイクも増え、さらに、最近(一九八五年ごろ)、タクシーの台数が急が増え、交通渋滞や交通事故

京を中心に東西南北にのびており、モスクワ、ウランバートル、平壤へ向かう国際列車もあります。北京駅はその玄関口であり、毎日、たくさんの人で、ごった返しています。とくに、春節の時間ど、中国の人々にとって、切符を手

国内の八十六の都市が空の便で北京と結ばれており、とくに、上海、廣州、昆明、成都など大都市からは、たくさんの人達や、多くの産物が運ばれます。

また、近年、外国からも、多くの観光客が訪れています。たとえば、北京を訪れた日本人の観光客は、一九八二年の三十六万人から、現在では、百万に近い人々に増え続けています。



朝のラッシュ

の多発（東京より多い）など、いろいろな問題ができています。

一方、空の玄関としては、北京国際空港がその重要な役割を果たしています。



トローリーバス



立体交差



交通渋滞

ハ、うつりかわる北京

いま、北京は、めざましいスピードで発展しています。

この五年くらいの間、高い建物や広い道路、高速道路を思わせるような立体交差などが次々に建設されています。

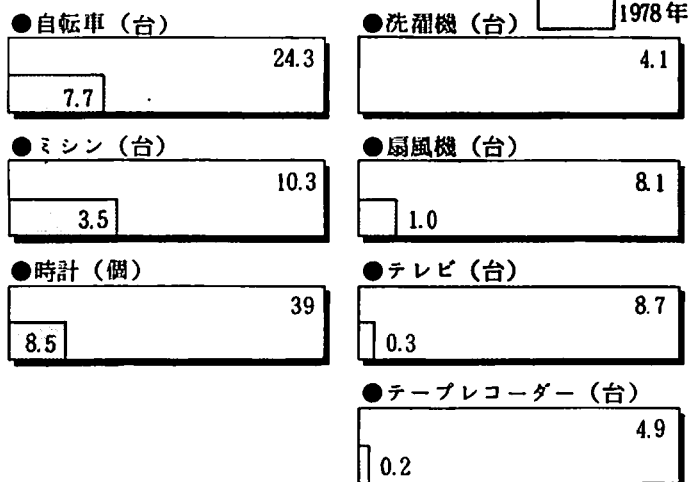
立派なホテルも市内のあちこちにでき、日本と同じようなスーパーマーケットも登場してきました。

しかしながら、こうした近代化の波の影には一方では、古い北京の良さが、年々失われつつあること

は、とても残念なことです。

また、人々の生活も、どんどん変化し、改善されています。

都市部の家庭における自転車・ミシン・時計・扇風機の



（100人当たりの所有状況）

1978～86 中国の人々の生活のうつりかわり

（生きた中国学 小島朋之 学陽書房より）

普及率は七〇パーセントを超え、農村でも四〇パーセントに達しており、昔とは比較にならないほど、豊かになっています。

更に、食生活のうえでも、肉や魚・卵などの栄養豊富な食品の消費が増加しており、生活はしだいに向上していることがうかがえます。

しかし、まだまだ、生活環境への不満は根強く、たとえば、北京では、常に二〇パーセントの電力供給不足で一週間に一回の停電はあたり前となっています。私がいた、北京日本人学校も、中国人用の校舎を借りていた時は、その停電を補うため日本から発電機をとり寄せました。そうした停電の不便さを痛切に感じるがあります。

おわりに

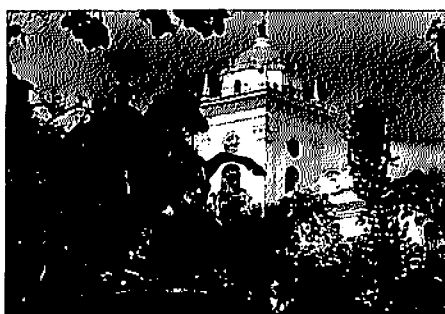
いろいろな角度から、北京を紹介してきましたが、少しは、北京がどんな街か、イメージがつかめたでしょうか。中国と日本は同じアジアに位置し、隣国同士です。今後、ますます、日本との友好関係は深まっていくことでしょし、深めていかなければなりません。そのためにも、北京を、いや中国を知り、正しく理解することは大切なことだと思います。

子供のためのヴェネズエラの歴史I

ヴェネズエラ・カラカス日本人学校
落合町立天津小学校 難波 勢津子

一、シモン・ボリバル物語

ヴェネズエラ・カラカスの街には、あちこちに広場（公園）があり、市民の憩いの場となっています。



その広場には、よく馬に乗った人物の像があります。その人物の名は、シモン・ボリバル。では、シモン・ボリバルとは、いったいどういった人なのでしょう。

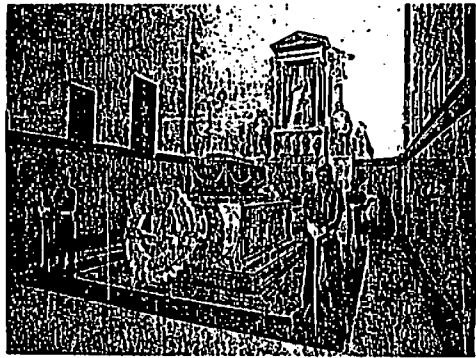
シモン・ボリバルは、一七八三年七月二十四日、カラカスに生まれました。両親は、ファン・ヴィセント・ボリバル、マリア・



La Casa Natal de Simón Bolívar, en el centro de Caracas, conserva los salones donde nació el Libertador y donde él comenzó su vida pública. En el fondo de la sala se ve el retrato del Libertador, obra de Juan Manuel Rosales. En la pared, donde Bolívar escribió el primer borrador de la Constitución de 1858, se ve el retrato de Bolívar, obra de Juan Manuel Rosales. En la pared, donde Bolívar escribió el primer borrador de la Constitución de 1858, se ve el retrato de Bolívar, obra de Juan Manuel Rosales.

La casa natal de Simón Bolívar, en el centro de Caracas, conserva los salones donde nació el Libertador y donde él comenzó su vida pública. En el fondo de la sala se ve el retrato del Libertador, obra de Juan Manuel Rosales. En la pared, donde Bolívar escribió el primer borrador de la Constitución de 1858, se ve el retrato de Bolívar, obra de Juan Manuel Rosales.

ボリバルの生家



ボリバルの遺体は、現在も衛兵が昼夜守っている。

も、ボリバルの

銅像をたてまし

た。現在、シモ

ン・ボリバルは

「独立の父」と

して、たたえら

れています。

ヴェネズエラ

のお金の単位は、

「ボリバル」(複

数形は「ボリバ

レス」といいま

す。これも、独

立の英雄の名にちなんでつけたものです。

また、硬貨には、ボリバルの肖像が

えがかれているものがあります。

シモン・ボリバルの戦い(年表)

シモン・ボリバル(一七八三—一八三〇)の戦い

一八一〇年 末 独立運動の先駆者フランシスコ・ミラ

ンダと共に、イギリスからカラカスに

もどる。

一八一一年 七月 カラカスで、ヴェネズエラの独立宣言

をする。

一八一二年 七月

休戦条約

フランシスコ・ミランダはスペインへ

護送される。

ボリバルは、キュラソ島へ難をのがれ、

後、カルタヘナ(コロンビア)に移り、

解放闘争を決意。

一八一三年 八月

カラカス奮回到成功。

一〇月

ボリバルに「リベルタドル(解放者)」

の称号が与えられる。

一八一四年 二月

スペイン軍の反撃始まる。

一月

第二次ヴェネズエラ共和国の誕生。

六月

スペイン軍、再びカラカス占領。

一二月

ボゴタ占領。

一八一五年 一月

サンマルタ(コロンビア)、マラカイボ、

コロを解放するため、軍隊を組織した

が失敗。

五月

ジャマイカへ亡命。

九月

反スペイン活動を展開。

三月

ボリバル、ジャマイカからハイチに渡

四月 本土上陸作戦失敗。ハイチへ逃亡。

五月 スペイン軍、ボゴタを占領、ヴェネズエラ、ヌエバ・グラナダ(コロンビア)の再征服に成功。

一八一七年 一月 ボリバル、ハイチからバルセロナを経由して、オリノコ川流域地方に侵入し、司令部を設置。

七月 ボリバル、アングストゥラ(現シウダ・ボリバル)に本営を置き、オリノコ川流域での解放闘争を指揮。

一八一九年 二月 ボリバル、アングストゥラで会議をし、中央集権政府の樹立とイギリスを範とする憲法の制定を強く訴えた。

一二月 「グラン・コロンビア共和国」を結成し、ボリバルは、大統領兼最高司令官に選ばれた。

一八二〇年 一月 ボリバル軍とスペイン軍の間で六か月間の休戦条約が調印される。

四月 マラカイボで反乱が起こり、戦争再開。カラカスが占領される。

六月 カラボボの戦いでスペイン軍を破る。カラカスに入城。最終的にスペインか

ら解放される。

八月 ククタ(コロンビア)で「グラン・コロンビア共和国」の憲法が制定され、都はボゴタとなった。

一八二二年 五月 スクレ(ボリバルの下士官)、エクアドルを解放。

一八二三年 六月 「グラン・コロンビア共和国」の誕生。七月 リマの市参事会の要請で、ペルー解放のためにリマに赴いた。

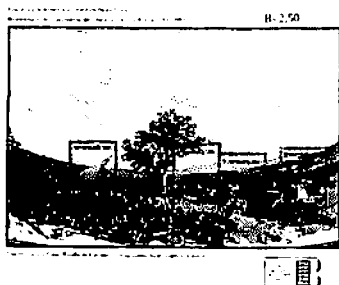
八月 ボリバル、フニンの戦いでスペイン軍を破る。

一八二四年 二月 スクレ、アヤクーチョの戦いでスペイン軍を破る。(ペルーの独立を決定的にした。)

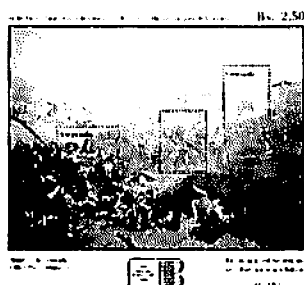
一八二五年 四月 スクレ、アルト・ペルーは、解放者の名にちなんで「ボリバル共和国」として独立。(後にボリビアと名を改めた。)

一八三〇年 「グラン・コロンビア共和国」はヴェネズエラ、コロンビア、エクアドルとして分裂し、独立した。

※参考資料 「週間朝日百科」一四 世界の地理 ラテンアメリカ

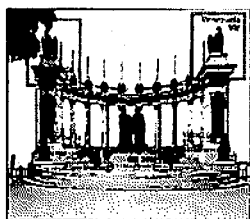


カラボボの戦い（1821年6月）



ボヤカの戦い（1819年8月）

República de Venezuela
B
El presidente del Poder Ejecutivo
del Estado, General Bolívar
1819-1821



Bs. 2.50

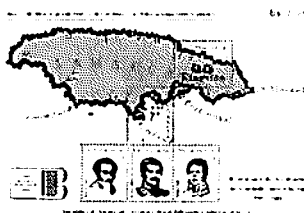
グアヤキル（エクアドル）の
記念碑

The State of Venezuela, Republic of Venezuela
B
El Poder Ejecutivo del Estado
1819-1821

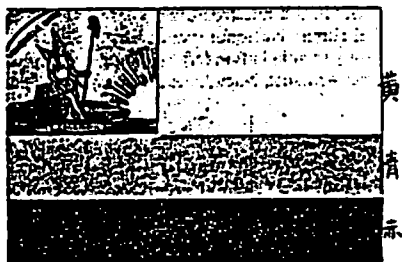


アングストゥラの会議
（1819年2月）

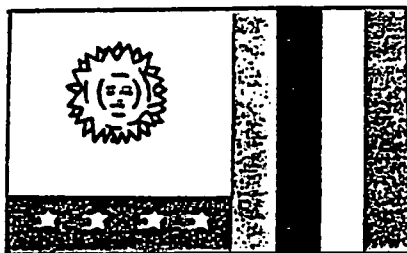
二、ヴェネズエラの国家
“Himno Nacional”
○作詞 ビセンテ・サリアス
○作曲 ファン・ホセ・ランダエタ
一八八一年五月二十五日、グスマン大統領は、ビセンテ・サリアスに作詞を依頼し、国会で国歌として決議しました。
この曲は、一八一〇年頃のはやり歌で、独立戦争時には、この曲に歌詞をつけて歌っていました。



「ジャマイカからの手紙」
（1815年9月）

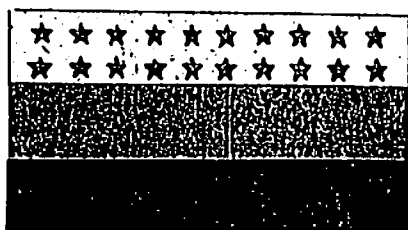


Bandera de Miranda
Fue izada a bordo de la corbeta
"Leander" el 12 de Marzo de 1806.
Por esta causa el 12 de Marzo es
el día de la Bandera.

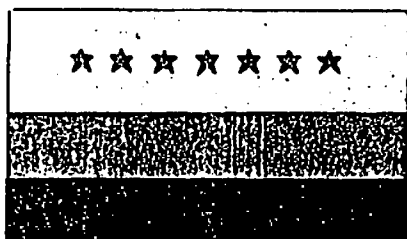


Nuestra primera Bandera 1797
es la Bandera llamada de Guai y Espada.

黄 青 白 青



Bandera de Junio de 1859
Se aumenta a 20 el número de estrellas.



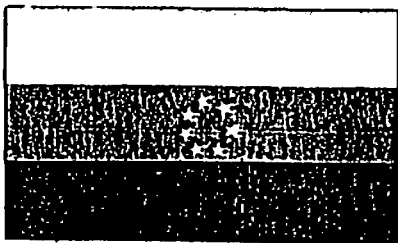
Bandera de 1817
Se elimina el escudo de
armas y al color amarillo
se le añaden siete estrellas azules.



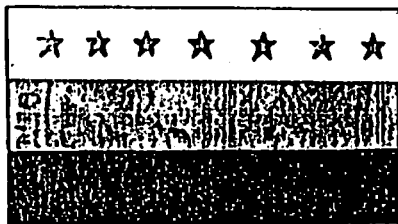
Bandera de 1863
Se mantienen los colores.
Se eliminan las 20 estrellas
y se colocan siete estrellas
blancas sobre la franja azul:
seis en circunferencia y una en el centro.



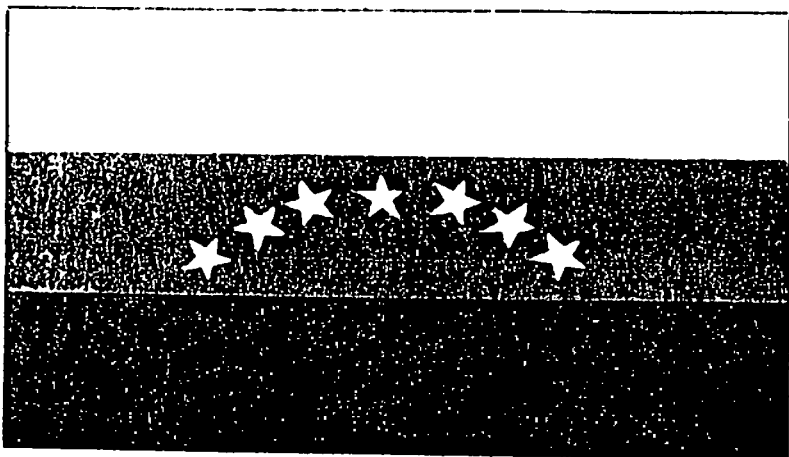
Bandera de la Gran Colombia
Se adopta la Bandera de Venezuela
con el escudo de la Gran Colombia.



Bandera de 1903
Las siete estrellas blancas están
en circunferencia.



Bandera del 20 de febrero de 1859.
Las tres franjas son del mismo ancho
y siete estrellas en la franja amarilla.



Bandera de 1830 Las siete estrellas van situadas en arco. Es la Bandera actual.

どの国旗も黄、赤、青が基調となっていてます。黄は天然資源、青は海、赤は独立戦争で流された血を表わしています。また、現在の国旗の七つの星は、独立のために戦った七つの地方を表わしています。

⑥が現在のものです。
へ参考へ国旗の紋章の移り変わりを

Escudo de la Gran Colombia.



Escudo de Miranda



Escudo de Venezuela al separarse de la Gran Colombia



Escudo Nacional, Año 1836



Escudo Nacional después de la Revolución Federal



Escudo Nacional actual

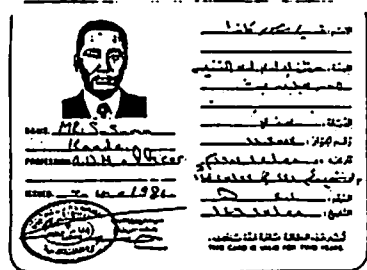
サウジ・アラビア

サウジアラビア・ジッダ日本人学校

津山市立広野小学校 神田 進

1. 行けないわけ

私は、サウジ・アラビアに三年間住んでいたのですが、首都リヤドやイスラム教聖地マッカ、人が全く住むことのできないといわれているルブアルハリー砂漠へも行ったことがあります。行けなかったという方がいいでしょう。その理由をいくつかあげてみると次のようなことからです。



イガマ（身分証明書）



検問所があるとの立札

まず第一に、ジッダ市外に出るときは、レターとよんでいる外国人に対する主人（雇い主）の移動証明書がいります。だが、どこへ、何をするために移動するという内容が書かれた手紙です。また、ジッダ市に住んでいても、イマガ（身分証明書）を常に身につけていなければなりません。それがないと即、逮捕ということになります。さらに行く場所によっては国の許可書も必要となりますから、それらを頂くまでにか月以上かかるのですから、日本国内をちょっと旅行するのは、ずいぶん異なります。第二には、国土があまりにも広いということです。移動手段は、飛行機か自家用車ということになります。飛行機であれば、その近くの都市まで行くのにタクシーを利用することになります。が、タクシーに乗る前に料金の交渉をしなければなりません。自動車で行けば、何日間も乗り続けることとなりますし、故障でもしたらという心配もあります。

第三には、私がイスラ

ム教の信徒でないということです。マッカへ入る前、検問所があり、モスレム（イスラム教徒）以外は入ることができないようにチェックされます。ジッダからマッカまでは約六十キロメートルです。メッカロードを時速百キロから百五十キロで行けば三十分もあればマッカに着くことができるのですが、残念です。また、ジッダから北へ四百キロメートルほどのところにあるメディナも聖地であるため、メディナ市の中心に入ることはできません。

その他まだいくつか考えられます。アラビア語がうまくしゃべられないこと。旅行に出かけるだけの休みのないこと。数人といっしょに行かなければ事故などの対応ができないことなどです。

私が行ったところのあるところは、北はメディナとヤンブー、東はペルシャ湾岸ダハラン、南は北イエメン国境に近いナジランです。どこも広大な土地と砂漠地でした。サウジ・アラビアは、日本の国土面積の約六倍、人口は約十分の一で、広々とした砂漠を時速百二十〜百五十キロで走ると、ヤシの木、様々なサボテン、岩石の山々、そして砂の海、すばらしいながめです。

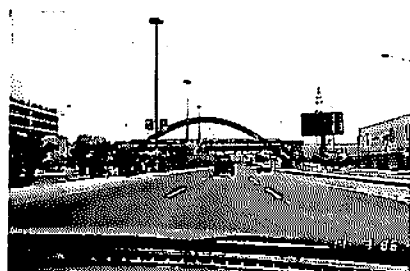
では、それぞれ行ったところを簡単に紹介することになります。

2. メディナ

メディナは、イスラム教を広めたモハマンドが、メッカ

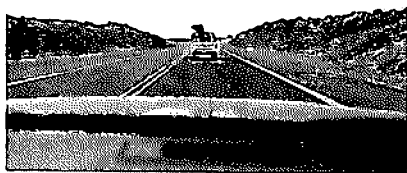


砂漠の中でも車で走れます

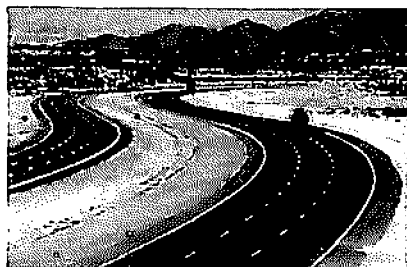


ジッダ市内

から追放され、メディナで神（アッラー）のおつげを広めたところだそうです。メディナの中心部だけ、モスレム以外は入れません。メディナから北部一帯は、古代の遺跡が多くあります。私が行ったところは、ハナークアという遺跡です。砂漠にぽっかりと浮いた島のような岩石の壁面に、今アフリカのサバナ気候地帯で見られるような動物を描いているのが見られます。かつて何万年か前この地帯は、大草原であって、動物を追って生活していた人間たちが描いたといわれています。地球の砂漠化が進んで、川のある所に集中して、エジプト文明やチグリス・ユーフラテス文明が栄えたといわれ



トヨタのトラックの荷台に乗せているラクダ



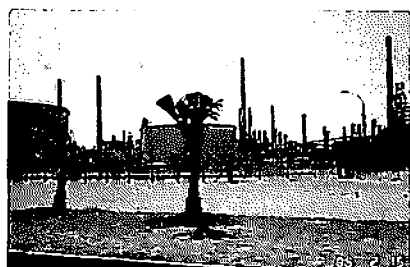
メジナロード



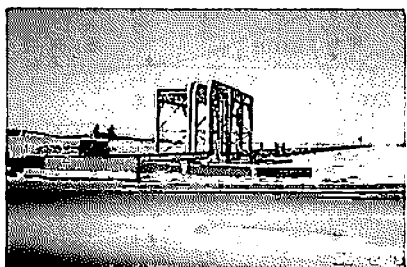
ダハラン補習校で



ハナーキアの遺跡
人物上部の壁に掘られている動物



ダハランにある化学工場



東部沿岸へ続く石油パイプ

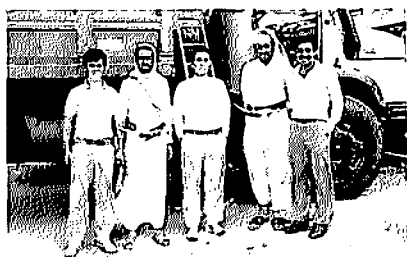
るのがうなづける感じがしました。

3. ダハラン

東部ペルシャ湾岸、ダハランは、日本人学校補習校があります。ダハラン補習校へ指導助言に行きました。学校は、アメリカンスクールの一部を借りて、当時二十名程度の子どもたちが、毎週土曜日の午後だけ、国語と算数を複式授業で行なっていました。子どもたちは、たいへん明るく、力いっぱい日本の勉強をしていました。ふだんは、

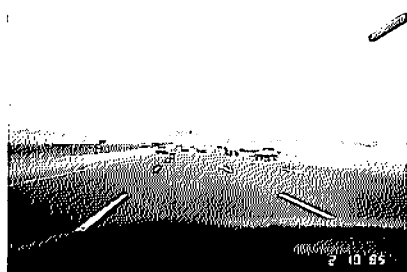
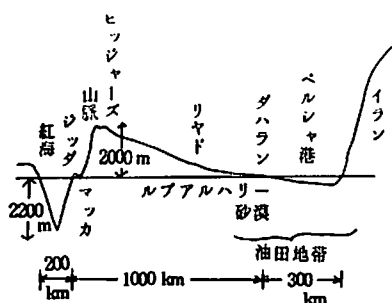


ナジランの近く 鬼が出て来そうな建物



現地トラックの運転手といっしょに腰には、自慢の剣をさしている

アメリカンスクールへ通っているため、日本の勉強が遅れがちかと思っただけですが、しっかり学習ができていたのに驚いたものです。授業終了後、東部海岸の油田地帯や工業地帯を見学しました。石油の輸出先は、日本が一番多く、ついでアメリカ合衆国なのです。石油探掘地は、もっと大きな物を予想していたのですが、小さな物でした。いくらでも石油がふき出し、ふき出す石油の地下へは、海水を入れているそうです。石油工業地帯は、水島や四日市を合わせたぐらいの大きなものでした。



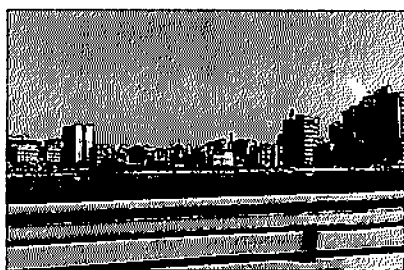
マッカロードをってタイフへ

4. ナジラン

さらに、南の北イエメン国境の都市ナジランは、たいへん人が多く、都市化が進んでいました。ジッダとは、ずいぶん違った雰囲気でした。ジッダは、マッカ州であるため、特に戒律が厳しくなっているのです。ナジランでは、人々の明るい顔が印象的でした。このあたりは、イエメンの影響が強かったため、建物はイエメン風で、赤や青でぬられた壁であるため、昔話の桃太郎の鬼が島のような感じのする建物でした。ナジランへは、自家用車とジープで行きました。ジッダからマッカロードをって、タイフの町へ行きます。タイフは、海拔千



マッカロード
道路中央分離帯に月のモニュメント

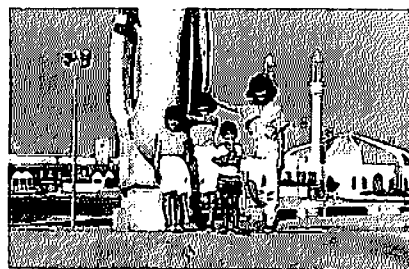


ジッダ市（センターシティ）

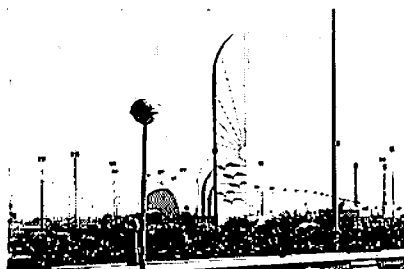
五百メートルほどのところにあります。ここでは、紅海から吹きつける風に乗って、雲がかかるため畑が見られます。サウジアラビアは図のような断面で表わすことができます。ヒッジャース山脈を南へ行くと、いくつかの小さな町が点在していました。このあたりは、二千メートルの高地であるため、たまに雪が降ることもあります。

5. ジッダ

では、ジッダ市内でのくらしのを紹介いたします。十二・三年前までは、マッカ巡礼の小さな港町でした。しかし、オイルダラー（石



モニュメント 人物後方はモスクです



モニュメント

油輸出の外貨獲得により、ジッダの町があっという間に拡大しました。今では二百万人の都市です。道路幅は広く片面三車線から六車線もあり、道路中央部には、ヤシなどの緑地帯を設けています。走っている車は、二千CC以上のエンジン車です。世界の高級車がどんどん走っています。信号で止まると六台から七台の車が一齐に走り出します。まるで自動車レースでも始まったかと思えるほどです。また交差点には、ほとんどのところにモニュメントと呼ばれる彫刻があります。それは、とてつもない大きい物も数多くあり、世界の名の知れた彫刻家ばかりのもので、たいへんすばらし



前方左右の白いテント状の建物がハ
ッジターミナル
ハッジターミナルの向こうにジッダ
国際空港があります

めざしているから、このような物を造ったのです。

現在は、船を利用して巡礼に来るよりも、飛行機を利用する者ばかりです。世界中のモスレムは、一生のうちで一度は、マッカとメディナに巡礼することが願ひなのです。

ハッジ月（巡礼月・昭和六十三年では九月頃）になると、世界の国々から、何百万人もの人々がマッカにやってきます。

イスラム教は、月齢の陰暦を利用してゐる（イスラム暦）ので、太陽暦よりも一年が十二日は短かいのです。季節に關係しない暦なので、日本人の感覚には、びんとこないようです。しかし、年中三十度を越す暑さであるし、常に北からの風が吹き、季節のないところ、季節によって生活

い物です。日本人では、大阪万国博覧会会場の太陽の塔で有名な岡本太郎氏の彫刻もあるそうです。ジッダ市の市長はカイロ大学の美術を専攻していたため、都市は美しく、しかも芸術的な都市を

しないところであるため、生活をしてよくわかる月齢に準じた陰暦を利用したのであると思います。

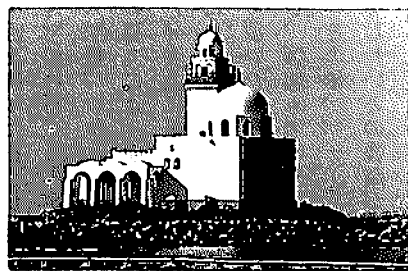
6. 断食

イスラム暦の九月にあたるラマダン月は、絶食月ともいわれています。昭和六十二年では六月頃がその月になります。ラマダン月に入るとジッダの町では、人々の日中の往来が少なくなり、商店も食料品店を除いて、ほとんどの店がシャッターを閉めてしまします。モスレムだけが絶食をするのではなく、我々外国人もモスレムと同じように、水もタバコも口にしてはならず、なんとも苦しい月でした。子どもと妊婦と病人は、食事をしてよいのですが、我々もとなれば、苦しいものです。こっそりモスレムの人に見つからないように、別の部屋でかきをかけて、昼食をとる姿は、みじめで味けないものです。夜は食事をとってよく、夜中の二時でも三時でもお店が開いています。ちょうど昼と夜がさかさまになってしまします。こんな生活を一か月もするのだから、体の調子がよくありませんでした。

しかし、ラマダン明けになると、どこもかしこも、たいへん大にぎわいで、車の警笛をならす者、大声を出す者でお祭りさわぎになります。各商店も大売出しです。シティセンターや海岸、そして、世界で一流のデパートなどでは、大にぎわいとなります。我々もやっと安心できるのです。

7. 戒律の下で

イスラム教は、日本人にとって特異なものとなってきました。一日五回もお祈りをして、毎週金曜日（金曜日が休日）の昼にもなると町中の人々がモスク（寺院）に行つて、お祈りをします。一日のうちでもサラ（お祈り時間）になると、お客を店から追い出します。品物を手にしていても、出てくれということになります。お客様は神様ということばが流行しましたが、モスレムにとっては、アッラーの神のみが、最善の神であつて、だれ一人としてさからうことができません。店から出されたら、三十分も一時間も店が開くまで外で待ちます。



モスク

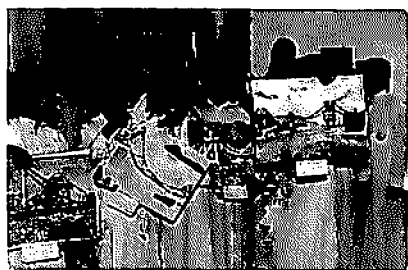
仏教やキリスト教も神ではあるが、アッラーの神が最高の神として、信仰されています。

アフリカ西岸もモロッコからインドの西部地方。そして、インドネシア、マレーシア。パキスタン、アフガニスタンから、ソビエトの南部、中国西部にかけて、イスラム教が信仰され、今でもその数は、増加しているのです。

町のあちこちの広場や空

地には、ボールが立っており、そこでサッカーをして、楽しんでるのが、サウジ・アラビアの若者です。素足で走っている者もいれば、ぞうりの者もいます。それから上から下までちゃんとサッカーのユニホームを着ている者もいます。たいへんサッカー熱の高いところです。ジッダ市にも大きなスタジアムが幾つかあつて、試合日になるとスタンドがいっぱいになって、応援をしています。

アラビア人学校との交歓会をジッダ日本人学校が開設されてから一度もしたことがありませんでした。ドイツ人学校・イギリス・オランダの学校、アメリカンスクール、韓国人学校などとは、度々交歓会をされてきました。アラビ



マナーラットスクールとの交歓会
瀬戸大橋の絵を手にする子どもたち

ア人学校は、日本と同じ年齢で、小学校に入學しますが、小学校からもう男子校と女子校に分かれてしまします。こちらは男女共学の日本人学校であるため、交歓会ができなかったのです。アラビア人学校の男子校が日本人学校の共学を見ると、異



マナーラットスクール内の展示物

和感を持つだろうし、男女共学の日本人学校からアラビア人学校に行くことができません。しかし、私立のアラビア人学校、マナーラットスクールとの交歓会を相手の先生方の努力によって行なうことができました。まず最初は、学習発表会に来てもらいました。両方でアラビアの歌を歌ったり、劇を見たりしました。その時、岡山県の子ども達から頂いた瀬戸大橋の写生をプレゼント（日本の紹介として）し、感想もアラビアの子どもたちから頂きました。

その後、マナーラットスクールから、サッカーの交歓会をしたという要請があり、日本人学校でサッカーの交歓会をしました。残念ながら日本人学校は、完敗しました。

イスラム教の戒律の厳しい中、我々外国人であり、モスLEMでもない者まで、イスラム教の戒律に従って生活をしなければならなかったのです。しかも、集会の禁止は、学校行事にも大きく規制が及びました。

例えば、運動会では、マイクボリウムを下げることに、スタートのピストルは笛に



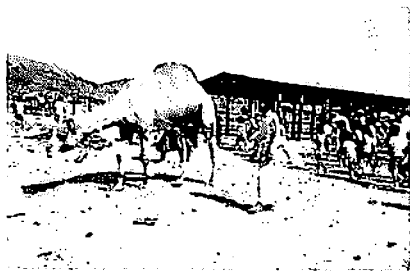
運動会



マナーラットスクールの子ども
体育の授業中

することですし、父母が集まることさえ、集会の禁止にあたります。また、男女が同席することが許されない中で、父母や子どもの男女が同じところで遊んでいる姿は、アラビア人にとって嫌うことなので

また、こいのぼりを上げることさえ、「あれは何だ。」ということで、警察が来るのです。日本の警察とは異なり、宗教警察・交通警察・秘密警察・海岸警備隊というように各警察があるため、日本人には、私服の警察も多いため区別がつかず、どこまで行ってもよいものかよ



遠足（ラクダ牧場）



修学旅行（小6・中3 合同）
おみやげを買ったお店



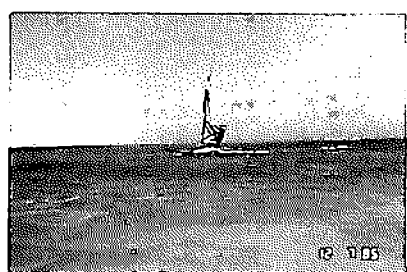
遠足 南の海で（紅海）



オアシス 大木もあります



キャンプ（なかまといっしょに）

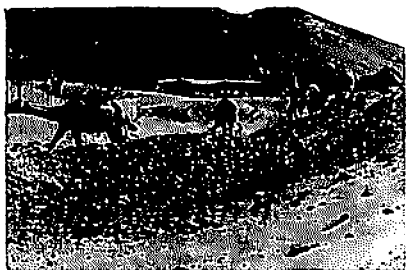


紅海でサーフィン うまいでしょ

く分らないし、昨日
よくても今日は悪いと
いうようなことがある
ため、不安が常に付き
まとう毎日でした。

しかし、そのような
社会生活の中でも、修
学旅行や遠足などで出
かけることができました。
私生活でも、毎週
のように海に出かけ、
サーフィンやダイビン
グ、魚つりやサンゴ取
りは、唯一の楽しみで
した。時には、キャン
プをして、仲間と共に
一夜をあかし、生活を
楽しむこともできまし
た。紅海の夕日をなが
め、にぎりめしをかじ
るときの幸せなこと。

夜中に海の中に入り、



砂漠に放牧されてるラクダ



ベトウィンといっしょに



ヒジャーズ山脈
断崖を走る高速道路

魚を網ですくって、焼いて食べるおいしさは、最高でした。
以上、私の体験を通して書きました。まだまだ、十分に
書くことができなかったことがありますことをお許しくだ
さい。

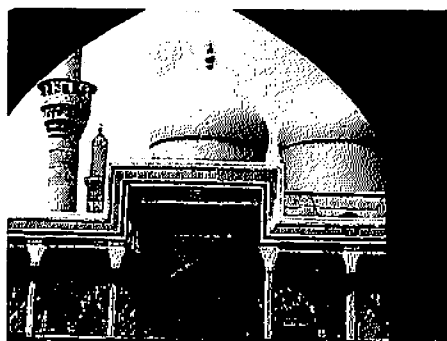
以上

子供のためのメソポタミアの旅

イラク・バグダッド日本人学校

岡山市立東山中学校 市原 誠二

はじめに



バグダット市街 カドミヤの金のモスク

みなさんは「シンドバッドの冒険」や「アリババと四十人の盗賊」「アラジンと魔法のランプ」などを読んだことがあるでしょう。

幻想的な性質をもつ冒険談が私達を夢の世界に酔わせてくれます。

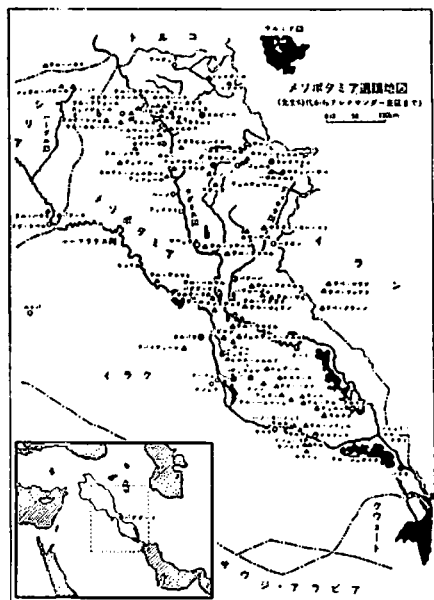
これらの物語の舞台となったバグダッドはイラクの首都です。

みなさんも知っている通り、このイラクは残念なことです。

が隣国イランと長い間紛争を続けてきたのです。この紛争は一九八〇年以來七年間以上も続き、やっと一九八八年八月に停戦のきざしが見えてきました。言語も顔型もよく似たこの両国に平和がやってくることを祈念しながら、イラクという国がどのような国なのかみつめていきたいと思っています。

国土と自然について

イラクは日本から九千キロメートル離れたアジア大陸の西側にあります。南にはアラビア湾（ペルシャ湾ともいいます。）とネフド砂漠、西はシリア砂漠、北はクリジスタン高原、東はザグロス山脈があり、メソポタミア平原が大半をしめています。さて、周囲の国々は南にはクウェート、サウジアラビア、西から北にかけてはヨルダン、シリア、トルコ、東にはイランがあり、六つの国々に囲まれています。メソポタミアとは、ギリシャ語で「川と川の間の地」を意味しています。みなさんも知っている通り、国土の北西部から南東部へチグリス川とユーフラテス川がほとんど並行してゆっくりと流れています。この両川はやがてバスラ市の北西の街クルナで一つになり、その川の名もシャトル・アラブ川となって、ペルシャ湾に流れ込んでいます。



イラクは実に、何千年もの間この両川に包み込まれ、見守られ、川と共に生き続けてきたところ です。

中学生は、四大文明発祥の地の一つとして学習しますが、大阪書籍出版の「中学社会」——歴史的分野——に次のように書かれています。

文明のはじまり

農耕と牧畜とによって食料の生産がふえ、農業のすすんだエジプト、メソポタミア、インダス川流域、中国などで、文明がおこりました。エジプトのナイル川は、毎年夏になるとはらんらんし、

上流から養分を多くふくんだ土を運んできます。人々は洪水のあとの土地をたがやして麦を植え、安定した社会をきずき、紀元前三〇〇〇年ごろには、一人の王によって流域が統一されました。王は人々を働かせて用水路をとのえ、石造りの巨大な神殿やピラミッドをきずかせて、神の子として人々を支配しました。また象形文字がつくられ、ナイル川のはんらの時期を知るための太陽暦や、洪水のあとの土地をはかりなおすための測量術が発達しました。

メソポタミアの文明 チグリス川・ユーフラテス川流域のメソポタミア地方でも、紀元前三三〇〇年ごろから、神をまつる王が力をもち、大きな神殿や城壁で囲まれた都市国家がつくられました。また、粘土板に書いたくさび形文字や、月の満ちかけをもとにした太陰暦、一週間七曜制、六〇進法などが考え出されました。紀元前一八〇〇年ごろには、バビロニアのハムラビ王がメソポタミア地方を統一し、法典をとのえしました。

この国は、国土の半分を砂漠地帯でしめています。砂漠といっても土漠といった方が適しているでしょう。やや赤茶色の砂上です。

チグリス川もユーフラテス川も上流はトルコの山々にあります、毎年四・五月には雪どけ水や雨によって水かさが増します。バグダットの中央にゆったりと流れるチグリス川はチョコレート色をして一年中絶えることなく滴々とあふれています。

雪どけの頃には時にその流れを変え、洪水を引き起こすこともあります。

地球上の位置から言えば、私達の国日本とはほぼ同緯度にあります、年間の降水量はきわめて少なく、乾燥帯に入ります。



ユーフラテス川とササン朝ペルシャ期の橋げたの跡

十月まで続く夏季には、ほとんど雨が降りません。気温も夏は四十度を越す日が多く長時間外で遊ぶこともできません。冬季は、雨季というほどではありませんが、多少の雨が降ります。しかし、一日中降っていると

いうことはめったにありません。

だから、たまに雨が降ると子ども達ははしゃいで喜びます。イラクは南北に長く、地形も砂漠から山岳地帯にわたるのでひとまとめにすることはできませんが、およそ中部は砂漠気候、北部はステップ気候となります。

さて、ここで土漠地帯が大半をしめ、しかも乾燥地帯であるのになぜ世界の四大文明の発祥地となったのか、およそ人間が生活する自然条件としてはむしろかしいのになぜか、という疑問が抱かれるのは当然のことです。

しかし、なんとこの辺りは昔は絶好の農耕地帯であったのです。光村図書出版の「国語」二年の教科書には次のような文章が書かれています。

南メソポタミア——いまのイラク南部、チグリス川とユーフラテス川の下流地帯——には、五千年くらい前、いくつもの小さな国があった。そうした国の一つ、ラガッシュでは、ムギの一ヘクタールあたりの収量は平均約二トンで、いまのアメ리카やカナダでの収量にはほぼ等しかった。というのは、この地方は一年に一か月ぐらいしか雨が降らず、作物に必要な太陽の光にめぐまれ、そして作物に必要な水はチグリス川やユーフラテス川から引くことができたからである。そのため、

南メソポタミアではムギがたくさんとれるようになり、生活にゆとりができて、高い文明が生まれた。

だが、収穫を増やそうとして、さらに多くの水を引くようになるにつれて、かえってムギがとれなくなった。当時の模様を王に伝える報告が、粘土板にきざまれた文字として残っている。それを解説したところによると、ムギの収量は三百年間に六割に、さらに四百年後には当初の三割五分へと激減した。こうして国の力が衰え、メソポタミア南部の国々は、新興の北部の国々によって滅ぼされてしまった。

ムギがとれなくなったのは、川の水を引きすぎて、畑の土の表面に塩分がたまっただからであった。どんな土や岩にも、ごくわずかに塩分が含まれている。それを溶かしこんだ水が、川から畑へ引きこまれ、畑の下にたまる。それでも、地下水の水位が低いうちは、めだった影響はない。だが、水を引きすぎると、地下水の水位があがる。そうなると、土の粒と粒の間を通って、塩分を含んだ水が土の表面までのぼってくるようになる。土の表面から水だけが空中へ蒸発していくため、あとに塩分が残る。なにしろ空気は乾いているから、水の蒸発が激しく、畑一面がまっ白に塩がふいたようになってしまう。



ユーフラテス川から土漠へ水車によって水を引いていた

こうなると、作物は育たず、種子は芽を出さなくなる。土地は捨てられ、そのあとは砂漠と同じになってしまう。これは人間がつくった砂漠にはかならない。水の蒸発の激しい乾燥地で畑に水をやりすぎると、豊作をもたらすはずの水がかえって悪い働きをする。南メソポタミアの文明は、水を引きこつて栄えたが、水を引きすぎる誤りをおかしたため、衰えてしまった。

この事実から考えるとチグリス川とユーフラテス川が運んできた堆肥と豊富な水量と太陽の熱が豊かな国をつくっていたのだということもうなづけると思います。農耕の盛んなこの土地に文明が開けたことはむしろ当然のことだっ

たのかも知れません。

イラク南から北へ

それではここで二つの川に見守られながら北へさかのぼっていくことにしましょう。

〈南の都市バスラ〉

バスラはペルシャ湾に面し、イラクで一番南にある都市です。人口約百三十万人のこの街はイラクではただ一つの港をもった都市です。「ペルシャの市場」の音楽を思わせるようななかなか活気のある街です。現在、石油を積んでこの港から世界の国々にタンカーが出て行きます。イラクの石油埋蔵量は中東で第四位を占めているのです。

昔はここから船出し、東はインド・セイロンから遠くはスマトラ・インドシナ・中国南岸まで航海し盛んに東洋の絹・香料・茶などを交易しました。「アラビアンナイト」で有名なシンドバッドも七回の航海のすべてはここから船出したのです。

バスラの南のファオはイラン・イラク戦争の激しい戦いの場でもあり、よく見ると今でも街の中には土のうが高く積みまれ、戦いの傷跡があちこちに残されています。

一日に何回とコーラン（回教の教え）の鳴り響くモスクと、日干しレンガで作られた古い家並との間に超近代的なホテルなどの建物が林立しています。

また、バスラは五〇度を超えることのある世界で最も高温の街としても知られています。

〈アダムとイブの話〉

さて、この街に流れるシャトル・アラブ川をおよそ一〇キロメートルもさかのぼったところにクルナという街があります。ここはチグリス川とユーフラテス川の合流地点です。ちょうど二つの川が合流したところに旧約聖書に見られる伝説の地エデンの園があるのです。

みなさんはアダムとイブの話を知っていますでしょうか。

（旧約聖書 天地創造 創世紀一、二）

エホバは土で神の形に似せてひとりの人間をつくり、泉の穴から命をふきこみました。こうして最初の人間が生まれました。エホバはかれをアダムと名づけました。アダムとは、「土から生まれた者」という意味です。アダムに命を与えると、エホバはエデンの東に園をつくり、そこにアダムを置きました。エデン（「楽園」という意味）から流れ出る川は園をうるおし、そこから分かれてチグリス川ユーフラテス川になり、各地をめぐって流れてゆきました。

エホバは、「アダムひとりではさびしいだろう。彼にふさわしい、彼の助けになるものをつくってやろう。」と考え、アダムを眠らせ、ろっ骨を一本とると、それで女性をつくりました。エホバはこの女性にイブ（「すべての命あるものの母」という意味）という名をつけました。

園にはたくさんの木がはえていました。エホバはその中に「命の木」と「善悪を知る木」を生えさせました。「善悪を知る木」は、ふつう「知恵の木」といわれています。

エホバは、アダムとイブを呼んで、

「よくお聞き。お前たちはこの園になっている木の実はどうでも食べてよい。けれどもこの「知恵の木」の実は、ぜったいに食べてはいけないよ。これを食べると死んでしまうからね。」といいました。

地上の生き物の中ではヘビが最もりこうですが、しこい動物でした。ある日、ヘビがイブにいました。

「エホバが、食べてはいけない木の実があると言われたそうだけど、ほんとうかい？」

このことばにだまされたイブはその実をもぎ取って食べ、アダムにも分けてやりました。

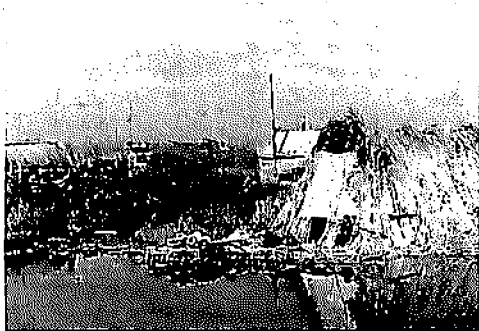
ヘビが言ったことはほんとうでした。「知恵の木」の実を食べると、急に心の目が開けてきて、自分たちが裸でいるのが恥ずかしくなりました。二人はイチジクの葉を何枚か

合わせてからだを隠しました。神様からあれほど厳重に禁じられていたのに、その言いつけにそむいて木の実を食べたこと。これが人間のおかした最初の罪でした。

〈砂漠の中の水郷地帯〉

アダムとイブの伝説があるクルナの街から東に向かうと大水郷地帯に出ます。国土のほとんどが乾燥地帯であるイラクの中ではただひとつの水の豊かな所です。

葦とナツメヤシが広がる沼沢地帯。この辺りをマーシュ



南イラクの水郷地帯 マーシュランド

ランドといい、四つの村から成り立っています。

乾いた風景から水の風景へと、この変化にはびっくりします。雨に頼って農耕を始めていた人達がどこかの地方から、葦は茂るものの、年間降雨量二百ミリにも達しない、降雨耕作が不可能な乾いた南イ

ラクに移ってきたと考えられます。

そして彼らは、熱心な努力で灌漑施設をつくり、安定した農業を成功させていったのです。チグリス・ユーフラテス兩大川から灌漑用水路をつくって水を流しこんできたのでしょう。何年も何年もかかって、ついにマーシユランド一帯が湖沼となってきたのです。住民は湖沼の中にまるで船を浮かべるようにして我が家を浮かべて、現在も生活しているのです。葦を組み合わせ壁をつくり、それぞれ自分達の住む場所をつくってきたのです。日本の水郷筑波国定公園を思わせるところです。

不毛の砂地や礫地がある一方では沖積土や粘土におおわれ、灌漑が行われれば肥沃になるところもあるわけです。

＜ギルガメシュの叙事詩に残るウルク＞

さて、クルナからユーフラテス川に沿って北上するとウルク（現在ではワルカといっています。）に出ます。文字史上、世界で最も古い作品とされているギルガメシュの叙事詩にこの場所がでてきます。

今からおよそ三五〇〇年ないし二五〇〇年前に楔形文字によってアッシリア語で書かれた英雄ギルガメシュを主人公とする物語で、十二部より成り、歌形式でしるされています。

物語のおよそは、次のようなものです。

昔、ウルクの町に、三分の二が神で三分の一が人間の英雄ギルガメシュがいました。しかし、たいそう横暴で人々に恐れられておりましたので、天の神は町の人々を助けるため、女神マルに命じて、粘土から怪物エンキドゥを創らせました。エンキドゥとギルガメシュは町で出会い格闘を始めますが、双方とも負けませんでした。ついに二人は互いの力を認め合い、無二の親友になります。

親友となった二人は、聖なる森の怪物フクワを倒すため冒険に出かけます。森の入口の大きな扉で手をはさまれた夢を見るような出来事があった後、二人はフクワ征伐をやりとげます。それから二人はさらに天の牛とも戦い、エンキドゥはこれを殺してしまいました。エンキドゥの行いを怒った神は、彼に死の罰を与えることを決め、そのためエンキドゥは衰弱し、ついに死んでしまいます。親友を失ったギルガメシュは悲嘆にくれ、不死を求めて長い旅に出ています。

旅の途中、ギルガメシュはサソリ人間に会ったり、シドゥリという婦人に不死を求めても無駄なことをさとされたりしますが、ついに、遠い島に住む不死の人、ウトナビシュテムのもとにやってきます。彼は不死の秘密として、むかし神がおこされた大洪水（旧約聖書のノアの洪水の話に当

たる)のこと、その時助けられた話をします。しかし、彼も不死の術は知らなかったのです。結局、海底にある不死の草を教えられ、それを得て、ギルガメシュは喜びの帰途につくのです。しかし、途中、一休みしている間に一匹の蛇が来て、その不死の草を食べてしまいます。悲嘆にくれたギルガメシュは、空しくウルクの町に帰って行くのです。この叙事詩はニネベ遺跡で粘土板文書として発見されました。

ある学者は、紀元前二九〇〇年頃のウルクの町の夕暮れを粘土板や円筒印章などの文字や絵をたよりにして、次のようなイメージで書いています。

「たそがれがユーフラテス川流域の広く平らな土地に迫ってくると、神殿の動物たちは茶かっ色の肌をした裸の牧人の呼び声のもとに、家路をたどっていく。時は春である。萌え出たばかりの若草は水分をたっぷり含んでいる。それで羊や山羊も肉づきがよく、子羊たちは乳房の垂れ下がった母親達の後を、小走りについていく。毛の刈り込みまでには間がある。その時には長くふさふさした羊の毛が刈りとられ、神殿の紡ぎ女達が忙しくなる。

ウルクの住宅街の路上は、それは粘土の壁の谷間のようなもので、家々の門や小礼拝堂によって、ところどころ区切りがつけられているだけである。夕べの涼気の訪れと

もに今や活気がみなぎっている。それぞれの仕事場からやってきた家具師、鍛冶屋、ブリキ職人、陶工、石工そして身分の高い円筒印章彫りなどが、神殿の玄関から出て、互いにおしゃべりしながら家路をたどっている。

子供達は神殿学校の整然と並んだ粘土製の硬いこしかけから、ようやく離れることが許される。子供達は粘土板を振り回しながら、そこらを踏びはね、重い荷物を背中に積んだロバ隊の間を素早くぐぐり抜けていく。」

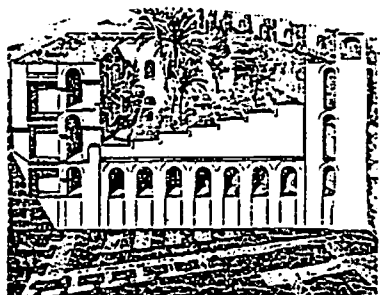
平和なイメージで描かれているウルクも、絶えず隣接都市や遊牧民に荒らされていました。

シュメール時代に栄華をきわめた街は、この他に、ウル・エリド・ニップールなどがあります。今は単に土漠と化して、所々に小高い丘(テルという)があり、当時の建造物の跡を今に伝えているだけです。ニップールには、神殿跡、学校跡、図書館の跡などがあります。

ユーフラテス川をさか上って、バグダッドに近づくとき、有名なバビロンの遺跡に出合います。

〈謎の多いバビロン〉

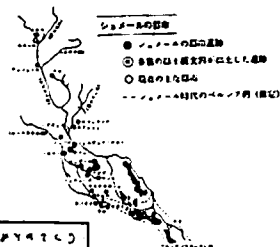
日干しレンガと青く焼かれたレンガを主体として、ライオンの型を浮き彫りにしたイシュタール門をくぐりぬけるとレンガを敷きつめた行列大路にでる。神殿の間に空中庭



空中庭園

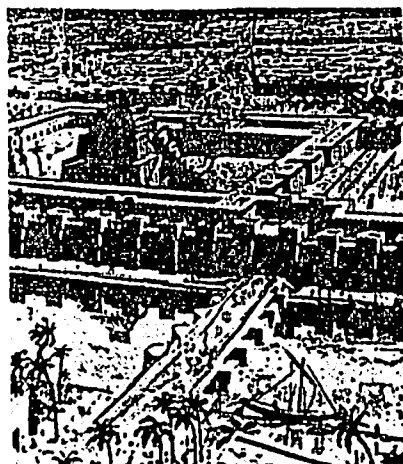
園を見つけることができる。
「空中庭園」は世界七不思議の一つといわれ、謎の「バベルの塔」とともに歴史や旧約聖書にも出てくる。
「空中庭園」は伝記によるとアッシリアの

英文字母 (按字母表顺序排列)				数字 0-9				特殊符号		备注
英文字母				数字				特殊符号		
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	
										KUA
										LU
										GA
										A

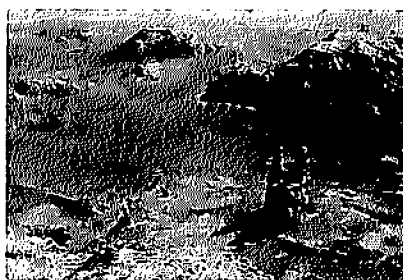


0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
0	1	2	3	4	5	6	7	8	9

972570196548124



バベルの塔



シュメール時代の遺跡ニップール

女王が造ったものとされるが、今のところネブカドネザル二世がメディア王国から迎えた王妃のためにテラスに緑の森を造り、王妃の心を慰めたとする説が強いようです。

ドイツの発掘隊によって伝説のバベルの塔は、基壇がおよそ九十一メートルの正方形の塔であることが判明しました。同時に掘り出された粘土板文書によれば高さ九十一メートルと推定され、大変な高層建築であったと考えられます。一体どうして崩れても丘になるはずの巨大な塔が姿を消し低地になってしまったのか。不思議な問題が残されているのです。

メソポタミア遺跡地図に書かれているようにこの辺には遺跡が非常に多いのです。中でもキシュ・セレウキア・クテシフォンなどは世界に知れわたっています。しかも紀元前三〇〇年ぐらいのもので、古代を探るには大変に魅力的な所です。

《イラクの首都バグダッド》

イラクの中心部をなす首都バグダッドは、チグリス川の中にはさみ、東西二十キロメートル、南北約十五キロメートルに広がり、人口は約四十五万人（一九八五年）の大都市です。チグリス川の西岸には工場、空港、西バグダッド駅があり、東岸には官庁、ビジネス街、大学などがあります。

す。バグダッドの街は古くから開けた街ですが、何度も破壊されています。ですから、今の街のほとんどが一九二一年のイラク王国独立後に、ラシッド通りを中心にして発展してきたものです。

市内には昔の面影を今に伝える名前があちらこちらに残されています。たとえば街の中心部にはアリバスクエアがあり、スクエアのまん中にはアラビアンナイトの銅像が立っています。

《アラビアンナイト「千夜一夜物語」》

イラクの民話というよりも、アラブの民話として世界中の人々に親しまれているものに「千夜一夜物語」があります。もとの名前はアルフン・ライフル千夜、アッライラ一夜で「千夜一夜」という題名でした。バグダッドを舞台にした有名な物語です。

この物語は、ペルシャの王妃シエラサードが王の心をやわらげるために千一夜にわたって物語っていく形式で話が進められています。「アリババと四十人の盗賊」などもその一つです。シエラサードが王に語りかけている銅像も、チグリス川沿いの公園につくられています。また、イラクで造られているピールの名前にもシエラサードの名前がつけられています。



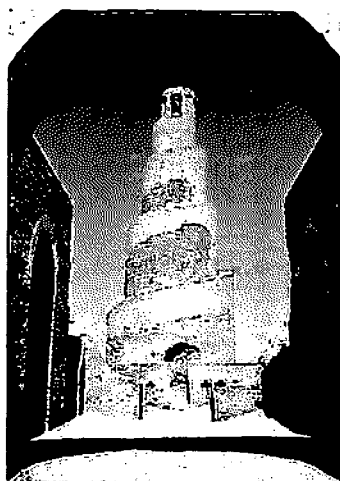
ペルシャの王妃シエラサードが王に語りかけている像



〈世界に誇るミナレット〉

バグダッドから北へ二〇〇キロメートル余りの所にサマール市があります。サマールにはイラク随一の遺跡スパイラル・ミナレットがあります。らせん階段をもつ尖塔です。高さ五十二メートルのこの塔はラクダで行商するアラブ人が一〇〇キロメートル先から目印にし、頼りにしてきたものと思われます。また、一説には天に届く、神への崇拜のためだとも言われています。

〈行商都市ハトラ〉



サマールのスパイラル・ミナレット

サマールからさらに北へ一〇〇キロメートル行くと、隊商都市であるハトラに出ます。紀元一、二世紀には隊商都市としてメソポタミア一、二の繁栄をみた街でした。が、現在では遺跡だけが土漠の中に残っています。二、三九年来にササン朝ペルシャのシャープール一世によって滅ぼされ、以来砂の中に埋もれ、今世紀になってようやくその姿を見せたシルクロードの街です。他のキャラバンサライ（ラクダを頼りにした旅人達の宿）とは比べものにならないほど大きなもので、事実、ハトラはひとつの独立した国を形成しておりまし

た。これまでにお話してきた遺跡の中で、バグダッドから南のものが主として土の文化（土を固めて焼いた日干しレン



ハトラの遺跡 石のめずらしいは伊拉克

ガで造った建造物）であったのに対してハトラ等、バグダッドから北に行くに従って石の文化となっています。したがって、ハトラは崩壊はしているものの、昔の姿を再現できる程度に残されています。今、さらに発掘し、補修され、復元作業が進められています。

サマールから国道を北へ進んで左折してから三〇分もすると、砂漠のかなたにその偉容を現わします。夕日の中にそびえたつ神殿をみると、シルクロードの長旅をしてきた行商の人達が今にも現れるのではないかという錯覚さえするような気がします。

伊拉克の国内を車で走っていると、砂漠の中に点々と土の盛り上がった所に出あうのですが、その周囲に土器の破片でもあればそれがほとんど遺跡になっておられます。

ハトラも、中心に神殿跡がありその周囲二キロメートルの

範囲内に小さな丘が点在しています。

城壁の内側がハトラの市街であり、点在している小さな丘のひとつひとつが当時の市民の住居跡でした。神殿域には六つの大神殿、七つの小神殿があります。しかし、この神殿聖域には外国人は入れませんでした。商売は聖域の外で行われていたのです。そしてラクダに絹や金や銀を乗せてやって来た人達のために、聖域の外にも神殿がありました。さらにこの周囲に市民の住居跡が残っているのです。

土で造った家はやがてまた土に返る。二〇〇〇年、三〇〇〇年前の人々の息吹きが静かに土の下に埋もれて息づいているのです。

▼モスールを中心に▼

ハトラからさらに北に向かうとモスール市に出ます。北の都市モスールを中心にして紀元前十世紀から紀元前七世紀末にかけ、メソポタミアに大帝国を築いたアッシリア帝国の首都ニムルドやニネベの城壁などの遺跡が当時の面影を残しています。

モスールは人口約一三〇万人（一九八五年）で、伊拉克第三の都市です。四季の変化がすばらしく比較的樹木の多いところですが、チグリス川とユーフラテス川沿いにナツメヤシの木が繁茂している以外にはほとんど樹木の育たない

イラクの中で、モスールから北へ入ると緑におおわれた丘陵を見ることが出来ます。緑の多い日本に育った私達にとっては郷愁をさそわれるような所です。

ここよりさらに北方にはクルド人が住んでいます。クルド人とは現在、イラク、シリア、トルコ、イランそれにソ連国境の山岳地帯に住む民族で、古くから勇猛な民族として知られています。

このクルド人とのトラブルを起こさせないために、私達には北の地方への旅の許可が出ませんでした。このため、両川をさかのぼってきたイラク訪問の旅も、このモスールの街が終着駅となったのです。

おわりに

現在、イラクも近代化の波に乗り高層ビルが建設され、街中の様子も大きく変わろうとしています。街道を歩く若者の服装もヨーロッパ風になりつつあります。

それでも猛暑を防ぐために男性は白いネグリジェ風のデイスターシャという服を着、女性はアバヤという黒い服で全身を包みます。

そして一日に五回、モスク（回教の教会）から流れるようなコーラン（神アラーの教え）の音が、拡声器を通して

街中に響きわたってきます。

一回目は夜明けで二度敬礼、二回目は昼で四度敬礼、三回目は午後で四度敬礼、四回目は日没直後で三度敬礼、五回目は夜間で四度敬礼となっています。信者はどこにいても、その時になるとメッカのカーバ神殿に向かって礼拝します。

日中の澄んだまっ青な空の下で、夜間は目にしみる星空の下で一日を静かにふり返り、アラーの教えのコーランに耳を傾け、コーランの響きと共に手を合わせひざまずいて一日を閉じるのです。

ペルシャ湾に流れ込んでいるチグリス川とユーフラテス川を、歴史を探りながらさかのぼってきました。そしてユーフラテス川はシリアの国にたどり着き、チグリス川はトルコの国にさかのぼっていきます。

政治・経済・文化の発展と共に歩んできた両川は今も私たちに発展への夢をもたらせてくれます。素晴らしい夕映えが黄金の色で川を染める頃、コーランの響きに耳を傾けながら人々は明日への祈りを「インシュ・アラー（神のなすがままに）」の言葉の中に託すのです。

ブラジル

ブラジル・リオ・デ・ジャネイロ日本人学校
矢掛町立矢掛小学校 守屋 俊 蔵

はじめに

みなさんは、ブラジルと聞くとどんなことを連想しますか。コーヒー、アマゾン河、サッカーなど、どれも当たっていますが、一言でブラジルを言い表すには無理があります。

日本の何倍もの国土を持ち、様々な国からの移民によってつくられた国、ブラジルについて少しずつ紹介していきたいと思います。

位置と気候

ブラジルは南米大陸の北東部に位置し、総面積は約八百五十万平方キロメートルで、南米大陸の約半分、日本の約二十三倍の広さです。南米大陸の中でブラジルと国境を接していない国は、チリとエクアドルだけで他の十カ国はブラジルと接しています。

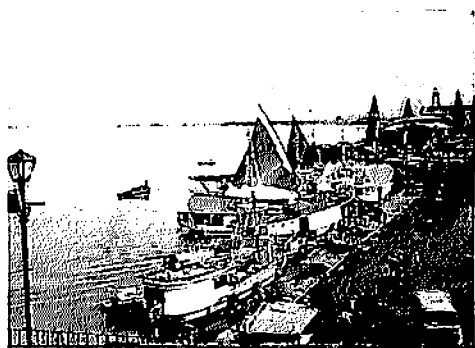
ブラジルというと、アマゾンというイメージが強く、暑い所という考えがすぐに浮かぶかもしれませんが、広大な

国土の中には様々な気候地帯が見られます。

〈熱帯地域〉

アマゾン河を中心とした地域であり、一年中暑く、湿度は八十パーセント以上で、高温多湿の気候です。七月から九月までが乾季であり雨は降りませんが、他の月は雨季に当たり、アマゾン川の水位が数メートルも高くなって、人々の生活に大きな影響をあたえます。





アマゾン河口ベレーンの港

〈亜熱帯地域〉

ブラジルの中部から南部の一部の地域までを占めており、国内の先進地域です。亜熱帯といっても、ほとんどが高地にあるため、比較的涼しい気候です。商業の中心であるサンパウロ市は、この地域の南部であり、温帯地域と似た気候です。夏の直射日光が強いときでも、湿気が少ないため、木陰やビルの中にとっても涼しく感じられます。冬になると朝晩の冷え込みがきびしく、セーターやコートが必要になります。

〈温帯地域〉

亜熱帯地域に続く南部の地域で、ヨーロッパの気候に似ています。冬になると霜が降ることもありますし、雪の降る地域もあります。この地域は日本と上下対称の位置にあるため季節の区分が逆になります。夏は、十二月から三月、



日系農家

が生えている荒野が広がっています。

移民の国

ブラジルの人口は、約一億三千万人。この内、日系人は約八十万人で、そのほとんどは、サンパウロ州に集中しています。一九〇八年（明治四十一年）に、約八〇〇名の日本からの移民がサントス港に着いたのが、ブラジルへの日本の移民の第一歩とされています。八〇年をこえる歴史の中で、日系社会はブラジルの中で重要な地位を占めるまでになっています。サンパウロ州では、インスタントラメ

冬は六月から八月ということになります。

南米大陸で最大の国土を持つブラジルは、この様に色々な気候帯に分けられます。さらに東北部の内陸には、慢性的な干ばつ地帯もあり、石だらけのやせた土地に背の低い樹木

ンからミソ・ショウユ・酒までも生産されており、他の大都市でも日本の食品を売る店があります。ブラジルの人々は、日本人に対して「勤勉で正直」というイメージを持っているようで、日本の技術に対しても大きな信頼をよせています。

ブラジルは「人種のもつば」と言われますが、正にその通りで、世界各国からの移民によってつくられた国です。ポルトガル、スペイン、イタリアから渡って来た人々を中心に、原住民のインディオやアフリカ諸国、ドイツ、フランス、アラブ、日本、中国、韓国などから渡って来た人々がくらしています。

そのため、ブラジルで人種的差別は見られません。様々な国から来た人々が協力しあい影響しあい、独特のブラジル文化を生み出しています。

四、歴史

一五〇〇年にポルトガルのペドロIIアルバーレヌIIカブラル提督は、国王の命令でインド遠征へ出発しました。カブラル提督はアフリカ南端の希望峰を目標に航海を続けましたが進路をあやまり今のブラジルの北部に着いてしまいました。南米大陸発見の知らせを受けたポルトガル国王は翌年に、アメリカゴイバスプーシオ探險隊を送りました。彼は、今のリオ・デ・ジャネイロ市のあるグアナバラ湾に入

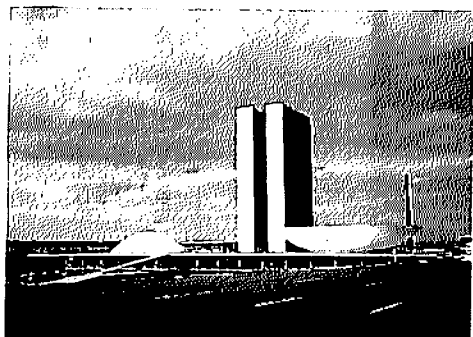
り、さらに海岸地帯からパウブラジルという木を切って本国に持ち帰り、赤色の染料を作ることに成功しました。赤い染料のとれるパウブラジルという木はヨーロッパ各地で取り引きされるようになり、この木のとれる大陸はブラジルの木の国と呼ばれ、今のブラジルという国名のもとになりました。

染料以外にたいした産物の発見がなかったため、ポルトガルはブラジルに対してあまり関心を示しませんでした。しかし、一五三三年にブラジルで初めての植民地を作った以後、ブラジル開発に向けて積極的になりはじめました。

一五四九年、ブラジルのサンパドールに初めて総督府を置いて、大陸の開拓、統治に本格的に乗り出してきました。

同時に、オランダやフランスもブラジルに関心を持ち始め武力で沿岸地方を占領しようとしたがポルトガルの反撃にあいブラジルからは手をひくことになりました。こうした各国のあそいの間にも多くのポルトガル人がブラジルに渡り、砂糖の生産や金鉱の開発などがなされました。また、バンデイランチスと呼ばれる奥地への探險隊が活躍するようになり、ブラジルの領土は飛躍的に拡大しました。

一八〇八年、ポルトガルはフランスのナポレオンに攻められ、王室と政府がそっくりブラジルに逃れました。そのためブラジルは大いに栄え、独立国のように自治権を持ち、



首都ブラジリアの国会議事堂

活気にあふれていました。ナポレオンが失脚すると、国王ジョアン六世は、皇太子ペドロをブラジルに残してポルトガルに帰りました。ペドロは、ブラジルがまたポルトガルの植民地になるのを恐れて、一八二二年に本国に対して独立を宣言し直ちに王位につきました。こうして、ブラジルは独立国として一步をふみ出しました。その後、ドンペドロ二世の時代に教育や農業に力を入れ、国力は次第に強くなり、奴隷の輸入を禁止し、業者を追放しましたが、病気のためイサベル王女に国をまかせてヨーロッパに帰りました。

イサベルは一八八八年、全面的奴隷廃止法を成立させますが、奴隷所有者である農園主たちの反対にあり翌年、帝制は終わり、共和制の時代に入りました。さらに、一八九一年新憲法が制定され、民主共和制になりました。第二

次世界大戦後は、クビチェック大統領が重化学工業の促進に力を入れ、首都をリオデジャネイロからブラジリアに移しました。ブラジルは、過去十数年間のうちに驚異的な経済成長をとげ、大国としての地位を築いてきています。

しかし、そのあまりにも急な経済成長のため、年率二〇〇パーセントともいわれるインフレにみまわれ、生活苦や失業が大きな社会問題となっています。

くらし

〈教育〉

七才から一四才までが義務教育で、公立の学校は無料です。しかし、貧しい家庭も多く子供に教育を受けさせたくても、日々のくらしの手伝いをさせるために学校へやれない人々も二〇パーセント程度いるということです。しかし政府の教育政策によってその数は年々減ってきています。また、広大な国土のわりには人口が少ないために、地方では学校への道のりが何キロメートルもあり、行き来だけで半日近くかかることや、先生の数が不足していることも学校へ行かない子供たちを生み出す原因となっています。

大学の数は公立三十五、私立二〇で一九八二年の学生数は約六十五万人ということです。日本とくらべて、夜間の大学に通う学生が多く、昼間はそれぞれの仕事をして、自分の学費や生活費、家庭の助けとなるようがんばっています。

す。

《サッカー》

サッカーの盛んな中南米の諸国の中で、ブラジルはサッカーを国技とし、ワールドカップで三度優勝し、カップの永久保有国として世界に知られています。ブラジルの人々は、このことを誇りに思い、国際試合では熱狂的な応援をします。有名な選手たちは、子供たちのあこがれ的であり、ブラジルのヒーローでもあります。サッカーの神様と呼ばれ、世界的に有名なペレ選手は、引退後もブラジルのサッカーを代表する一人であり、その人気はおとろえていません。



リオのマラカナンサッカー場

町の空地では、子供たちがいつもサッカーをしており、小さな地方都市にも必ずサッカー場があります。かつての日本の子供たちが野球の選手やすもうの力士に

あこがれた様に、いや、それ以上にブラジルの子供たちはサッカーが好きです。四年に一度のワールドカップ開催中は、国をあげてブラジルチームを応援し、役所や学校が休みになることもあります。それほどに、ブラジルの人々はサッカーを愛し、生活の中にサッカーを受け入れていると言えます。

《カーニバル》

リオのカーニバルは世界的に有名ですが、同じ日にブラジルの各地でカーニバルが行なわれているのです。カーニバルは、毎年二月から三月にかけての「灰色の水曜日」と呼ばれる日の前の週の土曜日から始まります。

各地のカーニバルの中で最大のものがリオデジャネイロ



カーニバルを楽しむ人々

のカーニバルです。

この期間中は、もちろん国中が祭りで学校も会社も役所もすべて休みに入ります。仕事をしているのはホテルやレストランなどの観光業者だけです。リオのカーニバルで最も人気のあるのは市内の大通りで行なわれるパレードです。いくつものグループがアイディアをこらした衣装を身につけ、サンバのリズムに合わせ踊り、歌いながらゆっくりと通り過ぎていきます。一つのグループの人数は、多いところでは五〇〇〇人にもなりますから、一グループが通過するのに一時間も二時間もかかります。このパレードはコンテストになっていて、終了後に優勝チームの発表があり、多額の賞金がもらえます。グループに参加している人々の多くは、丘の上にあるファベラと呼ばれる地区に住む貧しい人々で、このパレードの日を楽しみにしているのです。ですから、この日のために一年間かけて貯金をし、新しい衣装を買い、歌や踊りの練習をし、大きな山車だしを作り上げるのだと言われます。

大通りのパレードに出られない小さなグループもたくさんあって、市内のあちこちでもパレードが行なわれます。こちらはコンテストではないので、見学するだけではつまらないという人がパレードに加わって、一緒に踊ってもかまいません。

四日目の晩が終わると次が灰色の水曜日の朝です。カーニバルの間、思いっきり歌い踊って楽しんだ人々や、観光客がもとのくらしにもどっていきます。

＜サンバのリズム＞

ブラジルを代表するものの一つにサンバのリズムがあります。日本の野球場で三三七拍手のリズムに合わせて応援している風景をよく見かけます。ブラジルのサッカー場では、様々な打楽器を使ってサンバのリズムで応援します。試合の始まる前からサンバのリズムが聞こえ、試合中も終始、その音は鳴りやみません。テレビやラジオから流れてくる曲はサンバ調のものが多く、人々が口をついて出てくるのもサンバのリズムです。カーニバルにとってもサンバの曲は欠かせませんし、町で見かけた子供たちが空かんをたたくリズムもサンバでした。

アフリカから連れてこられた四百万人を越える人々がサンバのリズムを伝えたと言われます。そして、今日ではブラジルの人々の中にサンバのリズムが受け継がれ、くらしの中に生きているように思えます。

＜フェイラ＞

ブラジルの各都市にはフェイラと呼ばれる朝市があります。近郊の農家で作られた野菜や果物を中心に肉や魚、日用雑貨までたいいていの物はフェイラで買えます。曜日より



日曜日に立つフェイラ

えるということでした。店の人の元気のよい売り声がひびき、少しでも安く買おうと熱心に交渉をする人々の熱気が加わってフェイラの中は活気にあふれています。

しかし、最近はフェイラに買い物に行く人が減り、大きなスーパーマーケットの進出も盛んでフェイラに店を出す人が少なくなってきました。

産業

ブラジルの産業の中で重要な位置をしめているのは農業と畜産業です。主な産物は、綿花、タバコ、カカオ、コー

って市の立つ場所が決まっています。朝早くから多くの買い物客でにぎわっています。フェイラの良い点は店数が多く、豊富な品々の中から気に入った物を選ぶことと、新鮮な食料品がそろること、値段は交渉によって決まるので安く買



コーヒー園で働く人

ヒー、サトウキビなどです。ブラジルのコーヒーは有名ですが、コーヒー農園は南部のテラローシャと呼ばれる土壌のある地域が適しており世界各国に輸出されています。

工業の発展は一九五〇年代から始まり、今では中南米最大の工業力をもつ国となり、産業の中心は農業から工業に移りました。さらに鉱業資源も豊富で、鉄、石油、ボーキサイト、ウラン、石灰などがとれます。

ブラジルの産業の発展にともない世界各国からの企業が盛んに進出しています。日本からも製鉄や造船の会社をはじめオートバイや家庭電気製品のメーカーなど多くの企業が進出しています。そして、そこで働く人々のために、六つの日本人学校がつくられています。

ブラジルのかかえる問題

首都をリオデジャネイロからブラジリアに移して以来、ブラジルは工業の発展に力を入れ、世界がおどろくほどの経済成長をとげましたが、あまりにも急激な発展のために、激しいインフレに悩まされています。一年間に物価が二倍にも三倍にもなり、苦しい生活をしている国民が増加しています。

また、外国から多額のお金を借りており、その利子を払うのも難しい状態で、そのことも人々の生活を苦しめています。



リオの日本人学校 七夕祭り

インフレと外国からの借金のために経済がうまくいかなくなり、失業した人々が都市に多くなっています。そして、職を失った人々が犯罪をおかすことも増え治安が悪くなったことも社会的な問題となっています。

一方、アマゾン川流域の乱開発や焼き畑農業によって自然破壊が進んでいることも大きな問題の一つです。

このような難しい問題を多くかかえているブラジルですが、広大な国土と豊かな資源を持つことや陽気な国民性のことを思うと、きっと解決してくれそうな気がしてなりません。

おわりに

ブラジルは意外性に富んだ国だと思います。アマゾン川の奥地には、まだ昔ながらの生活を続けている人々があり、首都ブラジリアには超近代的なビルが立ち並び、想像もつかないような大金持ちがいるかと思えば、住む家もない貧しい人々がいます。世界中からいろんな人種の人々が集まって一つの国をつくってブラジル人としてくらしています。多くの難しい問題をかかえて苦しいはずの人々が、とても陽気で明るく感じられます。日本からはとても遠い国ですが、八十万人も日系の人々が住む国なのです。

まだまだ何かありそうな、何かやってくれそうな国ブラジルについて、もっともっと知ってほしいと思います。

韓国との交流

大韓民国・ソウル日本人学校

岡山市立吉備中学校 鈴木秀樹

はじめに

ソウルオリンピックで世界の目は韓国に集まりました。日本も大勢の選手を韓国に送りその活躍の様子がテレビに映りました。マラソン競技では街の様子も画面に映し出されました。巨大なアパート群やビル、広い道路など。そんなに都会化されていたとは知らなかったという人も多いことでしょう。

最近ではデパートに行くとか韓国製のラジカセ、ビデオデッキが売られています。工業化が進み、電気製品をはじめ自動車まで海外に輸出しているそうです。日本のスーパーマーケットで売っている「しじみ」「はまぐり」「うなぎ」「服」「運動ぐつ」などよく見ると韓国から輸入したものがたくさんあります。

韓国との交流は最近始まったものではなく古い歴史があります。奈良時代の「奈良」という言葉は、韓国語では「国」という意見です。「百済人」が朝鮮半島から渡って来てつけ

た名前だと考えられます。「のっぽ」という言葉は韓国語の「ノッブダ」（高い）から、祭りの「わっしょい、わっしょい」という言葉は韓国語の「ワッショ」（来ました）から生まれたと考えられます。これはずいぶん昔のことですので、これから順を追って、韓国との交流の歴史を見ていきたいと思います。

韓国の歴史

今から一六〇〇年以上も昔、日本が弥生文化からようやく大和朝廷によって統一されてきた時代に、朝鮮半島でもこれまでの中国の支配を脱して、高句麗・百済・新羅の三つの国が生まれました。この三国のうち百済は仏教などの中国文明を伝えるという日本にとっては大変重要な役割を果たしています。私達がよく日曜日などに遊びに行く吉備国分寺の近くに造山古墳がありますが、そのすぐそばの橿山古墳から出た馬形のベルトのバックルは、韓国の漁隠洞



遺跡から発見されたものとそっくりで、古墳時代、吉備地方と朝鮮半島は密接なつながりがあったことを示しています。

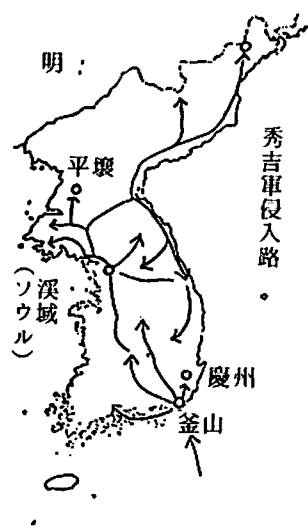
七世紀の半ば頃、新羅は唐と同盟を結び百済と高句麗を滅ぼして朝鮮半島を統一します。この時、日本は百済を援助して白村江で戦いますが結局敗けてしまします。吉備地方からこの戦いのために二万人近い人が動員されたという話も残っています。岡山県内にも百済・和仁という姓の人が住んでいて、百済から渡来した人の子孫かも知れませんが、この城は朝鮮式山城で、唐・新羅が攻めてくるのに備えて築いたという説もあります。

九世紀末、新羅は衰え、西方に後百済・北方に後高句麗がおこりました。後高句麗は、新羅と後百済を征服し高麗王国をつくります。高麗は青磁・金属活字に代表されるように非常に文化水準の高い国でしたが、十三世紀になると蒙古が幾度も進入し、ついに蒙古の属国となってしまうます。この頃日本では源頼朝が鎌倉に幕府をひらき武家政治が始まっています。高麗を属国とした蒙古は二度も日本に襲来しましたが二度とも暴風雨にあって大損害を受けて退却しました。

十四世紀に入ると日本人の海賊である和寇が盛んになり、

高麗は大きな被害を受けるようになりました。一三九二年、高麗が滅び、李成桂が朝鮮王国をおこしました。彼は都を現在のソウルに決め、儒学を建国の根本理念としています。朝鮮王朝時代の前半には多くの賢明な君主が出ていて、なかでも第四代世宗大王は「学問の大王」と呼ばれています。このころの日本は室町時代ですが、朝鮮は室町幕府に対し、倭寇の取りしまりと貿易とを求め、幕府は倭寇にとらえられていた朝鮮人を送り返したために久しぶりに国交が回復して貿易も行なわれるようになりました。朝鮮からの輸入品は木綿、朝鮮への輸出品は銅や硫黄だったようです。岡山県の貿易港としては牛窓港が使われていました。十六世紀の始め、朝鮮の貿易港に住む日本人が対馬島主とはかって暴動を起こしました。朝鮮の貿易港に住む日本人が密貿易をしたり、倭寇の原因になるので数を制限しようとした朝鮮の政策への反発が原因だったようですが、この事件後、貿易はとどえてしまいました。

一五九二年、戦国時代を戦いぬき、全国統一を果たした豊臣秀吉は大軍を朝鮮に進めました。この侵攻で朝鮮全土が戦場になり、国土は荒れ、都も兵火に包まれました。岡山からは、宇喜多秀家が一万人の軍をひきいて朝鮮に渡っています。朝鮮に渡った日本軍は皆殺し戦術を用い、切り



取った首を舟積みにして日本に送りました。首はやがて耳鼻へと変わっていくのですが、つばに塩や石灰とともに入れられた鼻の数は、記録に残っているだけでも三万に達するそうです。京都の豊国神社の前に、この耳や鼻を埋めたという耳塚が残っていますが、岡山県備前市香登本にも耳塚があるそうです。ところで宇喜多氏の先祖は百済王の兄弟だったそうで、朝鮮の地をふんだ時はどんな思いがしたのでしょうか。

秀吉の死後、徳川家康が江戸に幕府を開き一六〇九年、朝鮮との和平条約を結び、朝鮮は一八一一年までの間に九回通信使を送っています。通信使は江戸への途中、牛窓へ

立ち寄って文化交流をしています。牛窓の唐子踊りは地元の人が通信使から習ったものと思われ。服装やかけ声など朝鮮のものとそっくりだそうです。

一八六八年、日本は明治維新によって文明開化の時代になりましたが、この頃、征韓論が大きな政治問題となりました。岡山の有名な儒学者「山田方谷」という人は、伯備線の駅名になるほど有名な人で、教育者でも、政治家でもあった人ですが、朝鮮に侵略して植民地化してしまおうという考えを持っていました。西郷隆盛ら五人の征韓派の参議が辞職するというのがありましたが、結局、その後日本は、江華島附近で日本軍艦が砲撃されたことを口実にして、軍艦・海兵隊で朝鮮をおどし、江華島条約を結ばせました。これは朝鮮最初の開国条約で全くの不平等条約でした。

この日本の朝鮮進出は、清との戦争に発展しさらにロシアとの戦争に発展しました。日本はこの二つの戦争に勝ち、朝鮮を完全に日本の植民地にしてしまいました。一九〇六年、日本はソウルに統監府を設置して、伊藤博文が初代統監として朝鮮を支配し、韓国併合の準備を進めました。このため伊藤博文は一九〇九年に満州視察の途中、ハルピンで独立運動の闘士、安重根に暗殺されてしまうのです。日本では安重根は悪者扱いですが、朝鮮では英雄。伊藤博文

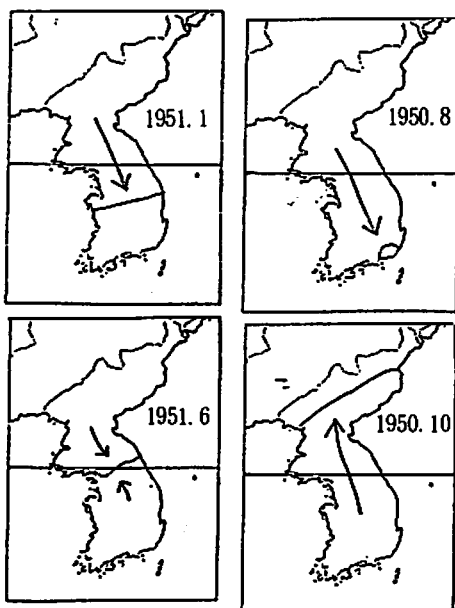
は悪者ということになります。

一九一〇年、日韓併合が成立し朝鮮王朝の歴史は終わりました。統監府は總督府と改められて、初代總督に陸軍大將寺内正毅が就任して力でおさえつける政治をしました。

一九一九年、大規模な独立運動がまき起り、朝鮮だけでなく、朝鮮人が住む世界各地に広がりました。これにより日本は、力によらず法令による政治に変えましたが、独立運動は絶えず、中国との全面戦争、太平洋戦争になるにしたがって、犠牲をしいられる朝鮮民衆は強い不平を持つようになっていきました。

関東大地震の時には、朝鮮人を暴動を起こすといううわさのために多くの人が殺され、また、名前を日本名に変えさせられたり、学校では朝鮮語を使わさなかったり、無理に神社に参らされたり、日本に連れて来られて働かされたというひどい状態になりました。広島島の原爆で死んだ朝鮮人は三万人とも言われています。原爆で死んだのは日本人だけではないのです。

一九四五年、日本の敗戦によって明治時代末期から昭和にいたる三十六年間の日本による朝鮮支配は終わりました。八月十五日を韓国では光復節と呼んでいます。日本から解放されたお祝いの日です。しかし、戦後ただちに朝鮮半島に進駐したアメリカ・ソ連の両軍は三十八度線を境に半島



を二つに分断し、アメリカ軍は南半分を、ソ連軍は北半分を占領して軍政をしました。一九四八年、南に大韓民国、北に朝鮮民主主義人民共和国が成立し、朝鮮半島は完全に二つの国に分かれてしまいました。そして両国の政府はそれぞれ朝鮮半島の唯一の政府であるとしてゆずらず、にわかに危険な状態になってきました。

一九五〇年六月二十五日、突然北朝鮮軍は三十八度線を突破して南下してきました。三日間でソウルを占領し、一週間で韓国を援助する国連軍を釜山付近まで追いつめました。しかし九月、国連軍は仁川上陸作戦で反撃を開始し、

十月には逆に北朝鮮の軍隊を鴨緑江まで追いつめました。

その月の末、中国義勇軍が参戦、北朝鮮は反撃に転じ、再びソウルを占領し、水原・原州まで国連軍を押しもどしました。その時の国連軍最高司令官マッカーサーは、満州爆撃などを主張して、当時のトルーマン米大統領と対立し解任されるということがありました。その後戦局は一進一退をくり返しましたが、一九五三年、やっと休戦協定が成立しました。そして現在もお休戦状態であり、非武装地

西暦	年	日本
1000	乙酉年(1097)	安土桃山時代 1533
1700		1854(1853)
1800	李氏朝鮮	
50		1854(1853)
60		明治時代
70	戊辰年(1875)	明治時代(1873)
80		明治時代(1873)
90	戊辰年(1875)	明治時代(1873)
1900	戊辰年(1875)	明治時代(1873)
10	明治時代(1873)	明治時代(1873)
20	明治時代(1873)	明治時代(1873)
30	明治時代(1873)	明治時代(1873)
40	明治時代(1873)	明治時代(1873)
50	明治時代(1873)	明治時代(1873)
60	明治時代(1873)	明治時代(1873)
70	明治時代(1873)	明治時代(1873)
80	明治時代(1873)	明治時代(1873)
90	明治時代(1873)	明治時代(1873)
100	明治時代(1873)	明治時代(1873)

西暦	年	日本
100	乙酉年(1097)	安土桃山時代
200		安土桃山時代
300	乙酉年(1097)	安土桃山時代
400	乙酉年(1097)	安土桃山時代
500	乙酉年(1097)	安土桃山時代
600	乙酉年(1097)	安土桃山時代
700	乙酉年(1097)	安土桃山時代
800	乙酉年(1097)	安土桃山時代
900	乙酉年(1097)	安土桃山時代
1000	乙酉年(1097)	安土桃山時代
1100	乙酉年(1097)	安土桃山時代
1200	乙酉年(1097)	安土桃山時代
1300	乙酉年(1097)	安土桃山時代
1400	乙酉年(1097)	安土桃山時代
1500	乙酉年(1097)	安土桃山時代
1600	乙酉年(1097)	安土桃山時代
1700	乙酉年(1097)	安土桃山時代
1800	乙酉年(1097)	安土桃山時代
1900	乙酉年(1097)	安土桃山時代
2000	乙酉年(1097)	安土桃山時代

帯を境に対立したままになっています。

以上韓国と日本の関係について簡単に見てきましたが、本当はまだまだたくさんさんの交流がありました。私達が韓国を見る時、ただ表面だけ見たのでは理解できないことがたくさんあります。日本は中国から文化を取り入れましたが、仏教をはじめ朝鮮半島を経由して入ってきたものが多いのです。秀吉の朝鮮出兵、日韓併合、三十六年間の植民地支配等、韓国の人達がどう受け取めているのかということも大切な問題なのです。

言語について

日本人と韓国人と見くらべて、なかなか見分けがつかません。顔つき、体つきからどうも親類のような気がします。がどうでしょう。古墳時代、奈良時代には百済の人が多勢日本に渡っているのです、多少は我々の中にもその血が流れているのかも知れません。言葉も親類と言ってよいでしょう。「私は学生です。」(私「ハ」ナ) (学生「ハ」ハクセン) (です「ハ」イムニダ) 「ナヌンハクセンイムニダ」語順が日本語と全く同じです。漢語は、日本も韓国もともに中国から取り入れたものですからよく似ています。「料理「リョリ」」「運動「ウントン」」「首都「ソウ」」「選手「ソンス」

五十音

와	라	야	마	하	나	다	사	가	아	아 段
わ	ら	や	ま	は	な	た	さ	か	あ	
와	라	야	마	하	나	다	사	가	아	이 段
이	리	이	미	히	니	치	시	기	이	
우	루	유	무	부	누	뜨	수	구	우	우 段
우	루	유	무	부	누	쓰	수	구	우	
에	레	예	메	헤	네	테	세	게	에	에 段
에	레	예	메	헤	네	테	세	게	에	
오	로	요	모	호	노	도	소	코	오	오 段
오	로	요	모	호	노	도	소	코	오	

食について

韓国料理と言えば焼き肉を思い出しますが、あとは何を知っていますか。まず食器ですが、韓国ではアルミまたはステンレスの金属製の器と金属製のハシとスプーンを使用します。器は手に持たずテーブルに置いたままにします。日本料理と違って一品一品その持ち味を大切にするという

のではなく、ニンニクとゴマ油とコショウをベースにして混ぜる料理が多いようです。一般に牛、豚、鶏を入れた汁物が多くこれは体が温まります。汁かけご飯と言えば、日本ではご飯に汁をかけますが、韓国では汁の中にご飯を入れます。キムチは日本にもありますが日本のキムチはおいしくありません、ピリピリとからいだけです。韓国のキムチは味を出すために小魚や果物やいろいろなものをに入れて工夫をしているので、その家の味というのがあります。ある日、私の家で白菜の一夜漬けを作っていると、韓国人のおばさんに、「お塩だけしか入れないの？日本人はお金が多まるはずだわ」と笑われました。

住居について

ソウルの冬は寒く氷点下十五度以下になる時もある、漢江も年に何回か凍結します。冬の寒さが厳しい関係もある、昔の家は一般に天井が低く、しかも室自体が小さいようです。室内を温める方法はオンドルが一般的です。オンドルは床下に煙のトンネルがあって、部屋にそれぞれたき口があります。昔は薪をもやしていましたが、今は練炭か灯油を使います。ソウルには大アパート群があり、集中暖房方式をとっている、練炭のつぎたしで苦勞することは少ないです。床面が暖かく、横になると背中が暖まり、す

わるとお尻が暖まるというのは実に気持ちがいいものです。

韓国人の姓について

韓国人の姓はきわめてその数が少なく二百五十ほどです。日本人の姓は「鈴木」「佐藤」をはじめとして約三万と言われているから百分の一以下です。その中で多い姓をあげると、金、李、朴、となりまう。昔は、ソウルの中央にある南山の山頂から石を投げると必ず金氏か李氏にあたると言われていました。今では、一流ホテルのコーヒーションに行けば、金氏・李氏以外は日本人観光客ばかりと言われるようになりました。なぜ、金氏・李氏が多いかと言えば、三国時代の韓国に中国から漢字の姓氏風俗が持ちこまれたとき、豪族の中に金、李を創氏した人たちが多かったのですが、その後、こうした人たちの中から王や貴族が大勢でて、次々に他氏を吸収し、勢力を張ったからと言われています。韓国は大家族制で、分家しても姓を変えることはありません。また、女性結婚しても生家の姓を名のります。

儒教精神について

韓国人は日本人よりは序列意識が強いと言われています。パスの中でも年長者にはすすんで席をゆずります。また日本人よりもはるかに礼儀正しいのです。これは儒教の影響

です。日本では儒教が学問として扱われましたが韓国では生活のすみずみまで浸透していったというところに原因があるようです。ただそれがゆきすぎると、「親や目上の人の前ではタバコをすってはいけない」「酒も目上の人の前では体と顔を横にそむけて飲む」ということになり、目上の人の前では何も言えなくなってしまう。最近ではそれが改善されて、年長者の前でも自分の意見を堂々とと言えるようになってきているようです。しかし、パスの中で年寄りに席をゆずってあげるとか、立っている人の荷物は座っている人がひざの上に持ってあげるといった習慣はなくならない方がいいとは思いますが……。

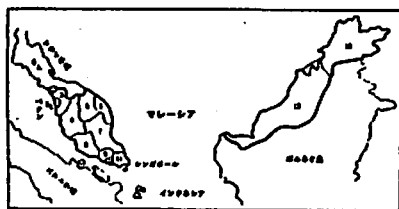
おわりに

私達はまず日本と韓国は昔から密接な関係を持ってきたということを知らなければなりません。その歴史の上に立って現在の日本と韓国の関係を考えなければなりません。日本と韓国は隣国であり、お互いになくなくてはならない存在です。「みんな仲良く」と言いながら隣りの人とけんかをしていたのでは、それは口先だけのものです。「国際人になろう」と言っても、隣国と仲良くできないようではそれは不可能でしょう。まず隣国を理解し、仲良くすることが国際人になる第一歩なのではないでしょうか。

みどりのペナン島

マレーシア・ペナン日本人学校
和気町立和気小学校 安部 町江

一、ペナン島



半島マレーシアの北西海上に浮かぶ、周囲四十キロメートルあまりの小さな島、これがペナン島である。東洋の真珠、リゾートの島と観光パンフレットには謳われているが、私は、そこでの三年間の生活の中から、この緑の島での木のある生活を写し出してみようと試みた。

二、州の旗

マレーシアには、ボルネオ島のサバ、サラワク州を包めて十三の州がある。これは、ペナン島と半島マレーシアの一部からなっている。

二



三、太陽

毎朝七時頃、このみごとに光を拝むことができる。それと同時に、さんさんと照りつける太陽は、植物にこの上もない恵みの光を与えてくれる。

ほとんど一年中、夜明けは七時、日没も七時頃である。

四、水

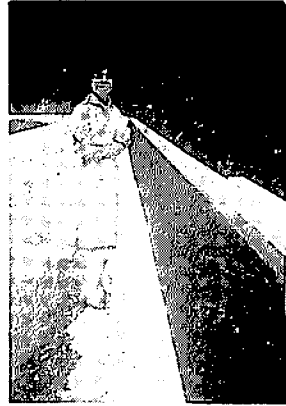
半島マレーシアの空より押し寄せてくる黒い雲、強い風。まもなく、すごい雷をともし、雨、空と海を一面にしてえがくいなすま。一メートル先も見えないで立ち往生している自動車。道路も増水を始める。

これらの雨水を集めてお

三



四



くため、ペナンには大小たくさんのおダムがある。そのためペナン島では、乾期にも充分水があり、他の州への給水活動もしている。

五の①



これはダムから絶え間なく流れ落ちている水で、飲料水としても使われるので、この道路は、許可なくして通るとはできないことになっている。

五、いこいの場

① ペナン島にはたくさんのお公園があり、いたる所にいこいの広場がある。

② そこへ足を伸ばして、木をたずねてみた。
木は美しい花をそえ、公園をひとときわ、美しく色どっている。

五の②



③ 手にとってみると、こんなに美しい花である。
④ 大木の下でいこう人たち。インド洋から吹いて来る風が心地よい。

⑤ 島の裏側にある、このジャングル公園は人影はほとんどないが、よく整備されている。

⑥ 日本人学校一年生の遠足の場所ともなった。

五の③



まである。

⑦ これはユースパークにおける、日本人学校対オーストラリア人学校の職員によるソフトボール大会のひと

五の④



五の⑤



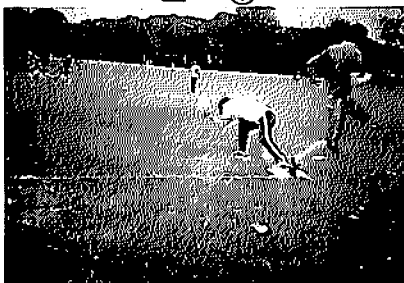
六の①



五の⑥



五の⑦



六、果物

花ばかりでなく、実を結んでいる樹もいたる所で発見

七、道路

ベナンの美しい道路は、街路樹が多く、樹の種類も多い。ここで写す五つの通りは、私が住んでいた家から、日本人学校までの約三キロメートルの道を、毎日通っていて、美しいと思っていた通りを写真におさめたもので、他の所にはもっと美しい通りが、たくさんある。

できる。

① バナナ

② ランブータン

③ ココナツ

④ マンゴー

⑤ これらのおいしい果物は、マーケットへ所せましと並べられている。新鮮で安いのが何よりも嬉しい。

六の④



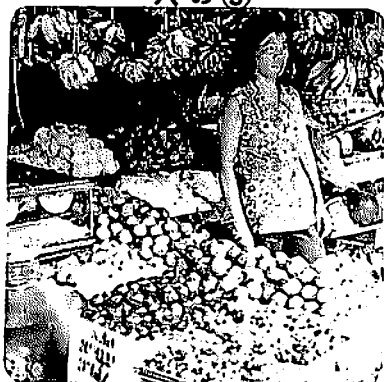
六の③



六の②



六の⑤



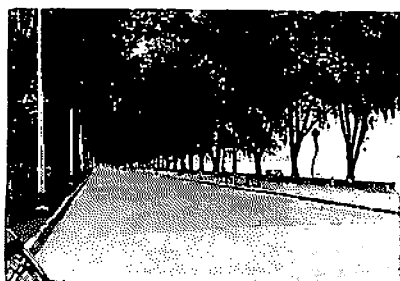
七の①



七の②



七の③

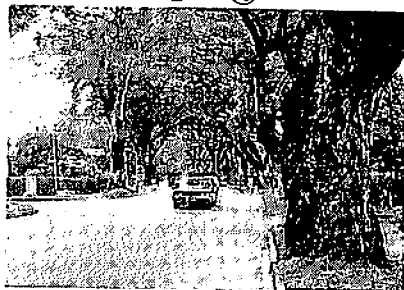


- ときどき交通規制をして、大木を切り倒している風景を見かけたが、そのへりにはすでに新しい樹が植えられている。そして一年間には、日本では想像できないくらいいずい分大きく育つ。
- ① ピナンの並木路
 - ② 中国人女学校の前の道（女学生の制服姿が見える）
 - ③ 夕方の散策路で知られている。
 - ④ 町へ通じるバス路線

七の⑤



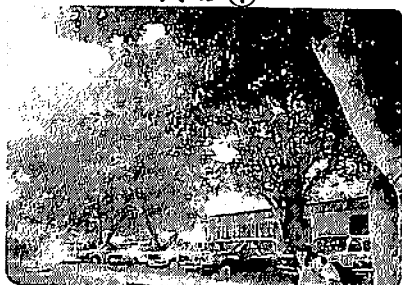
七の④



八の②



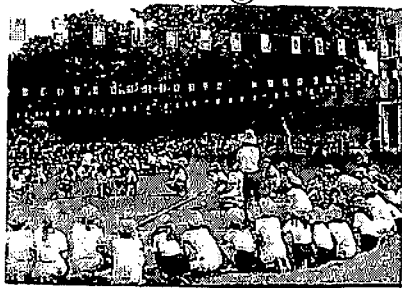
八の①



八の④



八の③



八、ペナン日本人学校

⑤ 私の住んでいたサンライズタワーの前のロータリー。

① ペナン日本人学校にも、たくさんのお木がある。校門を入ると、すぐ、りっぱな駐車場となっている。

② それは子ども達の遊具ともなり

③ そして、運動会等のイベントとなり、見物席を作ってくれる。

④ これはこんど一年生に入塾する子どもたちの「おもしろ」きようそうである。現地の幼稚園へ通っているたくましい子どもたちである。

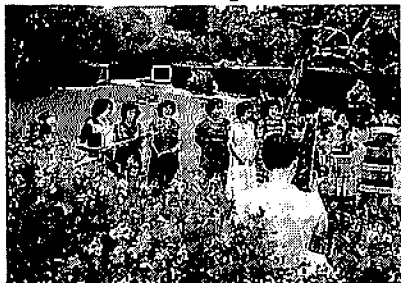
九、いこいのひととき

① これは日本人のママさん

九の②



九の①



九の④



九の③



十の①



- コーラスの練習風景で、大声を張り上げても、近所へ迷惑など少しも掛けない。見られることもない。木がさえぎってくれるからだ。
- ② そして練習の成果は日本、マレーシア親善のための一役をになった。
- ③ 総領事私邸に於ける日本人どうしの新陸の「コマ」である。立木を利用したイルミネーションが花の様に美しい。
- ④ 日本人クラブの庭での盆おどり風景である。すぐ外を道路が走っているが、ここは立木にさえぎられた別天地である。

十、マレー人部落

- ① これは島の南西、マレー人部落へ通じる道である。
- ② 木の間から、マレーハウスが見えている。どの家も直射

十の③



十の④



十一の②



マレー人、インド人、中国人、オーストラリア人、ヨーロッパ人と
いろいろな国の人々が生活
している。
そして、そこに住んだ
ことのある人

十の②



日光をさけている。
③ 近寄って見ると高床式の美しい家である。
④ これは少し大きな農家である。

十一、国際都市
ジョージタウン

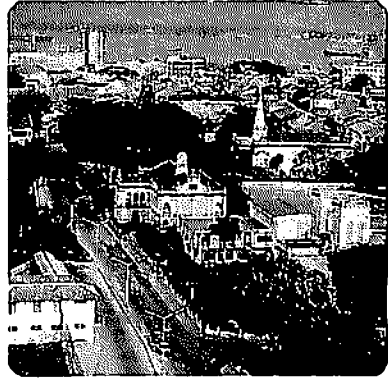
① 島の中央には、小高いペナンヒルがあり、そこは避

十一の①



暑地で、レールウエーで通じている。
② ペナンヒルより眺めた国際都市ジョージタウン。外国の大型船が、たくさん停泊している。その向こうに見えるのが半島マレーシアである。
③ ペナン島の中心部には、国際都市にふさわしい、この様な建物が建ち並び、

十一の③



々は、美しい花を
そえた大木、おい
しい実のなる木、
そして心に豊かさ
を与えてくれる木
々を忘れることは
ないだろう。

ポーランド点描

ポーランド・ワルシャワ日本人学校
岡山市立旭中学校 村瀬 憲正

一、中世を残したポーランド

ポーランドは、どこまでも丘陵の続く国です。

まっすぐな道を何キロか自動車で行くと、森のなから、まず尖塔が見えてきます。これは教会です。やがて、柿色の屋根が現れます。たいていの家には煙突があります。教会に近づく、教会の前は四角な広場です。広場を囲んで、お店やレストランが並んでいます。広場の大きさは、町の大きさによっていろいろですが、今でも昔ながらの姿でたくさん残っています。

首都ワルシャワの広場は「スタレミヤスト」(古い町)と呼ばれ、国中にある教会広場の中で、最も豪華で、大きいものです。戦災のあと、絵や図面で、昔のとおりに復元したということです。

町を通り抜けると、畑がしばらく続き、その先は森です。日本では、森や林は山にありますが、ポーランドの森は平地や丘にあるのです。ジャガイモや麦を植える代わりに、

木を植えている所が森ということになります。一度迷い込



ワルシャワの「古い町」スタレミヤスト広場

んだら、なかなか出られないような森が続いています。

秋になると森や林が色づきます。赤くならないで黄色になるのです。「黄金の十月」という言葉があるそうです。黄葉の最中は、ワルシャワ付近で十月初めです。十月はもう冬の始まりなのです。

二、戦災を忘れないポーランド

町を歩いていると、レンガの壁に花が飾ってある所に出くわします。日によっては、ローソクがともされています。四十数年前、戦争でワルシャワの町の九十パーセントが壊された時、死んでいった人たちを慰めるための場所なので

す。
岡山でも、空襲で大勢の人が亡くなりましたが、町角に花が飾られているのを見たことはありません。ポーランド



45年保存されたアウシュヴィッツ
強制収容所跡

での犠牲者の多さと悲しみの深さがしのばれます。

そういえば、現在でも戦争映画や戦争ドラマが、繰り返しテレビで放送されています。苦しい戦いの末、ソ連軍の助けがあつてドイツ軍を打ち破るという内容です。ドイツ兵はむやみにいばっているが、最後は知恵と勇気が足りなくて負けるということになっています。

第二次大戦中、ドイツ軍によって、ポーランド各地に強制収容所が作られて、ヨーロッパ中からユダヤ人やドイツに抵抗する人々が集められ、ガス室で何百万人も殺されたのは有名な話です。中でも「アウシュヴィッツ収容所」は、世界中に知れわたった収容所で、今では博物館として残されています。

殺された人の髪の毛や眼鏡が部屋いっぱいに積まれているのを見るとギョッとしています。

大シャワー室のような毒ガス室、金歯を死体から取るための手術台、死体焼却炉などもそのまま残されています。人を焼いてできた

灰も小山のように積んであります。

半世紀近くも、戦争のつらさが忘れられないのでしょうか。また、忘れてはならないと思っているのでしょう。

三、子どもはかわいい

ポーランドの子どもは、とってもかわいらしい。娘さんもとてもきれいです。金髪の人もありますが、栗色の人が多いようです。

どろだらけになって遊んでいる子どもでも、日本に來たら子供服のモデルになれそうです。娘さんも、顔は日本人より小さく、足も長いので、ずいぶんスマートに見えます。もちろん日本の子どもの中にもかわいい子がいますが、見慣れていますから驚いたりしません。でも、ポーランドの人たちから見ると、抱きしめたいほどかわいく思われるようです。

ある時、日本人学校の子どもが何人かそろって町を歩いていました。するとポーランドのおばさんがいきなり走り寄って来て、女の子を抱きしめ、ほおずりをするではありませんか。その子はびっくりして、目を白黒させましたが、「(カワイイ)ピエンクナ」とおばさんは叫ぶのです。

日本の女の人も、ポーランドの人には美しく見られた人が多いようですし、だれでも、年齢より若くは見てもらえ



ポーランドの小学生たち

ます。なにしろポーランドのおばさんは、娘のころのスマートさをすっかりすてて、丸々と太り、肌もすっかり荒れ、しわをふやしているのですから。

男の人はひげで年齢をかくします。若者は自分を重々しく見せるため、中年は威厳を高めるため、老人は頭を光らせる代わりに美しいひげをたくわえているのです。

四、寒さ知らずの冬

ワルシャワは北緯五二度、北海道の北端よりずっと北にあります。平均気温は札幌と同じくらいなのです。

雪は降りますが、日本の北陸ほどは積もりません。多くて二十センチ程度。それなら雪合戦でも考えますが、それは不可能です。雪が全く固まらないのです。まるで灰をにぎりしめているようで、手を放せば元のままサラサラと散ってしまいます。水でもかけたら固まりますが、マイナ

ス十度から二十度に下ってはいけません。

その代わり、いいこともあります。少々の雪なら、そのまま自動車を走らせていても、ツルツル滑りません。ほこりを払って走っているように雪の粉末が飛び散ります。

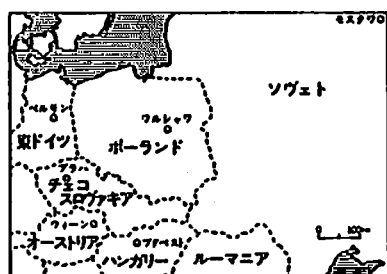
では、さぞや寒い生活をしているだろうと思うでしょうが、寒い国の人は昔からの知恵で結構心地よく暮らしています。外では毛皮を着たり、綿入りブーツをはいたりしています。家の窓は二重で、入口も二回開けて初めて部屋にたどりつけるようになっています。

ワルシャワ市内には、上水道と下水道のはかに熱湯用も配管されています。コックをひねれば、部屋毎にある放熱

器で暖められ、外は吹雪でも、中ではシャツ一枚で過ごせます。

学校もそうなっていて、

震えながら勉強ということとはありません。体育館や廊下も、教室よりやや低めに暖房があつて、スケートは外でするけれど、バスケットボールは中に入って軽装で楽しめ



東ヨーロッパの国々

るというわけです。

秋九月、三日続けて最低気温が十度を割ったら暖房用熱湯が送られる約束だそうです。石炭で発電し、その余熱を利用した暖房用熱湯が、春五月、十度以上の日が続くようになるまで送り続けられるのです。

五、待ち遠しい夏休み

九月に学校は始まって、六月半ばに夏休みに入ります。ポーランドの子どもたちは、日本の子ども以上に夏休みが待ち遠しいのです。

五月半ばまで暖房のいる生活ですが、アッという間に花が咲き、若葉が茂り、夏に入ります。六月末は、もうこの国の真夏です。日中は三十度を超す日もあります。

人々は、はじけるように外に飛び出し、戸外生活を楽しま始めます。中にはまっ裸になって肌を焼いている人もいます。白い肌がまっ赤になります。

こんな時、薄暗い教室で机に向かっているのを子どもたちも好みません。大人たちも、長い冬に備えて、太陽に当たりたいと言います。

だから、夏休みは、北国の人にとって、最も好ましいシーズンにあるのです。暑くて勉強にならないから、仕方なく休みにするのはわけが違います。



アンコール家で生きたポーランド人の子供たち
夏正午、ショパンの演奏会に
ルンパルに迎える

の海岸や山や湖に行っているのです。家族といっしょの場合もありますし、やはりポーランドの大学生のお兄さん、お姉さんに連れられて行くこともあります。

ポーランドは、豊かな国とはいえませんが、このようなぜいたくな夏の楽しみ方を見ているとうらやましくなります。

さんざん夏を楽しんだ後、八月末にはもう寒いくらいの日がやってきます。なにしろ九月に入ると暖房がいるのですから。

岡山の気候に比べると、五月六月の次がすぐ九月十月になる感じです。とにかく、ポーランドの人々の一番好きな

ワルシャワ都心の小学校には、こんな時期に、簡易ベッドが運び込まれます。地方の子どもたちが、ポーランドの若者たちに連れられて主都見学にやってきました。臨時ホテルとして利用するためです。そして都市の子どもはちょうどその頃、地方

季節です。

六、シヨパンの国

コペルニクス、シヨパン、キュリー夫人。たぶん聞いたことのある名前ばかりでしょう。では、共通点は何でしょうか。それは、ポーランド生まれということです。

では、世界で知られた日本の名前はなんでしょう。それは、「トヨタ」「マツダ」「ソニー」などです。こちらは人の名前とは言えないようですね。

コペルニクス、シヨパン、キュリー夫人はポーランドが誇る偉人です。ワルシャワの町には銅像や記念碑があり、生まれ育った家はそのまま残されています。



市内にある
コペルニクス像

コペルニクスは十六世紀の人で、トルンという地方の出身ですが、豊かな商家らしい家がそのまま記念館として保存されています。観光客や見学の子どもたちが大勢訪れています。シヨパンの生家はワ

ルシャワ郊外にあり、シヨパンのお父さんが仕えていた貴族の邸宅と共に、今では公園になっています。夏には世界各地からの旅行者が訪れ、シヨパンの名曲演奏を聴き、庭園を散策しています。

キュリー夫人の生家は、ワルシャワ最大の観光名所「古い町」の近くにあつて、博物館としてたくさんの資料が展示され、見学できるようになっています。

イタリアやフランスには有名人が多過ぎて、指を折って数えることもできませんが、ヨーロッパの中心から東に寄ったこの国では、日本人の多くが知っている名前はこの三人くらいでしょう。

でも、中には「本当にポーランド人？」と疑いを持った人もいます。それもそのはずで、この三人が活躍した舞台が他国、つまりイタリアやフランスだったのです。でもポーランド人が誇りにしているのはたしかです。

七、ポーランド人はナニ語を話す？

「ポーランド人はナニ語を話すのですか。」よく尋ねられましたが、もちろんポーランド人はポーランド語を話すのです。

東隣の大国ロシア（ソ連の中心）や、南隣のチェコスロバキアなどと共にスラブ民族と呼ばれていますから、それ

らの国の言葉はよく似ています。しかし、すっかり同じということはありません。大昔には国境はなかったでしょうし、国境ができてからも、東に西に境界線は移動していませんから、これらの国の言葉は互いに方言同士、ちょっと聞いたくらいではわからないほど違ってしまった方言同士、と言えないこともあります。

例えば、数の二・三・四・五は、日本人の耳には同じように聞こえてきます。大ざっぱに片仮名書きをしたら、「ドバ・チシ・チテルイ・ピェンチ」と、全く同じになってしまっています。

ところが、それぞれの国の文字で書くと、ポーランド語では「dwa 'trzy 'cztery 'pieć」となり、ロシア語では「два три четыре пять шесть」と書かれ、とうてい姉妹語のように思えなくなってしまいます。

ローマ字や英語を勉強した人ならすぐわかるとおり、ポーランド語はローマ字と大体同じだし、ロシアの文字はひどくちがっているのに気づくはずです。ロシアの文字は、ギリシャから、ギリシャ正教と共に入って行ったのです。それに対して、ポーランドは、イタリアの方からカソリックと共にたたらされたのだそうです。ちょっとした旅行者でも、この文字の違いと、教会の形が違うのにはすぐ気がつきます。

ロシア語
два
три
четыре
пять
шесть

ポーランド語
dwa
trzy
cztery
pieć
sześć

左ポーランド語・右ロシア語

ところで、日本と中国は同じ文字を長い間使ってきましたが、言葉は通じ合うでしょうか。それは無理のようです。世界には実にたくさんの方言葉があります。国の数よりは多いでしょう。それに比べると文字の種類はうんと少ないことにも、旅行していると気づくものです。

八、主食はジャガイモ

日本の主食は米ということになっています。しかし、昔はともかく、今の日本で、米が主な食べ物で副食は少々という家庭はないと思います。

ポーランドの主食はジャガイモだと言われていますが、日本のお米と同じような運命をたどり、テーブルの上はジャガイモだけといった食事風景はもうなくなっています。

ポーランドの小学校でも、希望者には給食があります。校舎の地階に食堂があり、一列に並んで、スープ皿と肉料

理皿を受け取ります。肉料理皿に、野菜とジャガイモがのっています。

二皿受け取ると席を見つけて、おしゃべりをしながら食べ始めます。中には調子に乗り過ぎて、先生に注意されている子もいます。児童数に比べて、たいい食堂は小さいので、早く授業のすむ低学年が先で、高学年はもう一時間勉強してから食事というように、時間差をつけてあります。でも中学年くらいの女の子が、低学年の男の子の給食の手伝いをしている光景もよく見ました。ポーランドは久しく肉不足が続いていますが、学校給食には優先的に回されるという話でした。



食べる食モガイジャ
もどもの子地団

ポーランドでは、一日のうち、最も大切にされてきたのが昼食なのです。正さん（餐）は午後ということになっていました。夕飯は火を用いない食事を簡単にとるのが伝統的な習慣だったのです。だから、三十分くらいで昼食をすませることはできません。大人たちはお酒も飲んだでしょうから、二時間は休みをとらないと次の仕事に

はなりません。昼休み二時間というお店は、今でもヨーロッパには多いと思います。

しかし、自動車が普及し、工業も盛んになった現在、こんなんびりした習慣はだんだんなくなりつつあります。とにかく、ポーランドの食事に欠かせないのがジャガイモということは、今でも言えそうです。北海道のおいものとよく似ていて、ほっくりと、とてもおいしいおいものです。

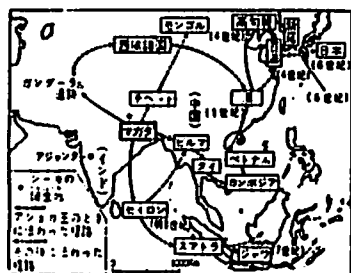
パキスタンという国について

パキスタン・カラチ日本人学校

津山市立鶴山中学校 藤木靖史

へはじめに▽

きっとみんなは、「西遊記」を読んだことがあると思います。孫悟空の活躍する話ですね。天竺（インド）へ、大変苦勞をして、お経の本を受けとりに行くのですが、本当の行き先は、パキスタンの北部のガンダーラ地方であったと言われています。



仏教のひろがり

ガンダーラ地方は、仏像が最初に作られた場所として知られています。西洋の文化と、東洋の文化がまざり合う場所だったので、仏像も少し変わっていました。鼻ひげをはやした仏像があります。鼻が高く髪の長い、ギリシャ彫刻のような仏像も



あります。シルクロードを通り、やがて中国に伝わり、現在わたしたちが目にする姿に変わってきたのです。

パキスタンは、歴史上大変重要な国だったので。

▽四大文明発祥の地▽

みんなが、中学生になって使う歴史の教科書に、次のような説明があります。

「国家はまず、エジプト・メソポタミア・インド・中国の四地域に、紀元前三五〇〇～一六〇〇年ごろに生まれて、文字と青銅器が使われはじめた。これが最初の文明である。」

インドの北西部を流れるインダス川のはとりに、今は乾燥しているが、かつては適度の雨が降り、森林もあったらしい。

ここは紀元前二五〇〇年ごろから、モヘンジョリダロやハラッパーなどの都市ができて文明が開けた。これら

の都市では、町なみは都市計画にもとづいて長方形にくられ、れんが造りの建物がならんでいた。道路は整然としていて、その下に下水道もできていた。住民は水牛などを使って農耕をいとなみ、象形文字を使い、メソポタミアの都市と商品の交換もおこなっていた。(中略)紀元前六世紀ごろシャカが出て、人はみな平等で「この世の苦しみは心のまよいから出ていることをさ」といって



3世紀出土のシャカ王の像(ガンダーラ)。

カニシカ王が活躍した。二人の王は、ともに仏教を保護したので、仏教は各地にひろまり、同時にヘレニズム文化の影響を受けて、仏像仏画などの仏教美術が、ガンダーラ地方などで栄え、それはやがて中国に伝えられた。」

(日本書籍 中学社会より)
しかし、パキスタン(正式にはパキスタン回教共和国)

の国の歴史は古くありません。

一九四七年八月十四日に建国されました。

今から三十一年前のことです。当時の首都は、カラチでした。現在は、北部のイスラマバードです。

へ位置

パキスタン

は、平行四辺形の形をして

いる国です。

インドの西側にあります。

北はヒマラヤ

山脈まで続いています。世界で二番目に高い山、K2があります。西はアフガニスタンと、イランに接しています。地図をよく見ると、ソビエトとは接していません。南は、アラビア海です。場所がわかりましたか。

北緯二十四度から三十七度の間にあります。

沖縄県の宮古島から茨城県までの位置にあたります。雪の降るところから、一年中夏のところまであるわけです。

日本から飛行機で約十四時間かかります。

西へ六千五百キロ行った所です。時差は四時間あります。



日本が正午のとき、パキスタンは午前八時です。パキスタンは正午のとき日本は午後四時です。日本の方が、早く朝がきて、早く夜になるのです。

＜気候＞

全体的には、乾燥しており、大陸性気候です。雨はほとんど降らず、夏は暑さがきびしいです。夏はモンスーン（季節風）がふき、雨を降らせます。海に面したカラチでは、まわりに山がないため、モンスーンですらはほとんど雨が降りません。一年間に約二百ミリくらいです。岡山市は千二百ミリですから約六分の一です。それも集中して降りますから、一年に十日くらいしか雨の日がないのです。

ですから、遠足や運動会の日には、雨が降ったらどうしようと考えが必要がありません。

テルテル坊主のいない国なのです。夏は四十度を越す日があります。冬は五度くらいにさがる日があります。半年以上の暑い夏をすごしてきた人々には、冬はものすごく寒く感じられます。

夏の暑い日も、日陰に入ると風があり、湿度が低いので、日本の夏ほど暑苦しいことはありません。暑い日は、車の窓をしめて走る方が涼しいのです。また、ダブダブの長袖の服を着ている方が涼しいのです。なぜだかわかりますか。

＜言葉＞

イギリスの植民地であったため、公用語は英語でしたが、現在はウルドゥ語が国の言葉となっています。

ウルドゥ語は、インドのヒンディー語と、イスラム教のアラビア語との混合語です。イスラム教では、アラブの神の言葉「コーラン」を、他の国の言葉に直すことを禁止しており、そのまま覚えさせたので、両方の言葉をまぜて使うようになったのです。また、単語の数が多くないため、英語からの借用語も多く、新しくつくられた言語だといえます。主語と動詞などの位置は、日本語と同じなのです。

砂漠の中でも、馬にのっていつも、よく分かるようにつくられた言葉らしく、激しい口調にきこえます。

文字の書き方は、右から左へと書いていきます。英語は左から右です。

数字の読み方は、一（エイク）二（ドー）

PAKISTAN

パキスタン（英語）

پاکستان

ンタスィバ（ウルドゥ語）

三(ティン) 四(チャール) 五(パンチ) 六(チェー) 七(サート) 八(アート) 九(ノン) 十(ダス) と、少し覚えにくいです。

ヘイスラム教のこと

パキスタンは回教徒の国です。国民のおよそ九割の人間が信仰しているそうです。回教というのは宗教の名前です。わたしたち日本人から見ると「エー」「ウソー」というようなしきたりがあります。

① 毎日五回、メッカ(サウジアラビア)にあり、イスラム教の都です。にむかってお祈りをします。お祈りの時間がくると、モスク(寺院)からスピーカーを通して大きな声がかきこえてきます。公園や、庭に布をしいて、その上で、立ったりすわったりしながらお祈りをする姿がみられます。必ず、「アラーのはかに神はない。」と、唱えなければならぬのです。

② 断食月(ラマダン)と言うがパキスタンではラマザンと発音する)があります。

イスラム教の暦の九月に毎年おこなわれるもので、三十日間断食(物を食べないこと)が続けられるのです。この三十日間、日の出から日の入りまで、水一滴さえ口の中に入れてはいけません。体の中をきれいにして、新年

を迎えるための儀式なのです。病人や幼児はしなくてよいのです。太陽が沈むとどの家も、いっせいに夕食の準備にかかります。一日一回の食事を三十日続けるのですから大変苦しいことだと思えます。ラマザンが終った日は、大変なもので、町中大騒ぎで新年を祝います。

イスラム教のカレンダーは太陰暦で、お月さまの変化をもとにして作られています。日本の昔の暦と同じでした。一年は三百五十五日になっていますから、今、わたしたちが使っているカレンダーより、毎年十一日ずつ早く終ります。だから、宗教的行事や、宗教上の休日も十一日ずつ早くなるのです。ラマザンも毎年十一日ずつ早くやってくるのです。

③ お金のある人は、ない人にあげます。

お金をあげることににより、自分がかかるとも素晴らしい人間になれるということなのです。道ばたに、仕事もなく、食べるものもない人がいるのを見たら、お金を黙ってあげるのです。まずしい人の中には、毎日お金をもらって生活をしている人もいます。日本円で計算すると五千円くらいをあげる人もいます。物価やお金の価値が違うので簡単に言えませんが、パキスタンでの五千円は、日本では五万円の価値があるのです。

④ 奥さんを四人まで持つことが許されています。

⑤ お酒を飲んではいけません。飲んだことがわかると、みんなの前でムチ打ちの刑をうけます。

⑥ 左手はきたない手と考えられ、右手で食事をします。ナイフやフォークを持つときは両手を使います。子どもの頭を、うっかり左手でさわると、けんかになるほです。

⑦ 金曜日が休日です。

⑧ プタ肉やプタ肉を材料にした食物（ハム・ソーセージなど）を食べてはいけません。

⑨ 女の人には、顔や肌を見せてはいけません。今でも、黒い布をかぶっている女性もいます。海水浴は、なんと、服のまま水につかります。プールで泳ぐのは、男だけです。

へさいごに

わたし達日本人にとって、驚くことがまだまだたくさんあります。それが宗教によるものであったり、長い間の植民地時代の影響によるものであったりするものですから、馬鹿にしたり、批判をするものではありません。

国際理解は、その国のこと、その国の人々のくらしや考え方などを、よく知ることが大切です。写真を見たり、話を聞いたりただでは、本当に理解できないことが多いのです。パキスタンのカラスは白いマフラーをしていると聞いても信じないでしょう。実物を見ないと信じられない

ことがたくさんあります。

世界の国々、世界の人々に関心を持つてほしいと思います。そして、地球の人々が仲良く生活し、平和を続けていくためにも、自分の目と、手と心を使って理解を深めるようになってほしいと思います。

ギリシャの子どもへ 質問します

ギリシャ・アテネ日本人学校

北房町立・中津井小学校 徳田 真人

一、先生に好き嫌いがありますか。

答 ある。

二、どんな先生が好きですか。

答 近よりやすい。

やさしい。

三、どんな先生が嫌いですか。

答 すぐおこる。

気むずかしい。

四、親に勉強しろとよく言われますか。

答 よく言われる、特にお母さん。

五、テレビを一日にどのくらい見ますか。

答 一〜二時間、休みのときは五時間ぐらい見るときもよくある。

六、テスト前には夜遅くまで勉強して、つらいと思うときがありますか、みなさんはどうですか。

答 心配でよく眠れないときもあるが、勉強しないとい

けないという気持ちで頑張る。

七、親にはめられるのは、どんなときですか。

答 学校の成績がよくなったとき。

家の手伝いをよくしたとき。

八、親と意見が合わず、言い合いをすることがありますか。

答 ある。自分の意見をおしつけられたときには、家出をしたと思うときもある。

これは日本人の答ではありません。ギリシャのアテネ日本人学校の近くに住んでいる小学校六年生から中学校三年生の子ども七名と話したときのギリシャ人の答です。質問者はアテネ日本人学校六年生九名です。日本人の子どもたちの答だと思った人はいませんか。

質問を続けましょう。

九、どんな教科がありますか。

答 国語、数学、歴史、物理、生物、英語、フランス語
体育、音楽、宗教など。

十、遠足がありますか。

答 ある、年五回ぐらい。

十一、塾がありますか。

答 ある。英語、音楽、生物、数学、フランス語など。

十二、サッカー以外に、どんな体育をしていますか。

答 バスケット、バレーボール、砲丸投げ、とび箱、三段とびなど（野球はない）

十三、将来、どんな職業につきたいですか。

答 飛行機の設計技師、パイロット、ステューワーズ、軍人。

十四、親は将来どんな人になれといっていますか。

答 人に迷惑をかけない人。世の中をひっぱる人。勉強をしっかりと大学までいってほしい。

これらをどう思いますか。教科にフランス語、宗教があるのは日本とは違いますが、この国の歴史から考えると当然のことでしょう。宗教はギリシヤ正教で国教になってい

ますが、強制はしてなく、キリスト教の人もかなりいます。物理・生物は日本でも「理科」としてまとめて学習していることです。

遠足についてですが、ギリシヤは地中海性気候であり、天気がよく一年のうち三百日は晴天であるといわれています。五

月や十一月でもエーゲ海で泳いでいる人を見かけます。春や秋はわずかの期間しかなく、冬がすぎるとたちまち暑くなり夏が来ます。夏がすぎると、あっという間に冬となります。夏には雲一つない日が続き、雲をさがしまわるようなときもあります。遠足が年五回あるのも、うなづけますね。

サッカーはさかんな国です。私が住んでいた近くにギベゾという広い運動場がありました。日曜日ごとにサッカーの試合をしていて「ワーワー」という歓声が一日中鳴り渡っていました。子どもではなく、大人の試合です。子ども達も、ちょっとした広場があるとそこでサッカーをしている姿をよく見かけます。日本と違い、アテネ市内でさえも、ところどころに広場があります。こうしたことを日本人学校の子ども達もよく知っていますので「サッカー以外に……」という質問となったわけです。野球がないのも、そうしたことを考えると不思議なことではないでしょう。もし、不思議に思う人がいるならば、逆にギリシヤ人から見ると野球をよくする日本人は不思議であると言わざるを得ないでしょう。

将来の仕事に軍人というのがありますが、この国には徴兵制があり一度は軍へ入らないといけないことになっていますので、うなづけることでしょう。



アテネ日本人学校

十五、日本人はギリシャ人のように毎日昼寝をしませんか、これをどう思いますか。

答は後回しにして、昼寝のことについてお話ししましょう。ギリシャ語でシエスタといって毎日、昼寝をする習慣があります。午後二時頃から五時頃まで、どこのお家庭でも昼寝をします。これをどう思いますか。日本人学校の子どもの達の中には「だらしないなあ。」とか「なまけている。」とか言つて馬鹿にする者もいます。みなさんはどうでしょう。

アテネの緯度は日本の仙台ぐらいです。夏でも、かなり涼しいと思うかも知れませんね。しかし、前に書きましたように、毎日、毎日晴天が続きますと、ぐっと地面が熱せられ、外にでると物すごい暑さです。湿度は低いですが、部屋に入ると涼しいものです。夏は夜露^{よろ}もほとんどありませんから、私のすぐそばの家ではベッドを松林の中に出して寝ている人もいました。昼間の暑さに比べ、夕方から夜にかけての涼しさは日本では味わえないもので、生きかえるような気がします。そこで暑い暑い昼間は戸を閉めて真暗にして（家の造りが昼でも真暗になるようにできています。）昼寝をし、太陽が落ちかけてから、また夜遅くまで仕事をしたり、散歩をしたり、タベルナ（食堂のことをギリシャ語でこういいます。おもしろいですね。）で懇談した

り、エーゲ海へ泳ぎに行ったりするのは、疲れも少なく合理的で快適な生活といえるでしょう。日本人学校は昼寝はせず、日本と同じような学校生活ですが、夏休みになると私も知らず知らずギリシャ人と同じ生活リズムになっているので、家族みんなで笑つたり生活の知恵に感心したりしたものです。

さて、この質問に対するギリシャ人の子ども達の答はどうでしょうか。

答 「シエスタはないほうがよい。昼寝のために外で遊べない。」

子どもにしてみれば、明かるいときは遊びたいのですね。みなさんも同じでしょう。

十六、ときに日本人を馬鹿にする人がいますが、みなさんはそんな人をどう思いますか。

答 そんなにたくさんの方が馬鹿にするとは思わない。いやだなあと思う。

道を歩いてみると、ときに「チンチン、チャンチャン。」と言つたりして馬鹿にした様子をみせる子供に出合います。この言葉はギリシャ語にないので奇異に感じるので。言葉は近代ギリシャ語で、高等学校の数学によくでてくる α 、 β 、 γ 、 δ ……の二十四文字です。この中に π もありま

「チンチン、……。」と言ったときには、腹を立てず、めずらしいからだな、と思いニコッと笑ってやりますと、相手もニコッと笑ってきます。日本人だって同じような人がいるでしょう。

これらの質問の後にレクレーションをしました。内容は「ねずみとり」「エイ・ヤー。」そして「卓球」でした。次はこの会を終えての質問者であった日本人学校六年生の感想文です。

石田かおり

昨日、六月二十七日には、待ちに待ったギリシャの子ども達との交歓会があった。

「わあ、コーラだ、ジュースだ。」

ギリシャの子どもが来ているのに、さっそく飲みものの取り合いで大さわぎ。そのさわぎもやとおさまって質問が始まった。

「どんな教科がありますか。」

と、まず清水さん。

ヤコビデスさんが、それを通訳して下さった。ギリシャの子ども達が答えてくれた。

「国語、数学、物理、体育、歴史……などいろいろあって、宗教は必ずやります。」

と、いうことだ。どんどん質問していくと……

「将来、どんな職業につきたいですか。」

健君がたずねた。

「飛行機の設計技師。」と、一人め。

「同じく設計技師。」「パイロット。」「軍人。」いろいろ出たが、私の予想は船乗りだったのに、みんな飛行機関係がいそうなので、驚ろいてしまった。「ギリシャは海運業が盛んなのだから、一人ぐらい船乗りになりたい人がいてもいいのになあ。」と思った。でも、「やっぱり、めずらしい職業の方がいいのかしら。」と思ったりして、結局、わからずじまいで、後になって質問すればよかったと、今考えれば少し残念だ。

しばらくしてレクレーションをやり始めた。まず最初に「ねずみとり」をした。この遊びは、手が入るぐらいの円にしてハチマキを結び、二人がそのハチマキの両端をもつ。そして、その円の後ろにアメを置いておく。もう一人の人は円の中に手を入れて、すばやくアメをとってから手をひっこめる。ハチマキを持っている人は端を引張ってアメを取ろうとしている手をハチマキでつかまえてしまうのである。やってみると、なかなかつかまらなくて、みんな逃げられてしまう。やっと一人かかると「つかまった、つかまった。」と大変なさわぎ。とても面白かった。

その次は「エイ・ヤー」だ。二人で一本ずつ丸めた棒を

持ち、目かくしをして一人が「エイ」と言う、もう一人が「ヤー」と答え、その声をたよりにして早く相手をぶつた方が勝ちという遊びである。目かくしをしているので、椅子や部屋の中のエレクトーンをたたく者、部屋のすみへ逃げてしまう者などいろいろいる。結局はほとんど引き分けで終わったが、みんな興奮してしまい、立ったり座ったり、どなったりしている。何度やってもおもしろい。ギリシャの子ども達も楽しそうで、みんな大笑いしていた。私はみんな楽しそうなので、よかったと思った。「エイ・ヤー」が終わると、卓球をやった。ギリシャ人対日本人で日本人が勝った。みんなの感想は「弱かった。」の一言。最後に握手をして帰った。

とても勉強になったし、楽しい交歓会だった。(原文のまま)

全員の感想を載せたいが紙面の都合で次の人からは前の方の文は省略して、終わりの方だけを原文のまま載せます。

石渡 美加

……みんなのお待ちかねの卓球をやった。ギリシャ人はやつぱり下手だったが藤田君は負けてしまった。ギリシャ人がうまく打てない理由は二つある。一つはあまり卓球をやったことがないこと。もう一つはラケットの持ち方がなっていないことだった。わたしはジャンケンで負けたのであ

まりできなかった。その時、下校のベルが鳴ったので残念だったがそこでレクレーションは終わった。

レクレーションをもっとやりたかったし、ギリシャ人にハゲの人がなぜ多いのか聞くのを忘れてしまったけれどこの交歓会はまあ成功だったと思います。

井上 真理

……私は人と人がよく話し合い、そういう体験をすることは、とてもよいことだと思います。今日だって私たちにあって勉強になったとみんなも思っているのにちがいないと思います。このことは日本に帰っても、きつといい思い出になるに違いありません。でも、まだ完全にわかったのではないから、絶対にまた話し合いをしたいと思います。今日の日は、とにかく、とてもよい日だったので。

阿久津哲也

……ぼくは今までギリシャ人が日本人をみると馬鹿にするので、ギリシャ人をきらっていたけど、それは誤解かも知れないなと思いました。

矢部 陽介

……最後に握手をしてギリシャ人は帰っていった。僕はレクレーションに使ったアメがはしかった。

藤田 淳司

……そしてやってるうちに下校のベルが鳴って楽しい交歓

会も終わった。

清水里英子

……今日、このようにギリシャ人と話したり遊んだりして見ると、ギリシャ人も日本人が思っているほど悪くないんだなあと思った。また、いつかこのような交歓会ができたらしたいと思う。そして、できたらギリシャ人とも友達になりたい。

五十嵐 正

……それで交歓会は終わって「きょうなら」をした。

石川 健

……たった二時間だけだったけど、とっても楽しかったです。できたら、もう一度ギリシャ人と交歓会をしたいと思っています。なお、他の国々の人とも交歓会をしたいと思います。とても楽しい交歓会でした。

これは一九七八年六月に行ったことの記録です。

「エッ、それなら今は変わっているなあ。」ですって？そうかなあ、どこが変わっているのだろうか。賢明なる皆さんには、おわかりですね。

今も昔も人に変わりはありません。古い書物や外国のものを読んでも、その人間性に心打たれるのは今も昔も同じであることは皆さんもよく知っていますね。

私たちは色の違いとか習慣とか、経済的発展とか、とも

すれば見かけにとらわれ、その違いをオーバーに考えてしまいますね。その違いは人として考えるならば、わずかな違いにしかなさませんね。その違いを感じるようなぜ、それが生じたのかを考えているでしょうか。表面だけをとらえ、深さを見失ってはいないでしょうか。その深さは測ることのできないほどのものもあるかも知れませんか。そうした大切なものを見失っては人類の幸せも見失ってしまうことでしょう。

話は変わりますが、私はアテネにあるバルテノン神殿が好きで、たびたび、そこへ行きました。小高い丘の上にある神殿からの眺めは、見渡す限り真白い建物が建ち並ぶアテネの町と、青い青い空、はるかに見えるエーゲ海、それは文字通り言葉では言い現せない美しさです。今でも脳裏にはつきりと浮かびます。それと同時に、いやな思い出も浮かんでしまいます。そのお話しをしましょう。



バルテノン神殿へ登る道は車は通りませんので歩いて行きます。この神殿へは世界中の人がおとずれるといっても過言ではないでしょう。道で

は各国の人々にお会いし、そのとき「チャオ」とか「ハロ―」とか「カルメラサス」とか、その国々の言葉であいさつがかわされます。それはいかにも自然であり、心豊かになり思わず「こんにちは」と言ってしまう。また、私の方からも会う人ごとに日本語であいさつをします。その意味がわからなくても必ずにこやかなあいさつが返ってきます。あいさつがこんなに美しい響きをもつ場所も数少ないかも知れません。ところが、あいさつが返ってこない人もいます。その返ってこない人の全部といってよいほど日本人なのです。もちろん日本人もあいさつをしますが、あいさつが返ってこない人のほとんどは日本人だということなのです。どうしてなのでしょう。最初は不思議にも思いましたが、考えてみると小さいときからの習慣でしょう。習慣のないところでは意識しないとできないことですから……。まだ、他にも理由はあるでしょうが……。

日本人に会って懐かしいっぱいのあいさつ。でも、返ってこないあいさつ。何とさびしいことでしょう。外国の人はどう思うでしょうね。

もう一つ別のお話しをしましょう。私はガリノスというギリシャ人と三年間ギリシャにいる間ずっとつき合っていました。ガリノスさんと言うべきでしょうが「さん」をつけずにガリノスと呼んでいましたし、ガリノスも私を「ト

クダ」と呼んでいた仲ですので、ガリノスと書かせてもらいます。

ガリノスは散髪屋さんで、我が家にもたびたび訪れていました。ときには散髪道具を持ってきて、私の三人の子どもの散髪をしてくれたりもしました。決してお金を取らないのには困りました。一緒に泳ぎに行ったり、つりに行ったり、買い物をしたりしました。ガリノスの生まれ故郷であるレスボス島のミティリーニ市まで十六時間半もかけフェリーに車をつんで行き、一週間は泊まったこともありました。日本へ帰ってから手紙のやりとりをしていました。



「ガリノスの家族と私の家族
前列右はしがガリノス」

一九八八年八月、その子どもさんから、ガリノスの死を知らせてきました。涙が出て止まりませんでした。

そのガリノスはドイツ人を嫌っていました。「ドイツ人は戦争でギリシャへ攻めてきた。」というのです。それなら誰でも嫌うだろうと考えてはい

ました。

ギリシャ滞在三年めの夏、ガリノスがある松林の中へつれていってくれました。その松に付いている鉄砲弾の跡を指差しながら、ガリノスは言いました。

「ドイツ人が犬でギリシャ人を追い出し、ここでみんなを殺した。女も子どもも……。」

鉄砲弾の跡は、たくさんついていました。松が大きくなったためか私の背丈よりやゝ高い所には、いっぱいついていました。松林の中を通りすぎる風が、そよそよとおをなでていたのを今でも何故か覚えています。その時私はハッキリとガリノスの気持ちがありました。そして次の瞬間、別の思いが湧き上がってきました。

「このガリノスのような人がいる国の人々を決して苦しめるようなことをしてはいけない。」と……。その思いは心の底から突き上げてくるような思いでした。自分では、どうすることもできない思いでした。ガリノスの目は、うるんでいました。どうして、こんな悲しいことが起こったのでしょうか。

このガリノスは日本語は話せませんが、大の日本びいきでした。そのことを不思議にも思っていましたので、ギリシャ語がわかりかけた頃「どうして、そんなに日本人が好きなのか。」と尋ねました。ガリノスは二つのことを言いま

した。

その一つは「日本人は、人はみんな同じであるという気持ちをもいつも持っている。私たちがバカにしたりしない。」二つめは「エフアリスト（ありがとう）シグノミィ（すみません）をよく言う。」ということでした。この二つだけで、他の事は何も言いませんでした。

ガリノスだけでなく、ギリシャでは日本人を好む人が多い国です。

さて、私達の心をつなぐものはいったい何なのでしょう。平和、平和というけれど、その平和を導くものは何なのでしょう。そのために今、自分はもしなければならぬのでしょうか。このつたないながらも真実をお伝えした文が、そのために少しでも役立つならば幸せです。

こうしたギリシャの国は世界のどこにあるのでしょうか。人口はどの位で、どんな歴史があるのでしょうか。そんなことは日本に居ても、その気になれば、すぐ調べられますね。

寶石の鳥

スリランカ・コロンボ日本人学校

元岡山市立平福小学校 沼本 泰知

昔、ある国に一人の王様がいました。

王様の城の近くに、一人の未亡人とその息子が生んでいました。

その未亡人は貧しく、他の人達と一緒に、お城の米つきを手伝って、暮らしていました。

彼女は毎朝、米をつきに出かけ、夕方わずかばかりのお金をもらい、みの中からこれ落ちたくず米を、持って帰りました。

お金は、生活のために、すぐ使ってしまい、くず米が、毎日の食べ物でした。

それほど貧しかったにもかかわらず、未亡人は息子の教育には熱心でした。

ある晩のこと、王様は夢を見ました。

それはブルーサファイヤの目を持ち、くちばしと足がルビーの黄金の鳥の夢でした。

王様は、ブラーマン*に使いを送り、夢の意味を教えてください。

れるように頼みました。

ブラーマンは告げました。

「陛下、夢に現れた鳥は、ここから七つの森をこえた所に住んでいるラクシ**のところにいます。その鳥を食べたものは、決して、年をとることがない、と言われています。」それを聞いて、王様は、その鳥がとても欲しくなりました。そして、家来に命じて

「宝石の鳥を持って来た者に、山のような宝物と領地の一部を与える」という、おふれを城下に出させました。

「そんな事が出来るわけがない。誰も、そんな鳥を持って来ることは出来ない。」

王様のおふれを聞いた人々は、口々に言いあい、誰も家来に申し出ませんでした。

家来が、未亡人の家の前を通りかかった時、息子が、お母さんに言いました。

「お母さん、僕が、その宝石の鳥を捕まえに行くよ。だから、家来の人に、そう言ってよ。」

未亡人は、家来を呼びとめました。

王様の家来は、未亡人とその息子を、お城へ連れて行きました。

王様は未亡人に、たずねました。

「何の用じゃ。」

未亡人は答えました。

「陛下、私の息子が、陛下のために、宝石の鳥を捕まえに行きたい、と申しております。」

王様は喜んで、息子にたずねました。

「その旅に必要なものを、なんなりと申してみよ。」

息子は言いました。

「陛下、どうぞ、良い馬を一頭と剣を一振り、それに王子のような服と飾りものを下さい。」

そこで、王様は家来に言いつけて、これらの望みの物をすべて、その息子に与えました。

未亡人も、また、息子に一包みの米を持たせました。

立派な服と飾りものを身に付け、剣をたずさえた息子は、まるで本物の王子様のようにでした。

息子は米の包みを持ち、馬に乗ると、宝石の鳥を探しに旅立ちました。

王子のようになった息子は、長い間かかって、二つの森を通り抜け、三つめの森にさしかかりました。

お腹が空いてきたので、馬の上から、どこかに水はないかと見回しました。

彼は川を見つけると、馬を止めて降りました。

食事にしようと米の包みを広げた時、彼は一人の行者が川のそばに居るのに気がつきました。

彼はお米をあげようとしたが、行者は受け取りませんでした。それで、米の一部を行者に渡し、自分は少しだけ食べて、残りは元のように包みました。

王子が食べ終わると、行者が彼に聞きました。

「そなたは馬に乗って、どこに行くのじゃ？」

「私はラクシの所に、宝石の鳥を、捕まえに行くつもりなのです。」

王子が答えると、行者は言いました。

「それは、とても危険な企てじゃ。宝石の鳥を捕りに行って、生きて帰って来た者はいない。だから、宝石の鳥はあきらめて、家に帰るがよい。」

しかし、王子は行者の言う事を聞き入れず、やはり旅を続けるつもりでした。

すると、行者は言いました。

「よろしい、このあと、あなたは森を二つ通るだろう。その時、川のそばで、行者に会ったら、旅を続けて良いかどうか、たずねなさい。彼等が良いと言ったら、旅を続けなさい。」

そして、行者は王子に、一つの小石を手渡し、言いました。

「これを持って行きなさい。もし、ラクシが、そなたを追いかけて来たら、これをやつに投げなさい。そうすれば、

大きな山がラクシとそなたの間に現れるだろう。」

王子は行者に、ひざまづいて感謝を捧げてから、森を通り抜けて行きました。

彼が次の森を通り、川のそばに来た時、一人の行者に出会いました。王子は行者の前にひざまづいて、いくらかのお米を差し出しました。

行者は彼に、たずねました。

「そなたは、この森を通って、どこに行くつもりなのじゃ？」

玉子が、わけを話すと、この行者も言いました。

「それは、とても危険な旅じゃ。ラクシの所へ行って、無事に戻って来た者はいない。だから、おまえさんも宝石の鳥をあきらめて、家へ帰ることじゃ。」

しかし、王子は言いました。

「私は戻るつもりはありません。宝石の鳥を、捕りにいかなければなりませんから。」

すると、行者は言いました。

「よろしい。ではこの先でもう一人の行者に会ったら、彼にもたずねてごらん下さい。もし、彼が行っても良いと言ったら、行きなさい。」

そして、彼は、いばらの小枝を、王子に手渡して言いました。

「もし、ラクシが追いかけて来たら、このいばらをやつに投げなさい。これは、大きないばらの森になって、やつをさえぎるだろう。」

王子は、そのいばらを受け取り、行者に、ひざまづいて感謝をしてから、さらに旅を続けました。

次の森にさしかかった時、王子は川のそばで、三番目の行者に出会いました。

王子は近づいて、うやうやしく挨拶をしました。

しかし、行者は、何も言いませんでした。

王子は、そばに座り、話しかけましたが、それでも、行者は口をききませんでした。

王子は、少しのお米を包みから出し、鍋に入れて洗い、二つの石の上において、炊こうとしました。

しかし、鍋はひっくりかえり、水とお米がこぼれて、火を消してしまいました。

王子は、ぶつぶつ言いながら、また、もう一度、二つの石に、鍋をのせようとしたが、また、ひっくりかえってしまいました。更に同じ事をしようとした時、行者が言いました。

「愚か者め、なぜ、三つの石をおかないのだ？」

王子は言いました。

「私が、うかがいたいのは、火のことではありません。」

もう一度おじぎをして、行者にたずねました。

「あなたは、なぜ今まで黙っていらしたのですか？」

行者は答えました。

「私は、なぜ、おまえがこの旅に出たかを、知っているからだ。そもそも、宝石の鳥を手に入れようとは、ばかげた考えだ。誰も生きて帰れないのだ。だから、私は黙っていたのだ。」

王子は言いました。

「私に行くな、と言っても無駄です。私は、どうしても、行かねばならないのです。だから、もし、あなたが私のことを考えて下さるのなら、どうすれば、ラクシの城から、無事に戻って来られるのかを教えてください。」

行者は、薪の燃えさしを取ると、王子に与え、言いました。「よろしい、気をつけて行くがよい。だが、日が沈む前にラクシの城に着くようにするのじゃ。なぜなら、夜になると、ラクシが帰ってくるからじゃ。おまえは、賢く行動しなければならぬ。もし、ラクシに追いかけられたら、この薪の燃えさしを、やつに投げるのじゃ。そうすれば、大きな炎が、ラクシとおまえの間をさえぎるだろう。」王子が城へ着いた時、ラクシは、そこにはいませんでした。が、ラクシの娘がいました。

彼女は一目見て、王子が好きになってしまいました。

彼女は、走りよって来て、たずねました。

「あなたは、どこに行くつもりなの？」

王子は、道に迷った旅人のふりをして、言いました。

「私は、道に迷ってしまったのです。今晚、ここに泊めてもらえませんか？」

ラクシの娘は、言いました。

「なぜ、あなたは、ここに来たの？ここは、私のお母さんのラクシの家ですよ。お母さんは、もうすぐ帰ってくるわ。急いで、出ておいきなさい。さもないと食べられてしまうわ。」

王子は答えました。

「私は、道に迷って、ここに来てしまいました。疲れているので、どこへも行きたくありません。あなたのように愛らしい王女様の家で死ねたら、本望です。どうぞ、ここに泊めて下さい。」

ラクシの娘は、これを聞いて、うれしくなりました。

「すぐにでも、お母さんが帰って来るにちがいないから、私達、これ以上、話しているわけにいかないわ。お母さんが、明日の朝出かけたなら、私達は話ができるわ。それまで屋根裏で隠れていてちょうだい。」

王子は、屋根裏へ上って、隠れました。

ラクシは、その日も、何人かの人間を食べて、帰ってきま

した。

そして、中庭につないである馬を見て、たずねました。

「あの馬は、誰のだ？」

娘は答えました。

「これは、誰のでもないわ。森から迷って、ここに来たのよ。私が乗るのに、ちょうど良いと思ったから、つないでおいたわ。」

ラクシは、娘の話を信用しました。

そして、家の中に入って来ると、寝る仕度をしました。

しかし、ラクシは、あたりを見回して、臭いをかきながらたずねました。

「おや、この臭いは、何の臭いだろう？誰か、ここにいますのか？」

娘は、素知らぬ顔で、答えました。

「お母さん、何を言ってるの？いつも、人間を食べているから、その臭いがするのよ。」

「それもそうだね。」

と言って、ラクシは眠ってしまいました。

王子は、屋根裏で眠らずにいました。なぜなら、いつどんな拍子にラクシが起き出すかもしれないからです。

王子は、宝石の鳥がどこにいるかを、考え続けました。

そのうち、彼は雄鶏の鳴き声を聞き、夜明けを知りました。

彼は注意して、その鳴き声を聞き、どこで鳴いているのか見当をつけました。

王子は、その鳴き声が、ラクシの部屋から聞こえてくるのを確信すると、やっと眠りにつきました。

次の日、ラクシが出かけると、娘は、王子を屋根裏から助け下ろし二人は、長い間、話し込みました。

王子は、娘にたずねました。

「夜明け前、鳴いていた雄鶏は、何だね？」

「あれは、小鳥よ。お母さんがベッドの下に、大事にしまっているわ。」

ラクシの娘は、答えました。

「どんな鳥だい？」

と、王子がたずねると、娘は答えました。

「宝石の鳥よ。」

王子は言いました。

「ぼくは、未だかつて、宝石の鳥というものを、見たことがないよ。見せてもらえないかな。」

「いいわよ。見せてあげるわ。」

と、娘は気軽に答え、王子をラクシの部屋へ、連れて行きました。王子は、すばやく、宝石の鳥をつかみ、娘に言いました。

「私は、この鳥を手に入れるために、ここに、来たのです。」

私は、これを持って行きます。どうぞ、騒がないで下さい。」ラクシの娘は、王子に、すぐるように頼みました。

「私には、何もしないでしょう？その鳥を持って行ってもいいわ。でも、私も連れて行って。あなたを、とても愛しているの。それに、お母さんが帰って来たら、殺されてしまうでしょう。」

王子は承知し、宝石の鳥と娘を連れて、すばやく馬に乗って、逃げ出しました。

ラクシは戻って来ると、宝石の鳥と娘が見えないので、あわてて彼等の後を、追いかけてました。

しばらく行ってから、王子は後ろから、ラクシが追いかけてくるのに気がつきました。

王子は、いつか行者がくれた小石のことを思い出し、それをラクシの方へ投げつけました。

突然、大きな山が、ラクシとの間に現れました。

しかし、しばらくすると、ラクシがその山を越えて、王子の後ろに迫って来ました。

そこで、彼は、二番目の行者がくれたいばらを思い出し、ラクシが追いかけて来る方へ、投げつけました。

すると、今度は、大きないばらの森が、二人の間に現れました。しかし、ラクシは、森のいばらをへし折って通り抜けると、又、王子を追いかけて来ました。

そこで、彼は、三番目の行者のくれた薪の燃えさしを投げつけました。

すると、それは大きな炎となって、燃えあがりました。

ラクシは、火におびえて、それを越えて追いかけて来ることは、できませんでした。

それで、王子は、宝石の鳥とラクシの美しい娘を連れて、帰ることができました。

王子は家に戻ると、宝石の鳥をお母さんに渡しました。

お母さんが、それを王様のところに持って行くと、王様は彼女に山のような宝物と領地の一部を与えました。

お母さんは、その後、息子とラクシの娘と一緒に、幸せに暮らしました。

* 高僧
** 鬼婆